

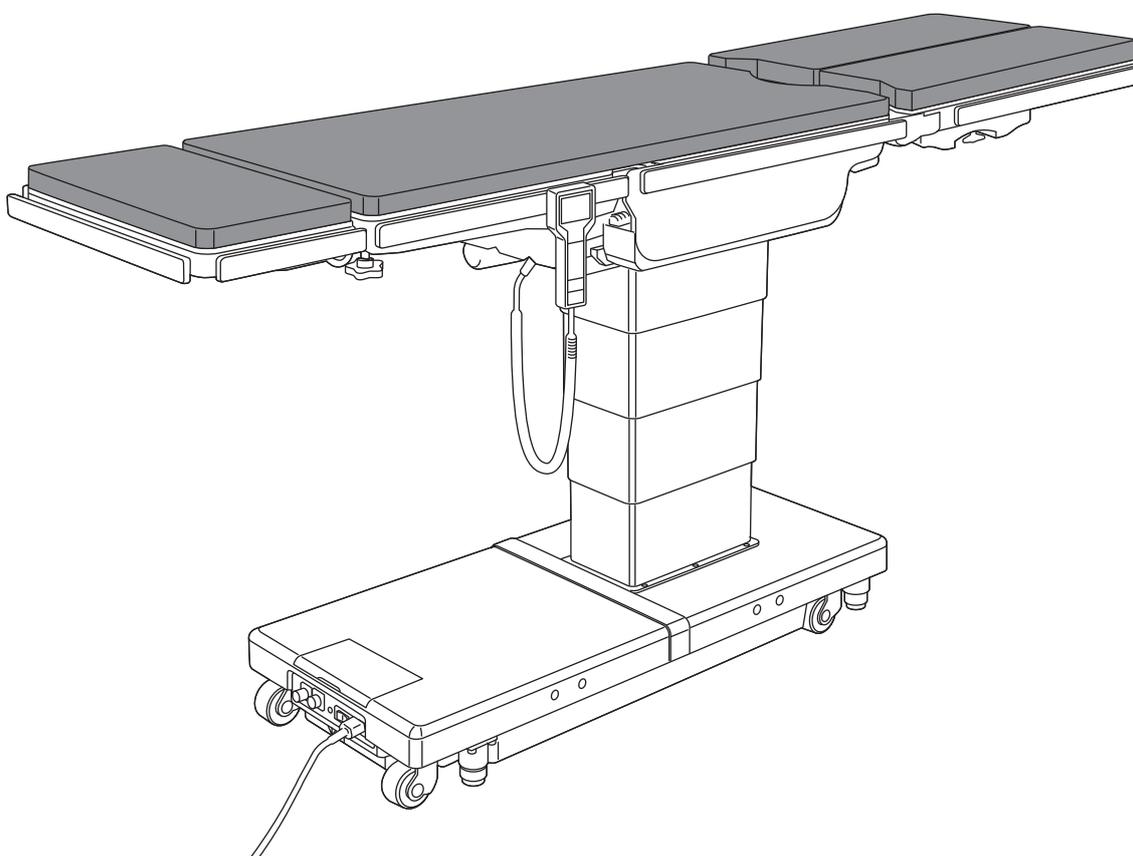


MIZUHO

手術台取扱説明書

MOT-VS700UIj

MOT-VS700UKIj



手術台は手術を目的として設計されています。手術以外の目的で使用すると重大な事故を起こすおそれがあります。

操作や保守を行う者は必ず注意事項等情報および本書を読んで内容を理解してください。本書は、この手術台に関わる者の参考のために適切な収納場所に保管して、必要なときに読めるようにしてください。

目次

1 章	はじめに	1
1.1	本書について	1
1.2	本機について	1
1.3	本機の操作について	2
1.4	付属品.....	2
2 章	保証について	4
3 章	お使いになる前に	5
3.1	お使いになる前にお読みください.....	5
3.2	ラベル内容と貼り付け位置	10
4 章	各部の名称	14
4.1	本体	14
4.2	操作ボックス	15
4.3	タッチパネル	17
4.4	フットスイッチ（オプション）	22
5 章	手術台の設置	23
5.1	手術台の設置	23
5.2	操作ボックスの取り付け・取り外し	24
5.3	電源の入れ方・切り方.....	27
5.4	手術台の充電	31
6 章	手術台の設定	32
6.1	水平・中点位置での一時停止機能の設定	32
6.2	赤外線モード	33
6.3	Bluetooth モード.....	35
6.4	リバースモード	40

7 章	手術台の操作	42
7.1	緊急停止スイッチの操作.....	42
7.2	手術台の固定と解除.....	43
7.3	テーブルトップを縦に傾ける（縦転）.....	44
7.4	テーブルトップを横に傾ける（横転）.....	45
7.5	背板を傾ける.....	46
7.6	テーブルトップの高さを変える.....	47
7.7	テーブルトップをスライドさせる.....	48
7.8	脚板を傾ける.....	49
7.9	フレックス／リフレックスにする.....	50
7.10	拳上器の高さを変える（MOT-VS700UKijのみ）.....	51
7.11	ビーチチェア.....	52
7.12	自動水平復帰.....	53
7.13	メモリー登録・操作.....	54
7.14	頭部板の調節.....	58
7.15	背板の着脱.....	60
7.16	ダブル脚板（オプション）の調節.....	63
7.17	シングル脚板（オプション）の着脱.....	66
8 章	保守と点検	68
8.1	使用前・使用後の点検.....	68
8.2	清掃・消毒.....	70
8.3	業者による保守点検事項.....	70
8.4	定期交換部品.....	71
8.5	ソフトウェアのバージョン情報.....	71
8.6	LAN コネクタ.....	72
9 章	仕様	73
9.1	仕様表.....	73
9.2	外観図.....	75
10 章	トラブルシューティング	76
10.1	操作ボックスが使えないときは.....	76
10.2	ブレーキが解除できないときは.....	78
10.3	エラー・警告が表示されたときは.....	79
11 章	修理を依頼する前に	81
付録 -1	EMC（電磁両立性）について	83
付録 -2	用語解説	86

1 章 はじめに

1.1 本書について

本書は、本機を安全に、効果的にご使用いただくための取扱説明書です。
本機をご使用いただく前に、必ず本書を読み、操作・点検事項を十分理解されてから使用してください。
本書に従わなかった場合、重大な事故に結びつくおそれがあります。

本書の警告および注意内容、または本機に貼り付けた警告および注意内容を理解していただくため、安全のための情報を以下のように使い分けています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

補足

この表示は、製品の機能について補足事項を示しています。

本書に記載されている操作・点検に関する注意事項は、本機を手術の目的に使用する場合に関するものです。
手術以外の目的に使用する場合、および本書に記載されていない操作・点検を行う場合の安全については、すべて使用者側の責任になります。

1.2 本機について

■ 手術台本体

本機は、手術が必要な患者を乗せて手術をするテーブルです。
本機は外科手術において、患者を支持することを目的としています。
目的とする手術に合わせて高さの調節や、患者の体位を自由に変えて固定する機構を備えています。
電源は医用コンセント電源式・電池電源式の併用式です。
病院の手術室において、本機の使用方法を熟知した医師・看護師・医療機器の技術者が使用してください。

■ タッチパネル

本機はタッチパネルを備えています。
タッチパネルには、本機の状態やエラー状態が表示されます。
タッチパネルについて詳しくは、P.17 を確認してください。

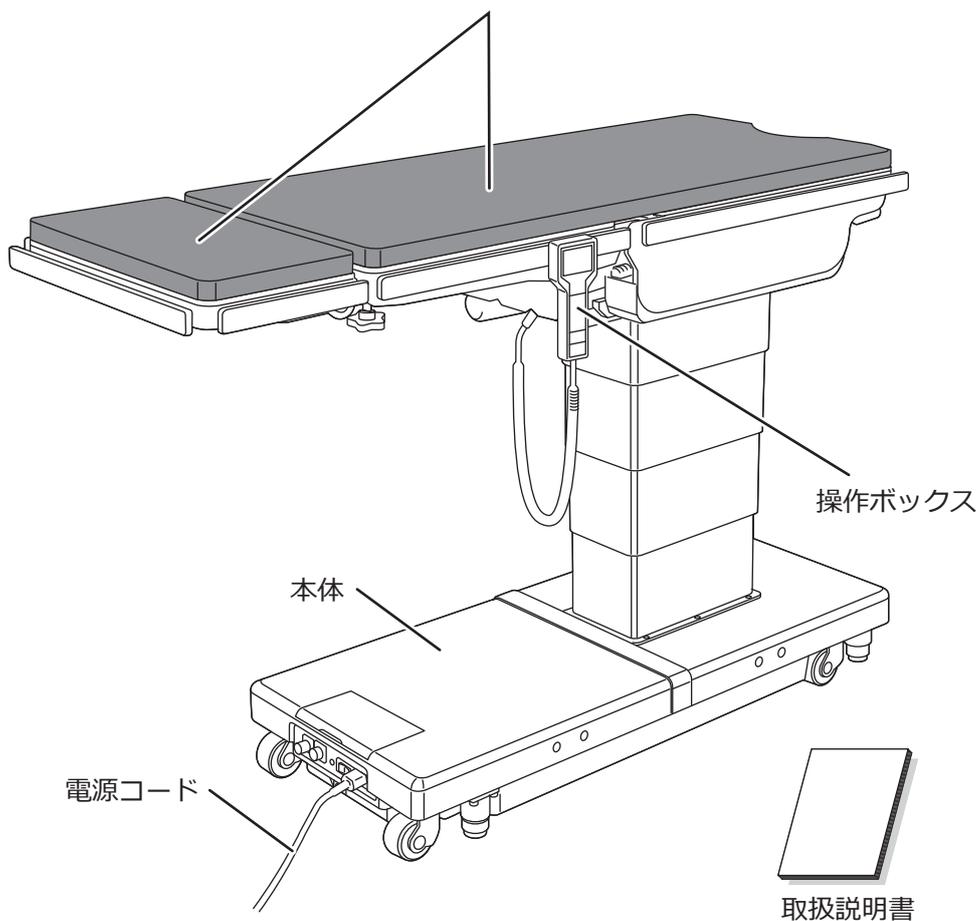
1.3 本機の操作について

本機の操作は、操作ボックスによる操作を中心に記載しています。タッチパネルのみ可能な操作は、タッチパネルの操作を記載しています。

1.4 付属品

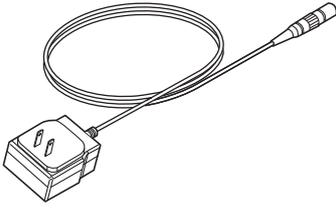
■ 標準構成

ミズホオリジナル難燃・防水性マットレス
(頭部板 タイプA、背板・腰板 タイプA)

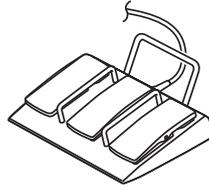


■ オプション

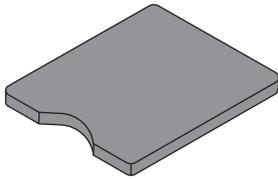
● 操作ボックス充電アダプタ



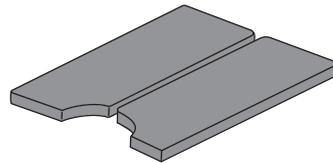
● フットスイッチ



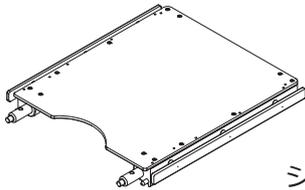
● 脚板、ミズホオリジナル難燃・防水性マットレス



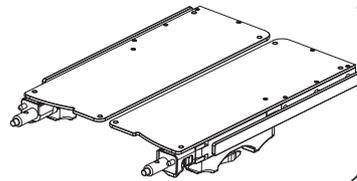
シングル脚板
タイプ A



ダブル脚板
タイプ A

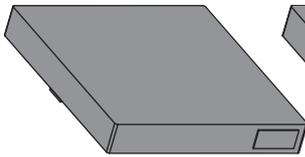


シングル脚板

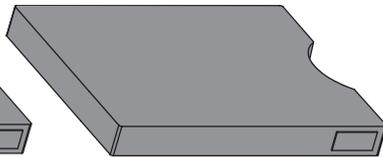


ダブル脚板

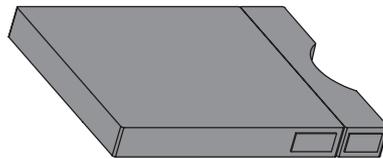
● ミズホオリジナル難燃・防水性マットレス



背板 タイプA



腰板 タイプA



腰板 タイプB

2章 保証について

本製品は下記の保証修理規定に従って修理いたします。

<保証修理規定>

1. 保証期間は納品／設置日から1年間です。保証期間内に注意事項等情報・取扱説明書・貼付ラベル等の注意書に従ったご使用で故障した場合には無償修理をさせていただきます。
2. 修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店または弊社営業所にお申しつけください。お申しつけに当たっては以下の内容をご連絡ください。
 - (ア) 型名
 - (イ) 製造番号（製品のラベルをご確認ください※）
 - (ウ) 故障の状態
3. 保証期間内でも以下の場合には原則として有料にさせていただきます。
 - (ア) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - (イ) お買い上げ後の設置場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (ウ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷。
 - (エ) 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷。
 - (オ) 消耗製品が自然劣化し消耗部品を取り替える場合。
 - (カ) 前各号に掲げる場合のほか、故障の原因が、お客様の使用方法にあると認められる場合。
4. 保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社営業所にお問い合わせください。
5. 本規定は日本国内においてのみ有効です。

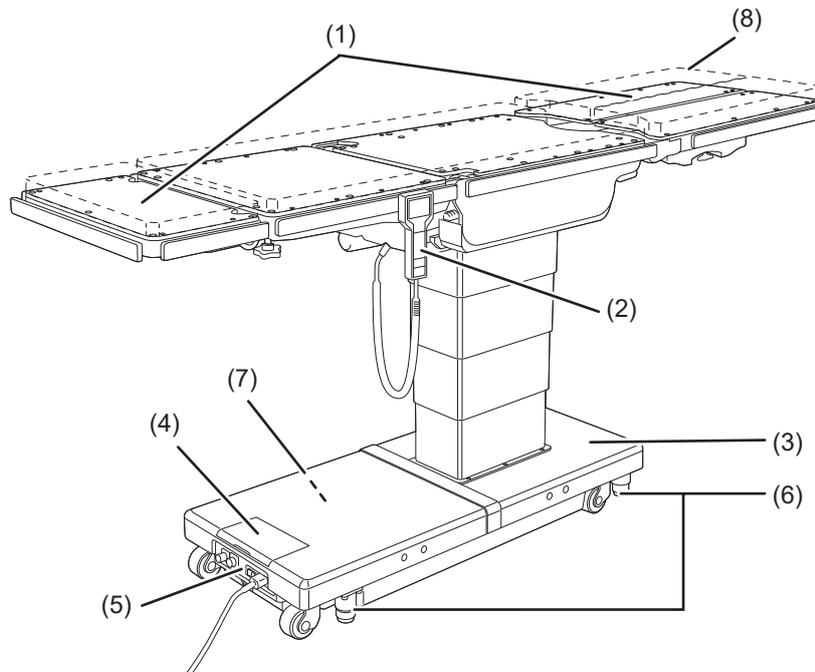
以上

※製造番号は、P.11 のラベル (15) SN をご確認ください。

3章 お使いになる前に

3.1 お使いになる前にお読みください

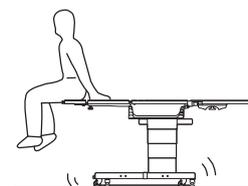
本機を使用するにあたって、以下の警告・注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。



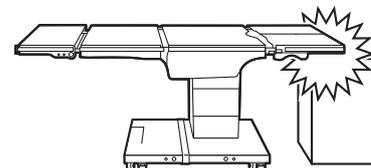
(1) 頭部板および脚板



頭部板や脚板の上に乗ったり座ったりしないでください。
転倒、けがのおそれがあります。



下降および縦転頭上げを作動するときは、脚板下の機器等の有無を確認してください。
脚板が機器等に接触して無理な力が加わると、手術台が破損するおそれがあります。



患者を手術台から移し替えるとき(図a)や患者の体位を変えるとき(図b)は、頭部板または脚板に無理な力を加えないでください。手術台が変形または損傷するおそれがあります。

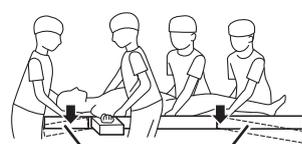


図 a 頭部板 脚板



図 b 頭部板 脚板

(2) 操作ボックス



注意

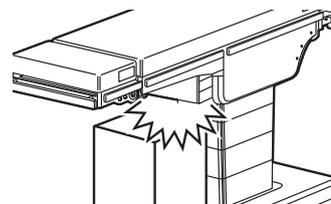
- 操作ボックスのコードを無理に引っ張らないでください。
- 操作ボックスに強い衝撃を与えないでください。破損するおそれがあります。
- リバースモードやメモリー操作モードになっている場合は、必要に応じて  を押して、通常モードに戻してください。

(3) ベース部分



注意

ベースの上に物を置かないでください。物がはさまり、手術台が損傷するおそれがあります。



(4) タッチパネル



注意

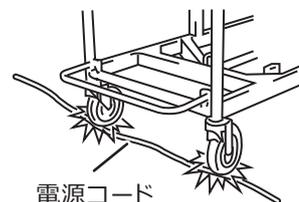
- タッチパネルをペンやドライバなど、先の尖った物で押さないでください。破損するおそれがあります。
- タッチパネルに強い衝撃を与えたり、必要以上に強く押ししたりしないでください。破損するおそれがあります。
- タッチパネルのディスプレイ、保護カバーをシンナーなどの有機溶剤で拭かないでください。破損するおそれがあります。ディスプレイ、保護カバーを拭くときは、水で薄めた中性洗剤を使用してください。
- タッチパネルは、多重押しやフリック操作に対応していません。タッチパネルを操作するときは、スイッチをひとつずつ押してください。
- タッチパネルを使用しないときは、保護カバーを閉じてください。

(5) 電源コード・電源コネクタ・フットスイッチコネクタ・LAN コネクタ



警告

- 電源コードの上に重量物を置かないでください。
- 他の機器のキャスター等で乗り越えないでください。
- 電源コードは無理に引っ張らないでください。
- 電源コードを医用コンセントから引き抜く位置に、引き抜く作業を妨げる物を置かないでください。
- 電源コネクタ内に液体等が浸入しないよう、ビニールシート等で覆うなどの防水対策をしてください。電源コネクタ内に液体等が浸入すると、火災・破損の原因になります。



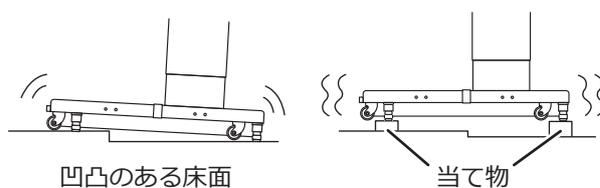
注意

フットスイッチコネクタとLAN コネクタのフタは、使用するとき以外は外さないでください。液体や埃が入り、接触不良になるおそれがあります。

(6)手術台の設置



- 手術台を凹凸のある床面に設置しないでください。
- 手術台を高くするために手術台の下に当て物を入れないでください。転倒、けがのおそれがあります。



(7)バッテリー



- バッテリーは必ず1カ月に1回は充電してください。使用しないときでも自然放電します。極度に消耗すると使用できなくなるおそれがあります。
- 電源コードを差したままであっても、長時間過ぎるとバッテリーは自然放電します。電源コードを差して運用する際は、再充電を行うために下記のどちらかの操作を定期的に行ってください。
 - 電源コードを抜き差しする。
 - 電源スイッチを OFF にした後に再度 ON にする。

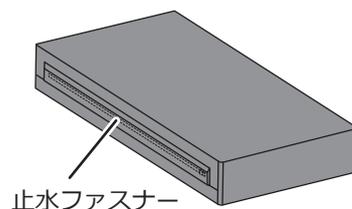
(8)マットレス



付属のマットレスを外れないように確実に取り付けてください。マットレスがずれ落ちて、けがをするおそれがあります。



- マットレスは端から面ファスナーに沿って真っ直ぐ取り付けてください。特に、長いマットレスは表面にしわができないように手で支えながら取り付けてください。マットレスに浮きや反りがあると変形や破損の原因になります。
- マットレスに直接テープ等を貼付しないでください。破損の原因になります。
- マットレスは平らな場所に置いて保管してください。立てかけたり折り曲げたりすると変形や破損の原因になります。
- マットレスの上に手術台アクセサリーや他の医療機器等を載せて保管しないでください。変形や破損の原因になります。
- マットレスは、適切な取り付け方で使用で防水性が維持されます。適切な取り付け方以外での使用は内部に液体が浸入し、劣化の原因になります。
- マットレスの止水ファスナーに液体が掛かった場合は速やかに拭き取ってください。止水ファスナー部を濡れたままにすると内部に液体が浸入し、劣化の原因になります。
- マットレスの止水ファスナー部は開けないでください。内部に液体が浸入し、劣化の原因になります。



■ 使用時のポジション



患者のポジションは、サイドレール（金属）から 10 mm 以上離して設定してください。
電気メスなどの使用でサイドレールが高温になり、触れると火傷をするおそれがあります。

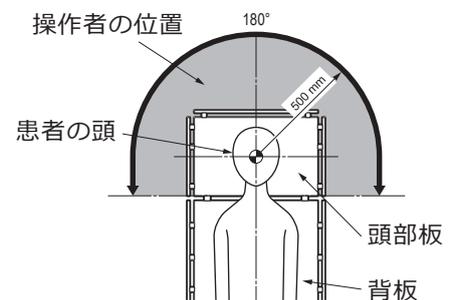
● 患者のポジション

患者のポジションを設定するときは、以下の手順で行ってください。

1. テーブルトップと付属のマットレスの面ファスナーをずれないように合わせて取り付けます。
2. 患者をマットレスに乗せます。
3. 手術の目的に合わせたポジションを設定します。



手術台を操作する者は、緊急停止スイッチを即座に押せる位置および患者の容態を常に観察できる位置で操作してください。



■ その他



● 分解・改造の禁止

- ・ 手術台を分解または改造しないでください。故障の原因になります。

● 患者の体位

- ・ 患者の任意の体位を確保するためにテーブルトップを作動させる、または患者をアクセサリで支持するときは、常に患者の状態を監視してください。長時間の体位保持は神経麻痺や褥瘡の原因になります。

● 併用する他の医用電気機器

- ・ 高周波手術用機器、除細動器等を併用するときは当該機器の取扱説明書を参照して、注意事項および使用方法を遵守してください。注意事項および使用方法を誤ると患者・操作者が火傷、および機器に障害がおきるおそれがあります。
- ・ 医用電気機器等を併用するときは、使用前に正常に作動することを確認してください。電磁的影響による誤作動が発生するおそれがあります。

● 許容患者体重

- ・ 許容患者体重（患者およびアクセサリの合計）を超える荷重（注）をかけないでください。手術台が作動せず、また故障の原因になります。
注）昇降：450 kg / 昇降以外の作動：360 kg / リバースモード：135 kg

● 保守点検

- ・ 使用前・使用後の点検、および適切な保守点検を必ず行ってください。使用期間または使用頻度によっては、部品の著しい消耗・劣化・破損等により、該当部品の交換が必要な場合があります。
- ・ 保守点検については、ご購入店または弊社に相談してください。



● 静電気防止

- 静電気対策が不十分な床またはアクセサリーで使用しないでください。手術の障害になるおそれがあります。



● 併用する機器やアクセサリー

- 機器やアクセサリーを併用する前に、それぞれの注意事項等情報または取扱説明書をよく読んで、手術台への影響を確認してください。他社製のアクセサリーを取り付ける場合は、事前にご購入店または弊社に相談してください。アクセサリーが装着できない場合があります。
- 手術台を作動するときは、併用する機器やアクセサリーの位置を確認してください。作動中に接触して、手術台または併用する機器やアクセサリーが損傷するおそれがあります。
- 衛生のため、患者が手術台に触れる部分には必ず滅菌済ドレープを使用してください。

● 移動時および輸送時の注意

- 患者を手術台に乗せた状態で手術台を移動しないでください。
- 手術台を移動するときは、以下の手順で行ってください。
 - ※感染防止のため、手術台を移動するときは必要に応じて手術台全体を消毒してください。
 - 1. 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
 - 2. ハンドルやレバー類が固定の位置になっているか、また各部がしっかりと固定されているか確認します。
 - 3. ブレーキを解除して、手術台を移動します。
 - ※頭部板や脚板を引いて手術台を移動しないでください。
- 輸送は以下の条件を満たした状態で行ってください。
 - 1. 輸送の前に、必ず手術台全体を消毒する。
 - 2. テーブルトップを最低位置まで下げるなど、転倒防止の対策をする。
 - 3. ブレーキを作動させる。
 - 4. 緩衝材などを適切に配置し、輸送中の衝撃による破損を防ぐ。
 - 5. コンテナなどに収納して、埃や風雨にさらされないようにする。

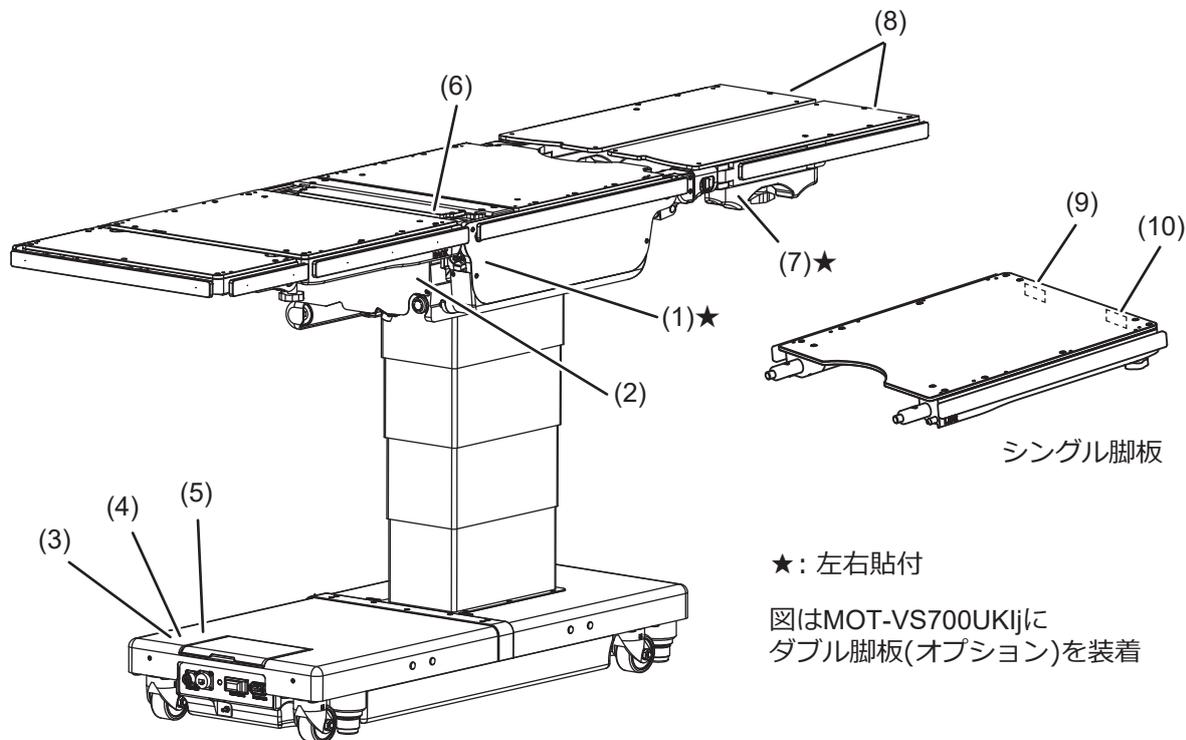
● 廃棄時の注意

- 手術台を廃棄するときは、関係する法律または地方自治体の条例に基づいて適切に処置してください。

3.2 ラベル内容と貼り付け位置

本機には下記の位置に各種ラベルが貼り付けてあります。
ご使用になる前に必ず各種ラベルの内容を確認してください。

■ 警告・注意ラベル



★: 左右貼付

図はMOT-VS700UKijに
ダブル脚板(オプション)を装着

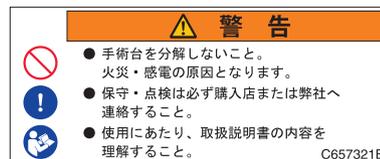
(1) C655712□



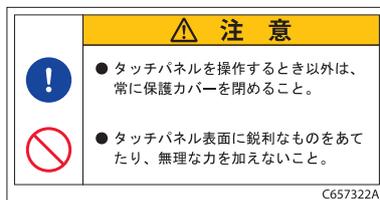
(2) C653614□



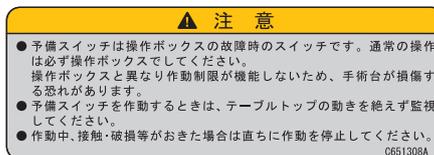
(3) C657321□



(4) C657322□

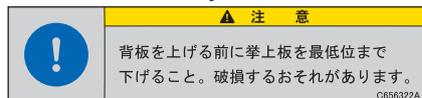


(5) C651308□



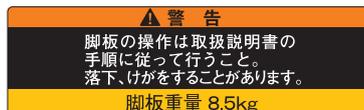
(6) C656322□

(MOT-VS700UKij のみ)



(7) C643018□

(ダブル脚板のみ)



(8) C655713□

(ダブル脚板のみ)



(9) C653637□

(シングル脚板のみ)

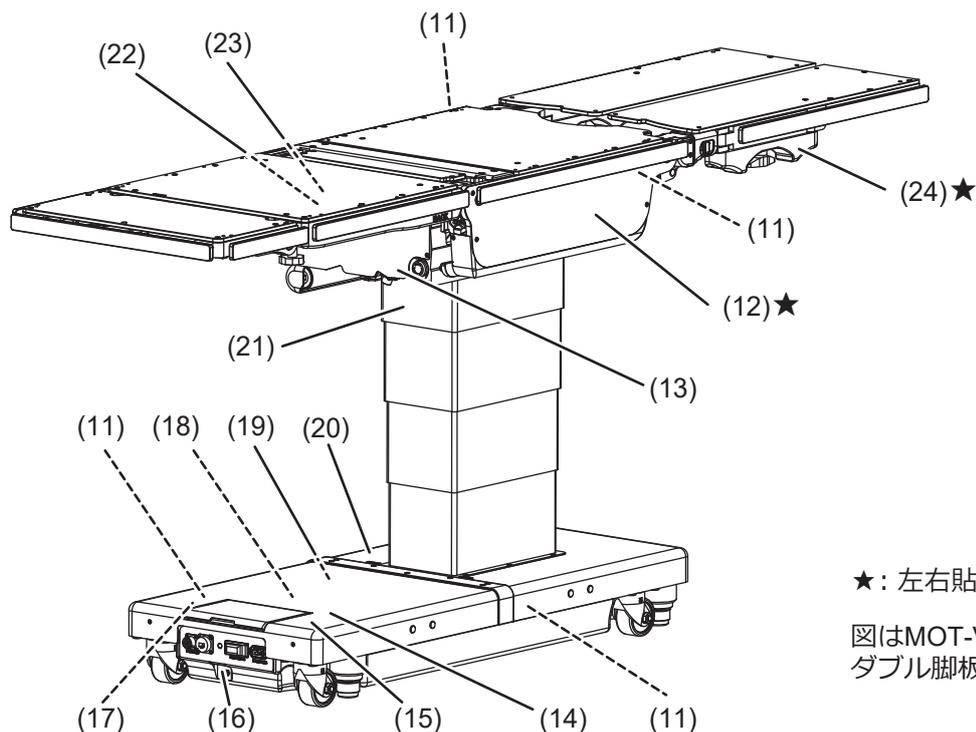


(10) C653636□

(シングル脚板のみ)



■ その他のラベル (1/2)



★: 左右貼付

図はMOT-VS700UKIjに
ダブル脚板(オプション)を装着

(11) C655001□



(12) C640018□ (MOT-VS700UIj)



C640021□ (MOT-VS700UKIj)



(13) C657310□



(14) C657313□



(15) C600876□

販売名:		
一般医療機器	V ~	50-60Hz
汎用電動式手術台	VA	24V =
特定保守管理医療機器	3分 ON. 分 OFF	EMC適合
製造販売届出番号: 13B1X00306		IPX4
SN:	クラス I 機器	B形装着部
製造販売業者 ミズホ株式会社		
〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-13 http://www.mizuho.co.jp		

(16) C653513□



(17) C655002□



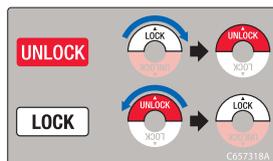
(18) C644004□



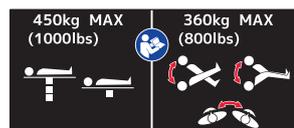
(19) C655711□



(20) C657318□



(21) C653612□



(22) C600020□



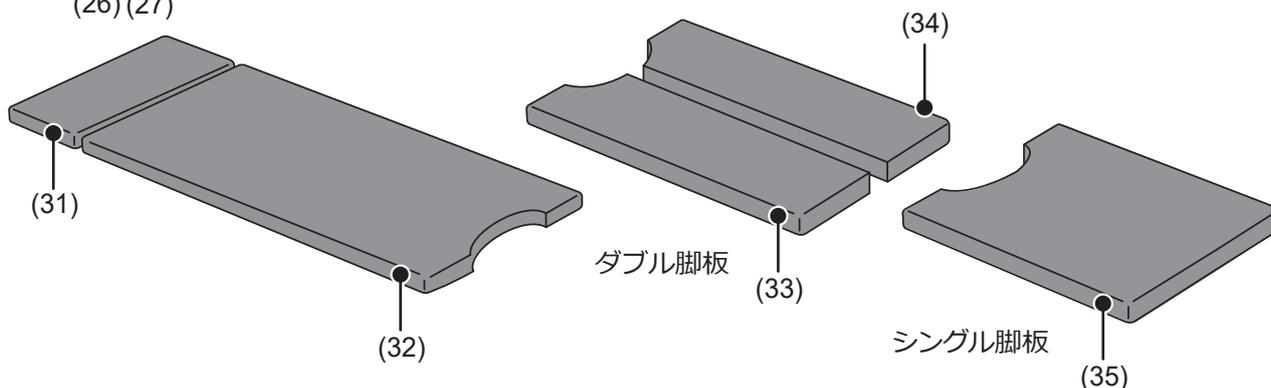
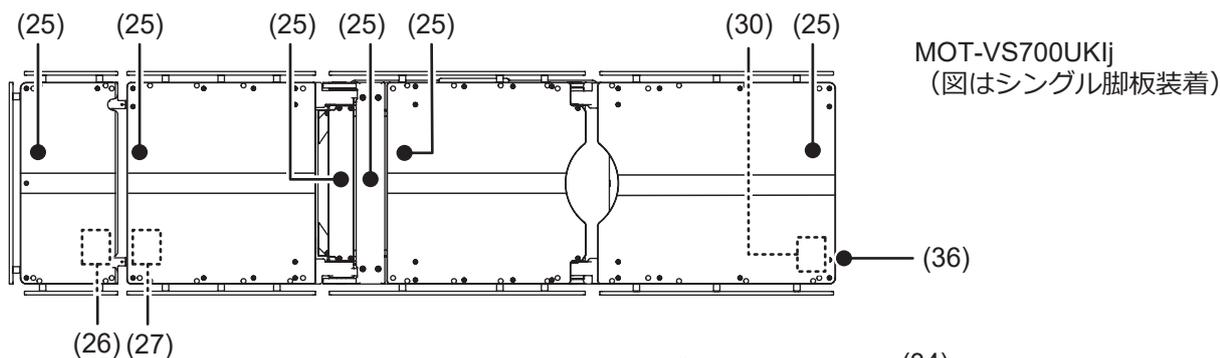
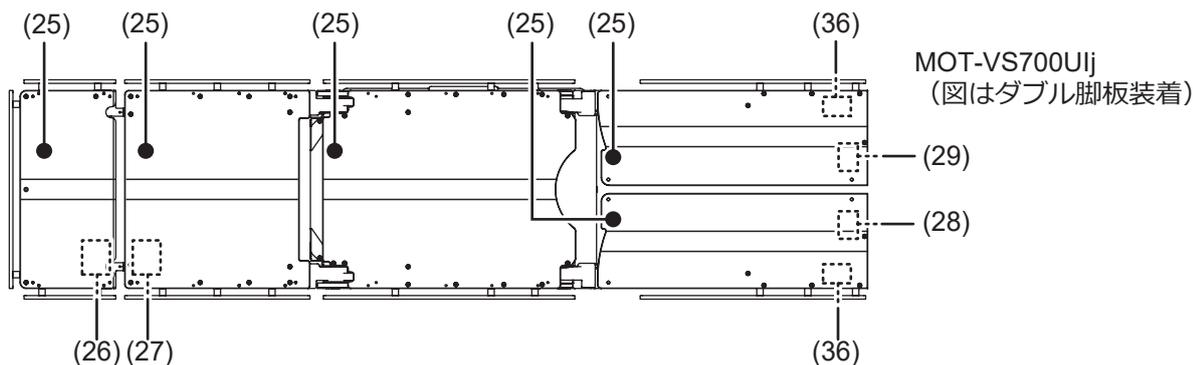
(23) C655717□



(24) C644012□



■ その他のラベル (2/2)



(25) C653620□



(26) C646060□



(27) C646061□



MOT-VS700Ulj

(27) C646084□



MOT-VS700UKlj

(28) C646063□



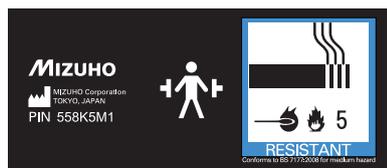
(29) C646062□



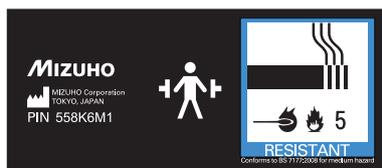
(30) C646095□



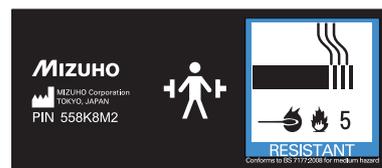
(31) PIN 558K5M1



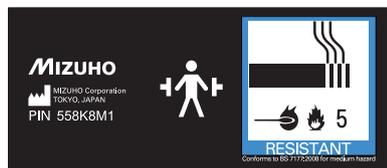
(32) PIN 558K6M1



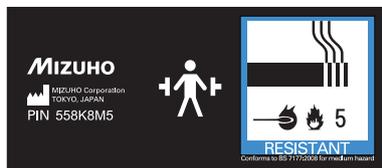
(33) PIN 558K8M2



(34) PIN 558K8M1



(35) PIN 558K8M5



(36) C680038□



■ 安全記号一覧

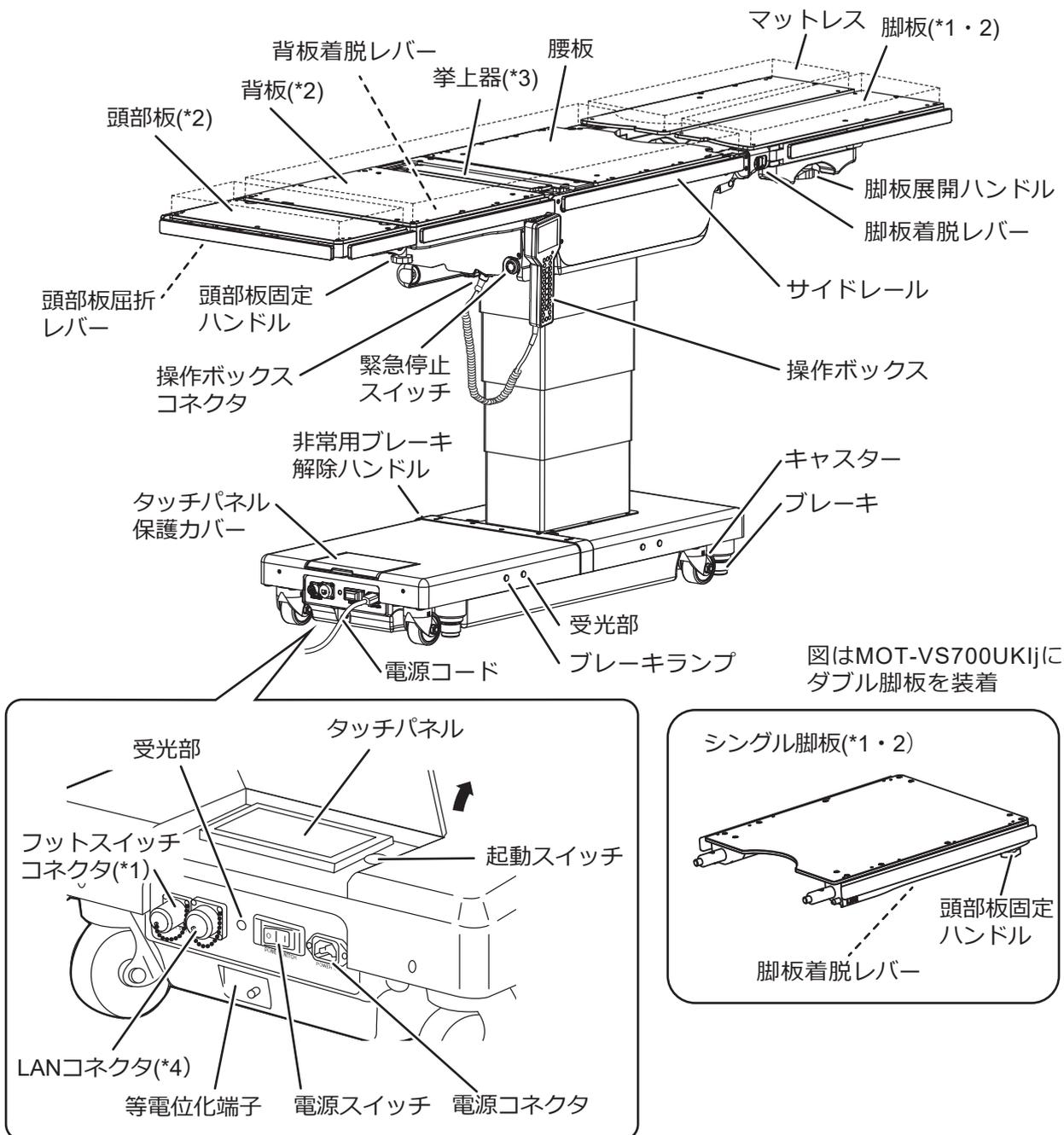
記号	解説	ラベル No.
	一般的な危険標識（警告、注意）	(1) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)
	一般的な禁止標識	(1) (3) (4) (8)
	一般的な指示	(3) (4) (6)
	緊急停止	(2)
	取扱説明書に従うこと	(2) (3) (14) (18) (21)
	交流	(15)
	直流	(15)
IPX4	水の浸入に対する保護等級	(15)
	製造番号	(15) (36)
	カタログ番号	(36)
	等電位	(16)
	B 形装着部	(25)
	耐除細動形の B 形装着部	(31) (32) (33) (34) (35)
	製造業者	(31) (32) (33) (34) (35)
	BS7177 マットレス、ソファの火炎試験 分類：中程度の危険性に適合 (Medium Hazard [5])	(31) (32) (33) (34) (35)

4章 各部の名称

4.1 本体

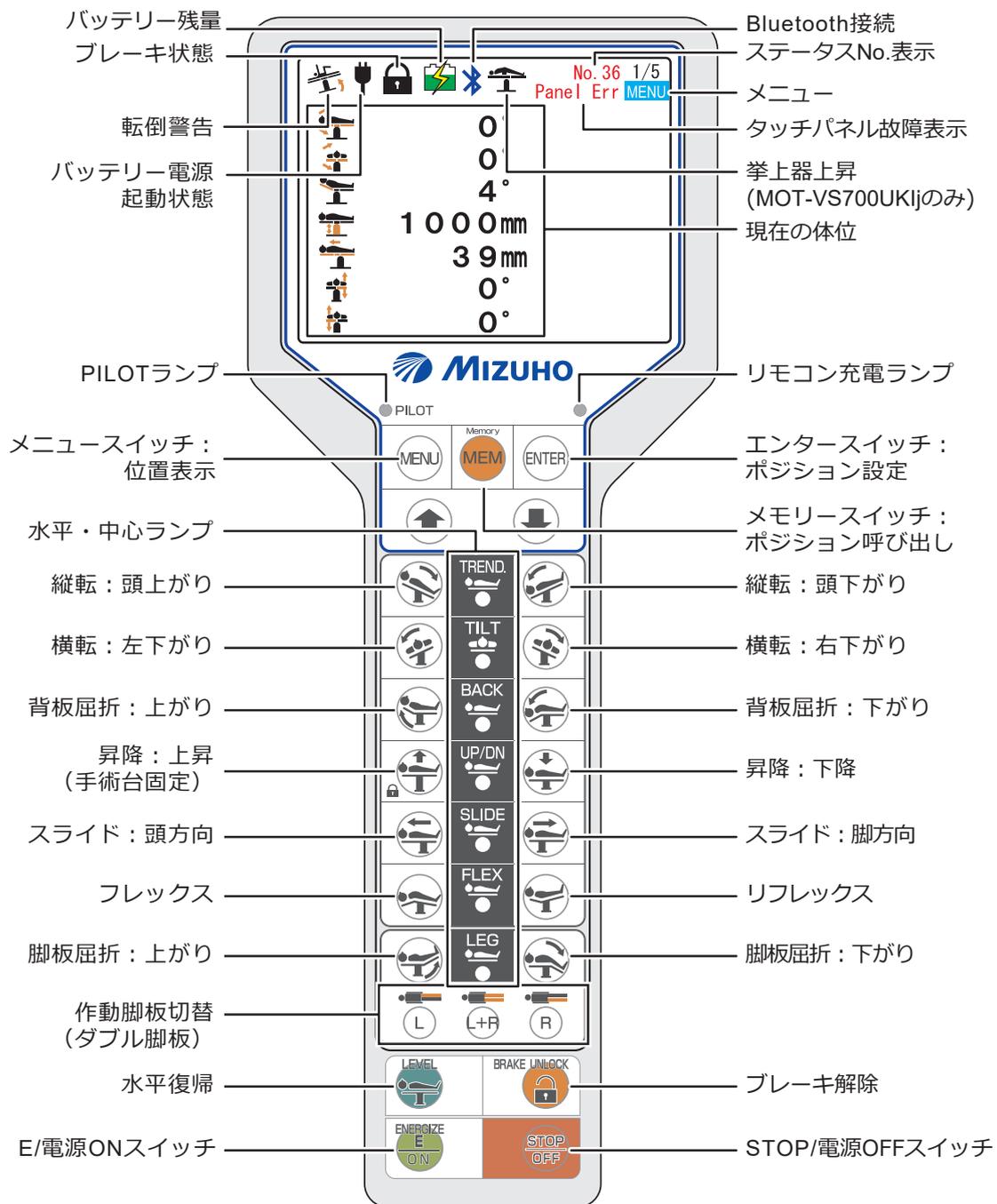
4

各部の名称



- * 1 : ダブル脚板、シングル脚板およびフットスイッチはオプションです。
- * 2 : 頭部板、背板および脚板は取り外し可能です。
- * 3 : MOT-VS700UKIj のみ。
- * 4 : LAN コネクタはメンテナンス用です。PC 等の機器を接続しないでください。

4.2 操作ボックス



補足

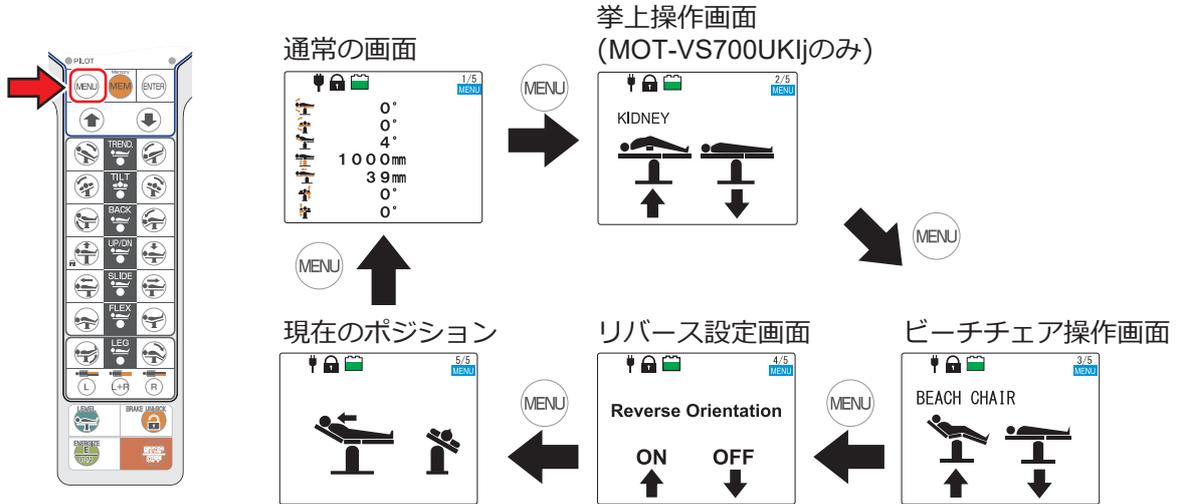
- 機能スイッチ (E スイッチ以外のスイッチ) は押し続けている間、作動します。
- ON を押し続けると、機能スイッチが点灯します。機能スイッチが点灯している間に機能スイッチを押すと、その機能が作動し、PILOT ランプが点灯します。ON を押し続ける前に機能スイッチを押してもその機能は作動しません。
- リモコン充電ランプは、充電が必要な場合に点滅し、充電中に点灯します。
- 水平・中心ランプは、テーブルトップがそれぞれの操作において水平または中点の状態の場合に点灯します。
- 破損防止のため、手術台は操作中に自動的に停止し、操作ボックスにメッセージを表示することがあります。操作停止からの具体的な復帰手順は、P.79 を確認してください。
- 操作ボックスを赤外線モードで使用する場合、モニター画面には何も表示されません。ただし、MENU を押し続けると、ビーチチェア、拳上 (MOT-VS700UKIj のみ) の操作画面が表示されます。
- バッテリー電源で使用中、3 分以上操作しないと自動的に電源が OFF になります。

■ メニュースイッチ

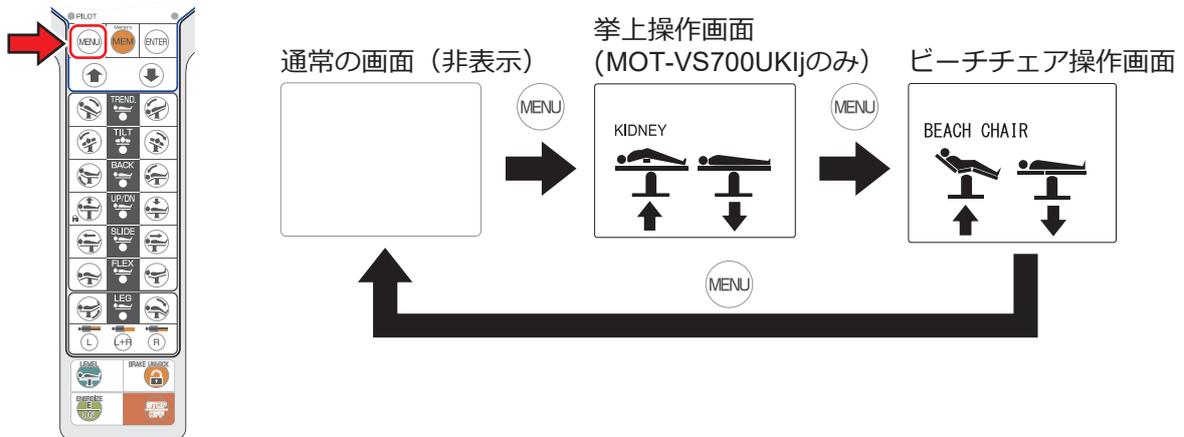
操作ボックスの **(MENU)** を押すと、次のように画面表示が遷移します。

拳上 (MOT-VS700UKIjのみ) またはビーチチェアの操作を行うときは、メニュースイッチで該当画面を選択してから行ってください。

● 有線接続、ワイヤレス (Bluetooth モード) で使用するとき

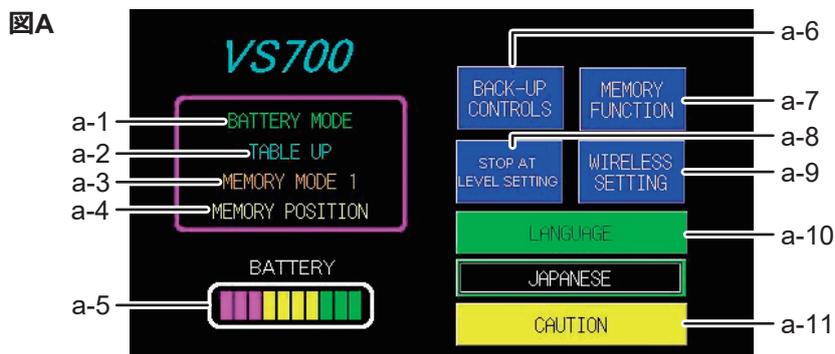


● ワイヤレス (赤外線モード) で使用するとき



4.3 タッチパネル

■ トップ画面



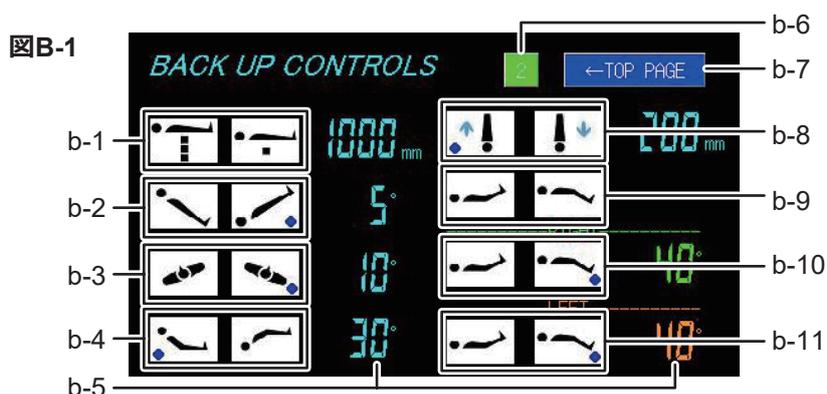
番号	名称	番号	名称
a-1	電源表示 (AC/BATTERY)	a-6	BACK-UP CONTROLS 画面表示
a-2	作動中の体位	a-7	MEMORY FUNCTION 画面表示
a-3	使用中のメモリーモード	a-8	STOP AT LEVEL SETTING 画面表示
a-4	メモリー体位完了表示	a-9	WIRELESS SETTING 画面表示
a-5	バッテリーインジケータ	a-10	言語選択
		a-11	注意・警告画面表示

補足

- タッチパネルは誤作動防止のため、1分以上操作しないと自動的に消灯します。
- タッチパネルを再表示するには、 または起動スイッチを押すかタッチパネルに触れてください。

■ BACK-UP CONTROLS 画面

● BACK-UP CONTROLS 画面 (1/2 ページ)



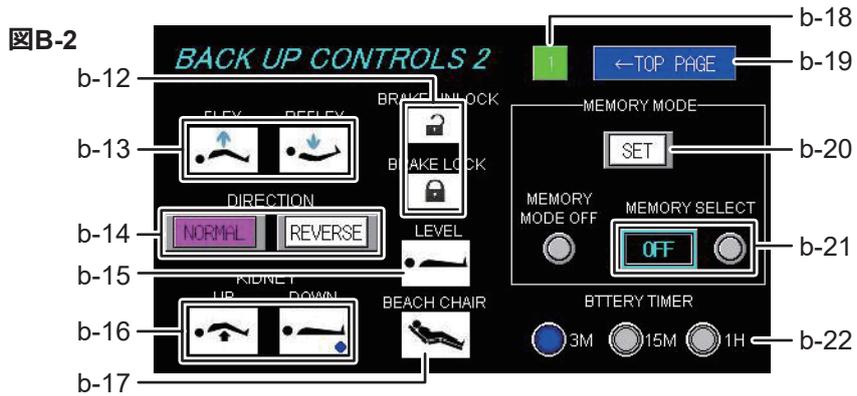
番号	名称	番号	名称
b-1	昇降 (上昇/下降)	b-6	ページ切り替え
b-2	縦転 (頭上がり/頭下がり)	b-7	トップ画面表示
b-3	横転 (左下がり/右下がり) : *1	b-8	スライド (脚方向/頭方向)
b-4	背板屈折 (上がり/下がり)	b-9	脚板屈折 (上がり/下がり) : *2
b-5	体位表示 (スライド量/角度)	b-10	右脚板屈折 (上がり/下がり) : *3
	現在の体位の向き	b-11	左脚板屈折 (上がり/下がり) : *3

*1 : 頭側から見て

*2 : シングル脚板またはダブル脚板左右同時

*3 : ダブル脚板装着時のみ表示

● BACK-UP CONTROLS 画面 (2/2 ページ)



番号	名称	番号	名称
b-12	ブレーキ (解除/固定)	b-18	ページ切り替え
b-13	フレックス/リフレックス	b-19	トップ画面表示
b-14	リバースモード切り替え: *4	b-20	メモリーセットアップ
b-15	水平復帰	b-21	メモリーセレクト
b-16	拳上器 (上昇/下降): *5	b-22	バッテリー駆動時節電タイマー
b-17	ビーチチェア		

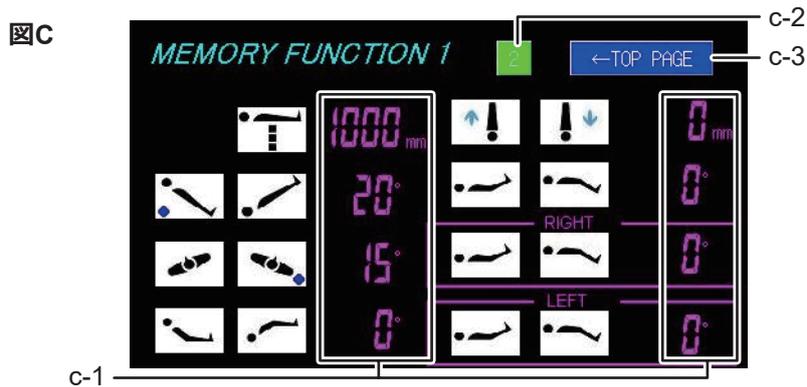
*4: 選択時赤点灯

*5: MOT-VS700UKIj のみ

補足

- BACK-UP CONTROLS 画面の詳細は、P.76 を確認してください。
- タッチパネルでリバースモードの切り替えは可能です。
- BACK-UP CONTROLS 画面はリバースモードに対応していません。

■ MEMORY FUNCTION 画面



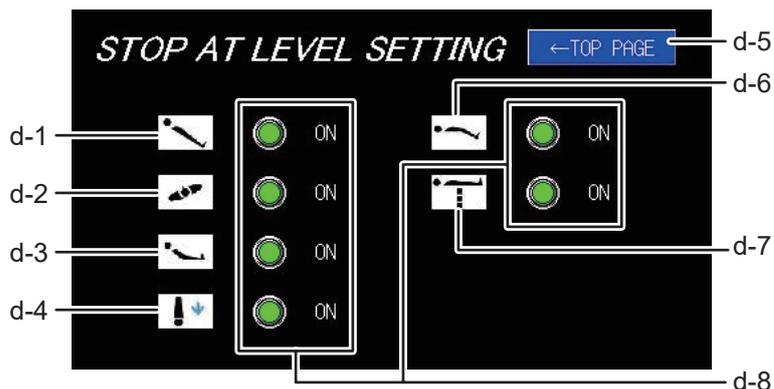
番号	名称	番号	名称
c-1	設定体位	c-2	ページ切り替え
		c-3	トップ画面表示

補足

MEMORY FUNCTION 画面の詳細は、P.55 を確認してください。

■ STOP AT LEVEL SETTING 画面

図D



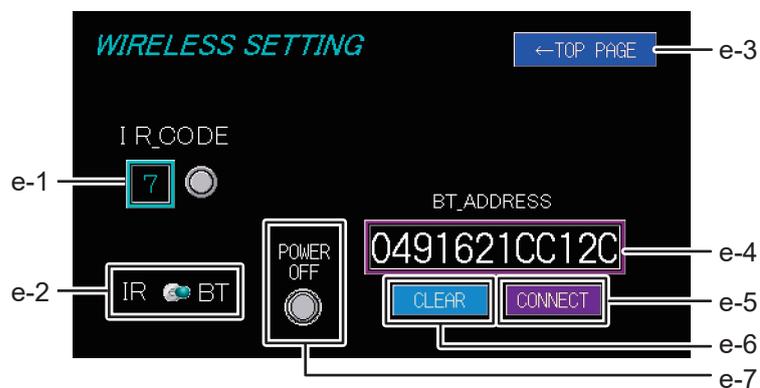
番号	名称	番号	名称
d-1	縦転	d-5	トップ画面表示
d-2	横転	d-6	脚板屈折
d-3	背板屈折	d-7	昇降
d-4	スライド	d-8	一時停止 ON/OFF

補足

- STOP AT LEVEL SETTING 画面の詳細は、P.32 を確認してください。
- 工場出荷時（初期設定）では、すべての機能が ON に設定されています。

■ WIRELESS SETTING 画面

図E



番号	名称	番号	名称
e-1	IR code	e-3	トップ画面表示
e-2	モード選択	e-4	Bluetooth アドレス
		e-5	コネクトスイッチ：*6
		e-6	クリアスイッチ：*6
		e-7	強制終了スイッチ：*6

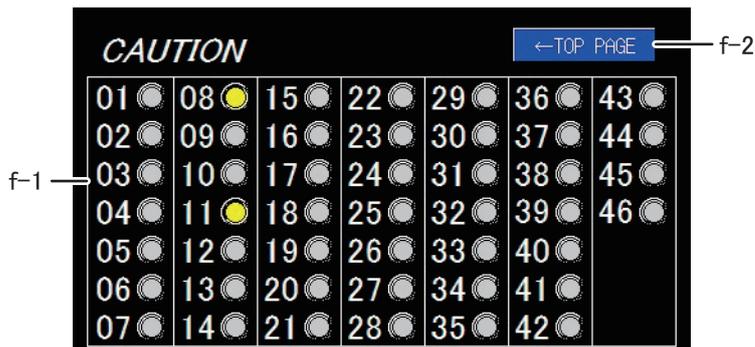
*6：Bluetooth モードの場合のみ

補足

WIRELESS SETTING 画面の詳細は、P.33（赤外線モード）または P.35（Bluetooth モード）を確認してください。

■ 注意・警告表示画面

図F-1



■ エラー表示画面

図F-2



番号	名称	番号	名称
f-1	詳細表示	f-3	エラー番号／メッセージ
f-2	トップ画面表示	f-4	前の画面に戻る

補足

- 破損防止のため、手術台は操作中に自動的に停止し、上図のような注意・警告表示画面またはエラー表示画面を表示することがあります。操作停止からの具体的な復帰手順は、P.79を確認してください。
- 2つ以上の注意・警告がある場合、注意・警告表示画面から各エラーを確認できます。ランプが点灯しているエラー番号をタップすると、エラー表示画面が表示されます。
- トップ画面の言語選択で選択した言語は、エラー表示画面のメッセージにのみ反映されます。
- エラー表示画面の言語は、英語・日本語・中国語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・ロシア語・イタリア語・スペイン語に対応しています。

■ 特殊なエラー表示画面

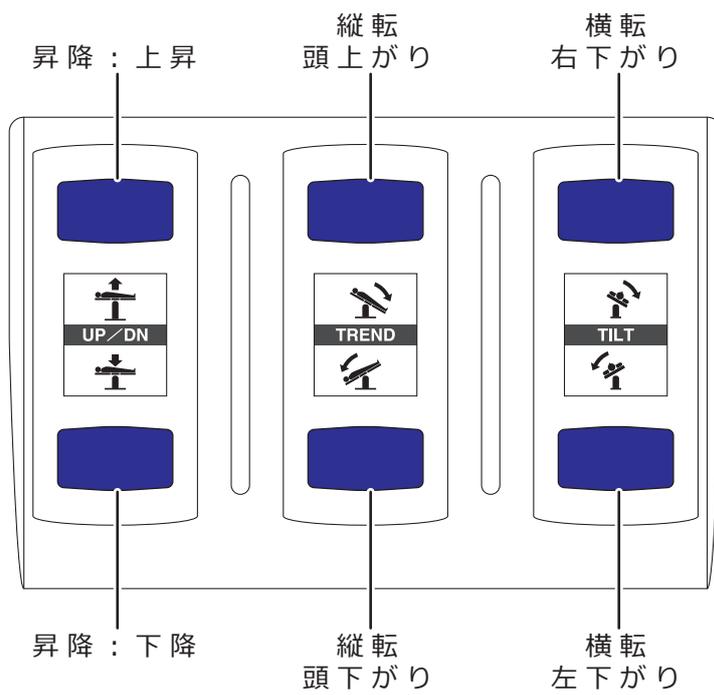
図 F-3



補足

- 上図のような特殊なエラー表示画面を表示することがあります。
- タッチパネルの接続エラー、内部のメモリーエラーの可能性がります。
- 手術台の電源を OFF にした後、再度 ON にしても特殊なエラー表示画面が表示される場合は、ご購入店または弊社に修理を依頼してください。
- 特殊なエラー表示画面は、多言語に対応していません。

4.4 フットスイッチ (オプション)



補足

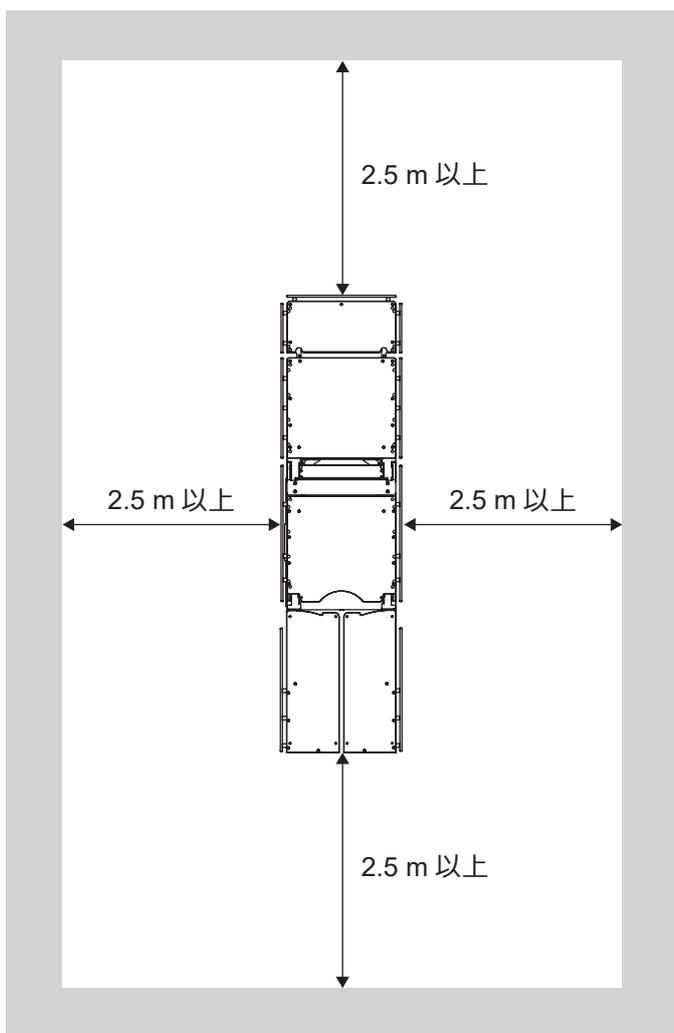
フットスイッチはリバースモードに対応していません。

5 章 手術台の設置

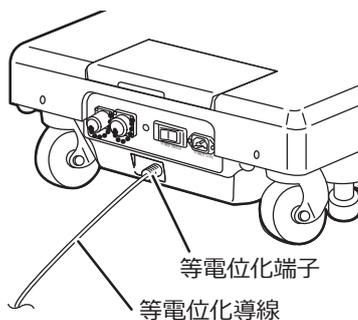
5.1 手術台の設置

■ 設置スペース

本機の設置スペースは以下のとおりです。
(JIS T 1022 : 病院電気設備の安全基準)



- 等電位化端子と医用接地端子を等電位化導線で接地してください。等電位化導線は別途用意してください。
- 本機を移動させる際は、2人以上で行ってください。

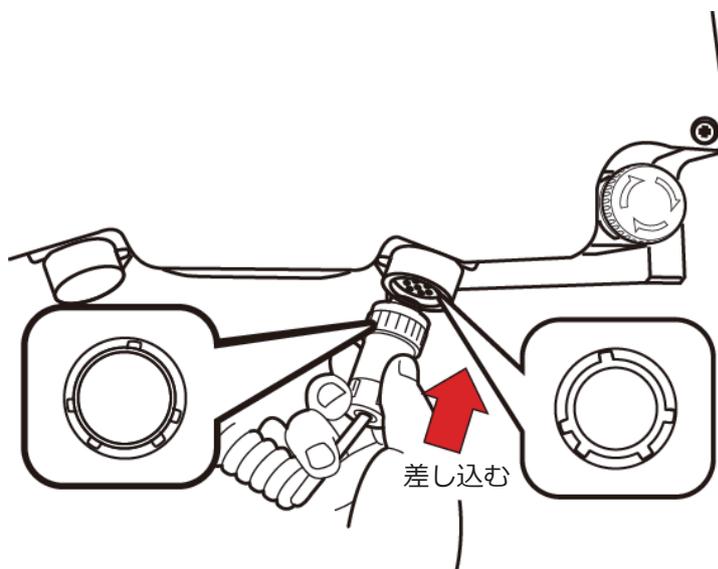


1. 本機を平らな場所に移動して設置します。

5.2 操作ボックスの取り付け・取り外し

■ 操作ボックスの取り付け

1. コネクタをガイドに合わせて差し込みます。



■ 操作ボックスの取り外し

1. コネクタのリングを矢印方向に止まるまで回します。
2. 止まったら手前に引き抜きます。



■ 操作ボックスをワイヤレスで使用する

操作ボックスは、本機から取り外してワイヤレスで 사용할 ことができます。また、ワイヤレスでの接続モードとして、「赤外線モード」と「Bluetooth モード」があります。初期設定では、赤外線モードに設定されています。



操作ボックスをワイヤレスで使用する場合、周辺の医療機器からの赤外線や外乱光の影響により接続が途切れる等の操作障害を受けることがあります。

補足

- 赤外線モードの設定方法は、P.33 を確認してください。
- Bluetooth モードの設定方法は、P.35 を確認してください。

● ワイヤレス状態にする



コネクタ部分を持って取り外してください。コードを持って取り外すと、コードが断線するおそれがあります。

1. 操作ボックスのコネクタを取り外します。

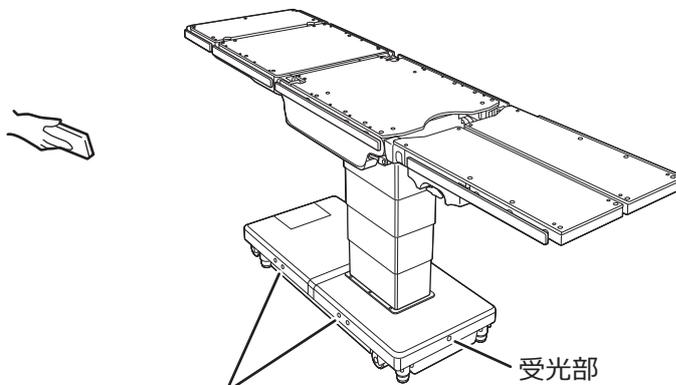


補足

- 操作ボックスをワイヤレスで使用する場合、内蔵の充電電池で作動します。充電不足になると操作ボックスをワイヤレスで使用できなくなります。操作ボックスのリモコン充電ランプが点滅したら、操作ボックスを有線接続して直ちに充電してください。
- 操作ボックスを赤外線モードで使用する場合、モニター画面には何も表示されません。ただし、**(MENU)** を押すと、ビーチチェア、拳上(MOT-VS700UKijのみ)の操作画面が表示されます。

● 操作

1. 手術台の受光部に向けて操作ボックスを操作します。

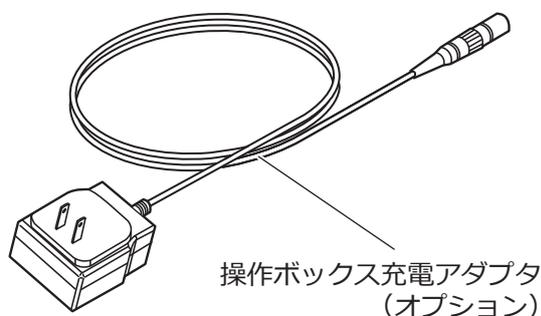


受光部 (受光部は反対側にもあります)

● 充電

充電不足になると操作ボックスをワイヤレスで使用できなくなります。操作ボックスの右上にあるリモコン充電ランプが点滅したら、操作ボックスを有線接続して直ちに充電してください。

なお、専用の操作ボックス充電アダプタを使用すると、コンセントから充電できます（オプション）。



1. コネクタをガイドに合わせて差し込みます。



補足

操作ボックスの電池の充電は、電池の容量が低下して、リモコン充電ランプが点滅したときのみ充電されます。

補足

• 操作ボックス充電アダプタのコネクタを接続すると操作ボックスのモニター画面が表示されます。

赤外線モードの場合、リモコン充電ランプが点灯し充電が始まります。

Bluetooth モードの場合、5~10 秒後にリモコン充電ランプが点灯し充電が始まります。

• 操作ボックス充電アダプタのコネクタを接続しても、リモコン充電ランプが点灯しない場合、充電が開始されていない可能性があります。以下をお試しください。

1. **ON** を押して、リモコン充電ランプが点灯するか確認してください。

2. 操作ボックス充電アダプタのコネクタを抜き、差し直してください。

それでもリモコン充電ランプが点灯しない場合は、ご購入店または弊社に修理を依頼してください。

5.3 電源の入れ方・切り方

医用コンセントの電源で使用する場合とバッテリー電源で使用する場合は、手順が異なります。



注意

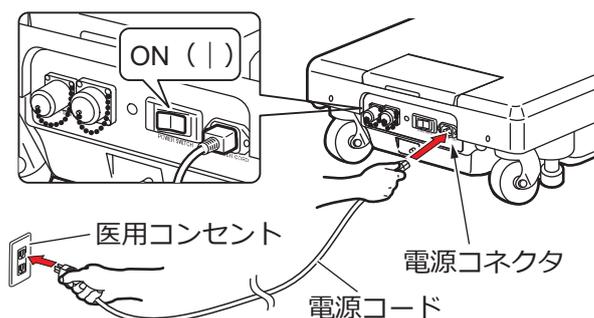
- 感電の危険を回避するために、保護接地を備えた電源に接続してください。
- 電源コードは必ず「MIZUHO」ロゴ付きの専用コードを使用してください。
- 電源コネクタ内に液体の浸入、または埃などが付着していないことを確認してから、電源コードを差し込んでください。
- バッテリーが劣化すると、停電などで交流電源が使えないときに、バッテリー電源による使用ができなくなります。

■ 医用コンセントの電源で使用する場合

● 電源の入れ方

1. 電源コードを電源コネクタと医用コンセントに差し込み、電源スイッチを ON (|) にします。

電源スイッチ緑が点灯し、タッチパネルに「AC MODE」、操作ボックスのモニター画面に  が表示されます。



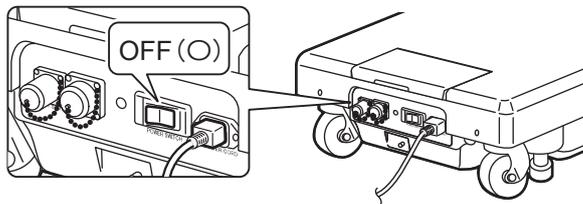
補足

緊急時または電源を完全に遮断するときは、電源コードを医用コンセントから引き抜いてください。

● 電源の切り方

1. ベースの電源スイッチを OFF (○) にします。

電源スイッチ緑が消灯し、モニター画面の  が表示されなくなります。



補足

ベースの電源スイッチを OFF または電源コードを抜くと、バッテリーモード (P.29) になります。



2. 操作ボックスの  を押します。

タッチパネルとモニター画面が消灯します。

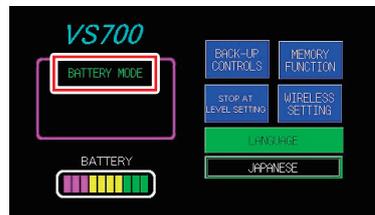
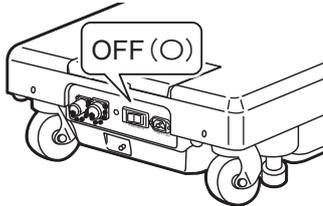


■ バッテリー電源で使用する場合

● 電源の入れ方

1. 電源コネクタに電源コードが接続されていない、またはベースの電源スイッチが OFF の状態で、操作ボックスの  またはタッチパネル右横の起動スイッチを押します。

モニター画面に 、タッチパネルに「BATTERY MODE」が表示されます。



補足

ワイヤレスで使用するときも  を押すと電源を入れることができます。ただし、手術台の電源が OFF の状態で 1 日経過すると、ワイヤレスでは  を押しても電源は入りません。起動スイッチまたは有線で  を押して電源を入れてください。

2. 操作ボックスの表示部を確認します。

モニター画面のバッテリー残量アイコンが  になったら充電が必要です。

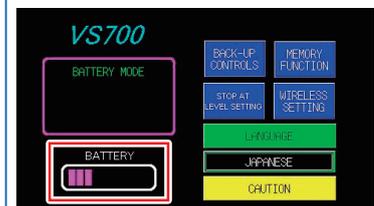


● バッテリー残量表示

100% - 70%	
69% - 20%	
19% - 1%	
0%	

補足

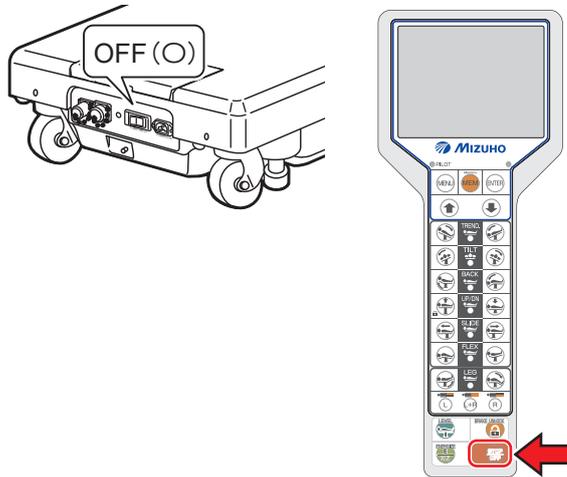
充電状態は、タッチパネルのバッテリーインジケータでも確認できます。バッテリーインジケータが赤のみになったら充電が必要です。



● 電源の切り方

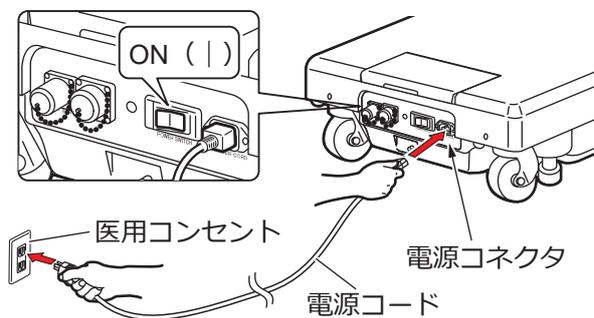
1. 電源コネクタに電源コードが接続されていない、またはベースの電源スイッチが OFF の状態で、操作ボックスの  を押します。

タッチパネルとモニター画面が消灯します。



5.4 手術台の充電

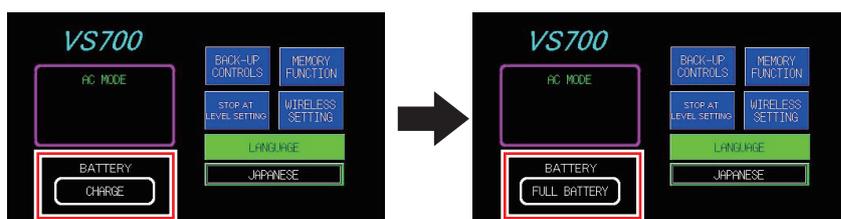
1. 電源コードを電源コネクタと医用コンセントに差し込み、電源スイッチを ON (|) にします。



充電が始まります。

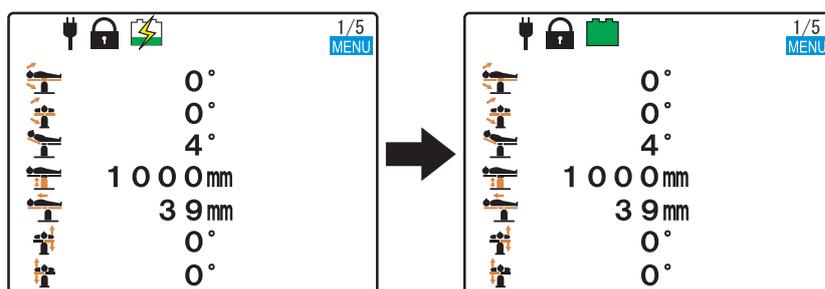
充電中はタッチパネルのバッテリーインジケータに「CHARGE」が表示されます。

バッテリーインジケータの表示が「FULL BATTERY」になると充電完了です。



充電中は操作ボックスのモニター画面に ⚡ が表示されます。

⚡ が消え、🔋 になると充電完了です。



補足

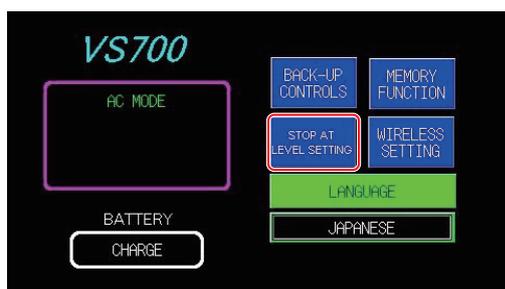
- ご購入後、初めて使用するとき、または長い間使用しなかったときは、必ず充電してから使用してください。バッテリーは未使用の状態でも自然放電します。
- 充電中でも、手術台の操作は可能です。
- 操作ボックスのモニター画面に表示されるバッテリー残量が 🔋 になった場合、またはタッチパネルのバッテリーインジケータが赤のみ表示されている場合は、直ちに充電してください。充電不足になると交流電源による使用のみ可能となり、バッテリー電源による使用はできなくなります。
- 本機で使用しているバッテリーの交換時期の目安は約5年です。交換時期を迎えたら必ずご購入店または弊社にバッテリー交換を依頼してください。
- 使用条件によりバッテリーの寿命は大きく変わります。短時間使用で頻繁に充放電が繰り返されると、バッテリーの劣化が早まる可能性があります。
- 充電満まで最長で10時間程度掛かりますので、週一回充電（週末の充電）をお勧めします。
- 充電してもバッテリーインジケータの表示が「FULL BATTERY」にならない、またはバッテリーがすぐに放電する場合は、バッテリーの劣化が考えられます。ご購入店または弊社に修理を依頼してください。

6 章 手術台の設定

6.1 水平・中点位置での一時停止機能の設定

初期設定では、手術台を水平・中点位置を通過して反対方向へ作動した場合、水平・中点位置で一時停止します。水平・中点位置で停止するかどうかを切り替えることができます。

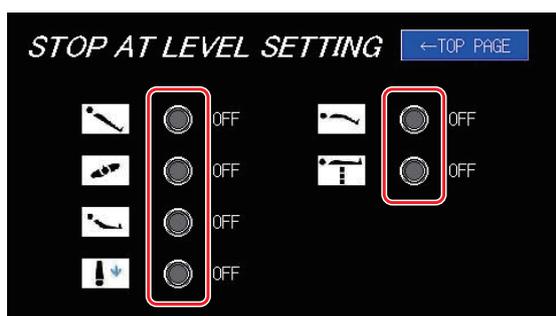
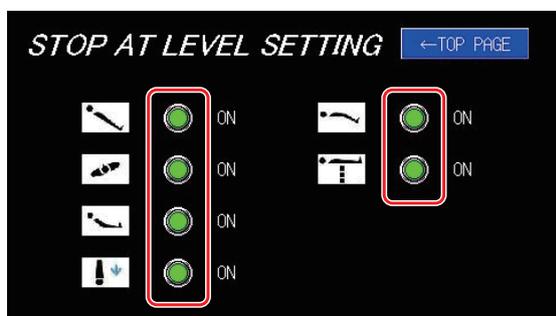
1. タッチパネルのトップ画面を表示します。
2. 「STOP AT LEVEL SETTING」をタップします。



「STOP AT LEVEL SETTING」画面が表示されます。

3. 水平・中点位置で一時停止を解除したい機能のランプをタップします。

タップした機能のランプがグレースアウトし、水平・中点位置で一時停止しない設定になります。



補足

タッチパネルのトップ画面を表示する手順は、P.17 を確認してください。

補足

もう一度ランプをタップすると、ランプが緑色になり、水平・中点位置で一時停止する設定に戻ります。

補足

昇降は 620 mm の高さで下降時に一時停止する機能を解除します。

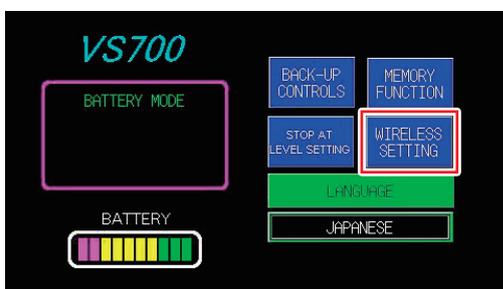
6.2 赤外線モード



- タッチパネルに表示されている IR code と操作ボックスのモニター画面に表示されている IR code が一致していないと作動しません。
- 1 部屋に本機と同機種が 2 台以上ある場合、同じ IR code を使用すると混線し、誤作動を招くおそれがあります。このような場合は IR code を異なる数字にしてください。
- 操作ボックスをワイヤレスで使用する場合、周辺の医療機器からの赤外線や外乱光の影響により接続が途切れる等の操作障害を受けることがあります。

■ 赤外線モードで使用する

1. タッチパネルのトップ画面を表示します。
2. 「WIRELESS SETTING」をタップします。

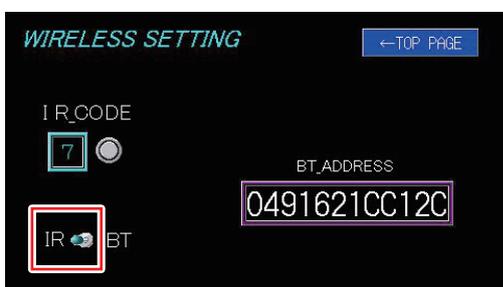


「WIRELESS SETTING」画面が表示されます。

補足

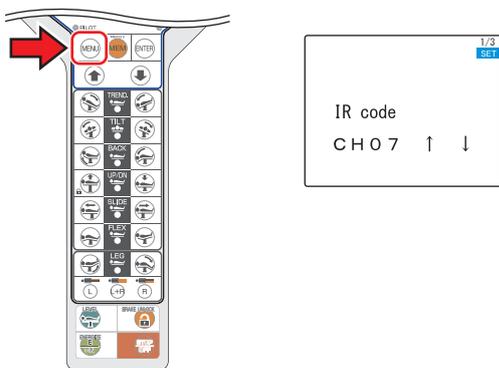
タッチパネルのトップ画面を表示する手順は、P.17 を確認してください。

3. 「IR」をタップします。

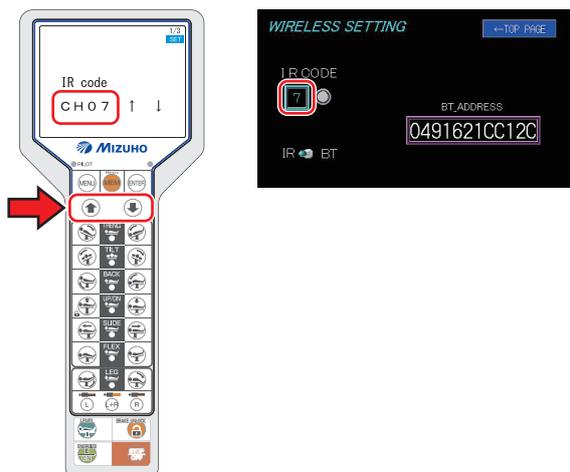


4.  を 10 秒間押し続けます。

操作ボックスのモニター画面に IR code が表示されます。



5. / を押して、タッチパネルに表示されている IR code と操作ボックスのモニター画面に表示されている IR code を一致させます。

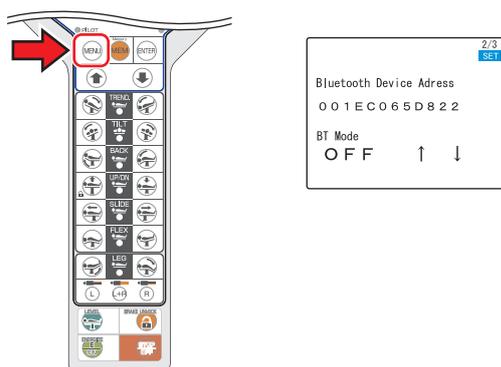


補足

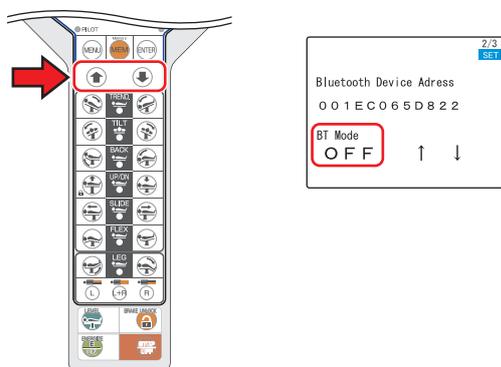
- IR code の初期設定値は「7」です。
- IR code は「0 ~ 7」までの数値から選択できます。

6. を押します。
操作ボックスの IR code が変更されます。

7. を押します。
Bluetooth 設定画面が表示されます。



8. / を押して、「BT Mode」を「OFF」にします。



9. を押します。
操作ボックスの BT モードがオフになります。

10. を押します。

11. 操作ボックスのコネクタを取り外します。
操作ボックスのモニターが非表示になり、赤外線モードになります。

補足

- コネクタの取り外し方法は、P.25 を確認してください。

6.3 Bluetooth モード

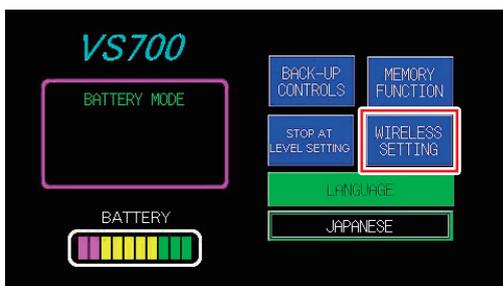


● Bluetooth による無線操作

- 本機能は Bluetooth 無線通信によって行われます。お客様の施設の無線利用ルールで無線通信を認めない場合、本機能は使用しないでください。
- 同時に使用する医療機器に電波の影響が懸念される場合、無線通信は使用しないでください。使用することで他の医療機器に電波の干渉等の影響がある場合があります。
- 本機能を使用する場合、周辺の医療機器による電波干渉を受けることで接続が途切れる等の操作障害を受けることがあります。
- 頻繁に操作が途切れる場合は、周りの電磁波を発する機器をお切りいただくか、操作ボックスを有線接続して使用してください。

■ Bluetooth モードで使用する

1. タッチパネルのトップ画面を表示します。
2. 「WIRELESS SETTING」をタップします。

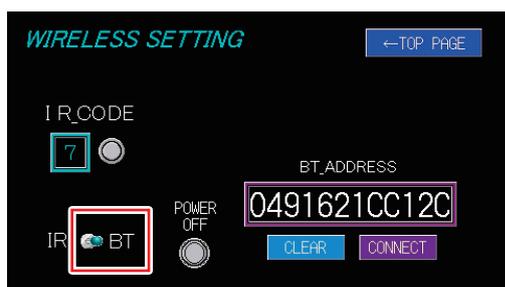


「WIRELESS SETTING」画面が表示されます。

補足

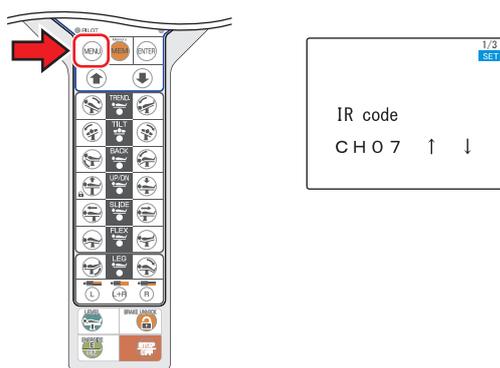
タッチパネルのトップ画面を表示する手順は、P.17 を確認してください。

3. 「BT」をタップします。



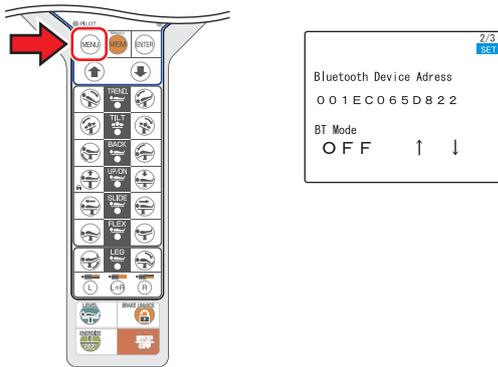
4.  を 10 秒間押し続けます。

操作ボックスのモニター画面に IR code が表示されます。

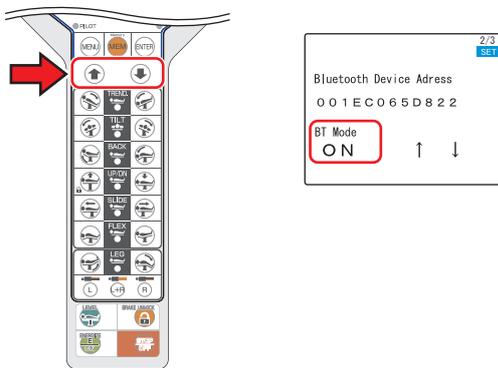


5. **MENU** を押します。

Bluetooth 設定画面が表示されます。



6. **↑** / **↓** を押して、「BT Mode」を「ON」にします。



7. **ENTER** を押します。

8. **MENU** を押します。

9. 操作ボックスのコネクタを取り外します。

10. 機能スイッチを押します。

「NOW CONNECTING」と表示されます。手術台と操作ボックスが問題なく通信できるようになると、操作ボックスのモニター画面とタッチパネルに **✕** が表示されます。

補足

コネクタの取り外し方法は、P.25 を確認してください。

補足

操作ボックスを Bluetooth モードで使用し、10 秒以上操作しないと、モニター画面は自動的に消灯します。

補足

- Bluetooth の接続に失敗した場合は、操作ボックスにコネクタを差し込んで有線接続をした後、再度コネクタを取り外して Bluetooth の接続をお試しください。
- それでも Bluetooth の接続に失敗する場合は、以下の手順で手術台を一度強制終了した後にお試しください。

【強制終了の方法】

1. 医用コンセントの電源で使用している場合は、医用コンセントを抜き、バッテリー電源で使用する状態にしてください。
2. タッチパネルの WIRELESS SETTING 画面上に表示されている強制終了スイッチを 3 秒以上押し続けてください。強制的に電源が OFF にされますので、再度電源を ON にしてください。(P.27)

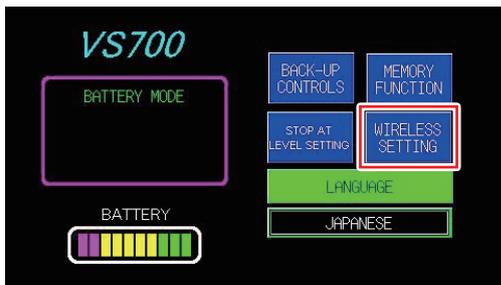
■ 操作ボックス交換時の注意

新しい操作ボックスを初めて使用前には、必ず以下の手順で本機の Bluetooth アドレスを初期化してください。

1. 新しい操作ボックスを手術台に接続して電源を ON にします。
2. 操作ボックスで BT モードを ON にします。
3. 操作ボックスを手術台から外します。
4. タッチパネルの「WIRELESS SETTING」をタップします。

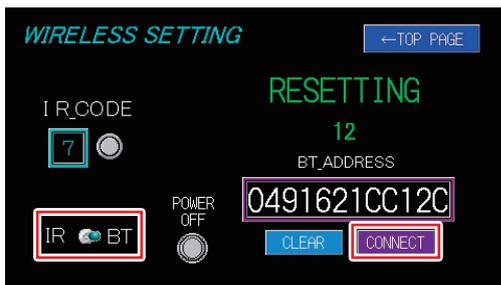
補足

BT モードを ON にする方法は、P.35 を確認してください。



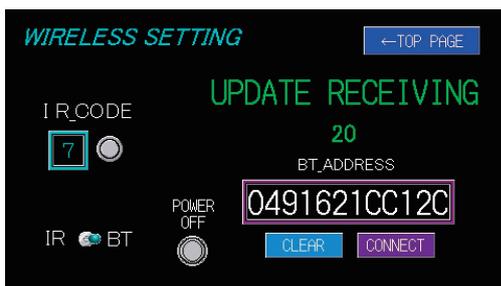
「WIRELESS SETTING」画面が表示されます。

5. 「BT」を ON にし、「CONNECT」をタップして 12 秒待ちます。



「UPDATE RECEIVING」が表示されます。

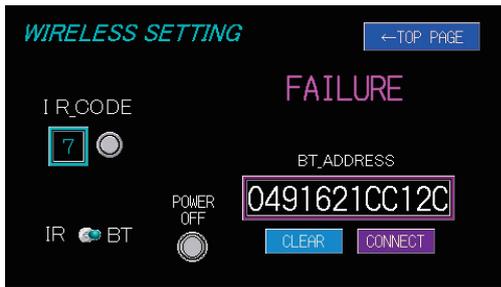
6. 20 秒以内に操作ボックスの  を押します。



7. 「SUCCESS」が表示され、アドレスが変わったら、交換作業は終了です。



8. 「FAILURE」が表示された場合は接続失敗です。操作ボックスの電池がなくなっている可能性があります。充電してから再度接続してください。

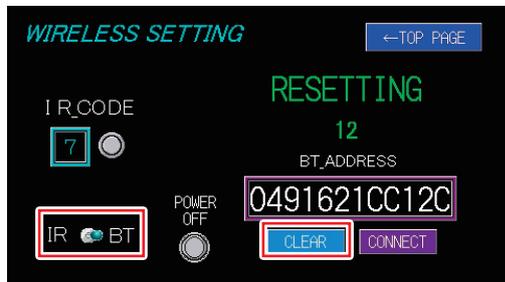


■ <重要> 操作ボックスを別の手術台 (MOT-VS700) で使用する場合

現在の操作ボックスを別の MOT-VS700 で使用する場合は、必ず下記の手順で Bluetooth の接続情報 (ペアリング) を解除してください。

● 接続情報を解除する

1. 「BT」を ON にし、「CLEAR」をタップして 12 秒待ちます。



アドレスが「0」になります。



Bluetooth の接続情報を解除せずに別の MOT-VS700 で使用すると、以下のような作動となります。

● 有線接続して使用する場合

有線接続時は特に制限なく利用できます。

ただし、有線接続で一度使用した後は、元の MOT-VS700 とは Bluetooth 接続できなくなり、以下の警告画面が表示されます。

操作ボックスの警告画面



● Bluetooth で接続して使用する場合

別の MOT-VS700 と Bluetooth 接続する場合は、最初に必ず有線接続して電源を ON にしてください。

Bluetooth 接続すべき手術台が認識されます。

ただし、元の MOT-VS700 が近くにある場合、Bluetooth の性質上、元の MOT-VS700 と接続する可能性があります。

必ず上記の手順で元のペアリング情報を解除してから、接続を試してください。

6.4 リバースモード

患者を頭脚逆に乗せたときに患者の頭基準で操作できます。



リバースモード時の許容患者体重は 135 kg です。135 kg を超える患者を乗せると手術台が転倒し、患者がけがをするおそれがあります。



リバースモードでは、以下の操作が機能しません。

- ・フレックス
- ・リフレックス
- ・ビーチチェア

以下の条件下ではリバースモードは使用できません。

- ・ダブル脚板を取り付けた場合
リバースモードの画面は表示されません。シングル脚板を取り付けて使用してください。
- ・メモリーモードの場合
リバースモードの画面は表示されません。メモリーモードを解除してから使用してください。
- ・タッチパネルでの操作
通常の作動 (手術台基準) のみ操作できます。
- ・フットスイッチ (オプション) での操作
通常の作動 (手術台基準) のみ操作できます。
- ・操作ボックス (ワイヤレス) 赤外線モードでの操作
リバースモード時は作動しません。

補足

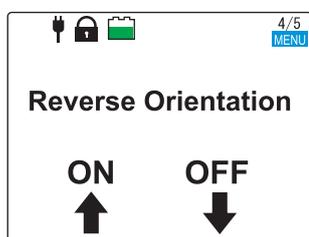
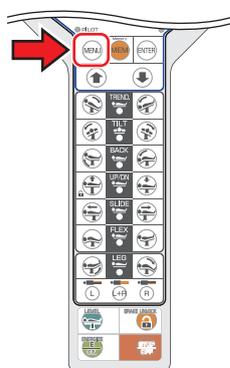
リバースモード時の作動範囲は下記のとおりです。

- ・縦転角度 頭下がり 30°
頭上がり 40°
- ・背板屈折角度 上がり 25°
下がり 90°
- ・脚板屈折角度 上がり 90°
下がり 40°
- ・スライド量 頭方向 415 mm
脚方向 250 mm

その他の作動は、通常モードと同じ作動範囲です。

■ リバースモードにする

1.  を押して、リバースモード (Reverse Orientation) を選択します。

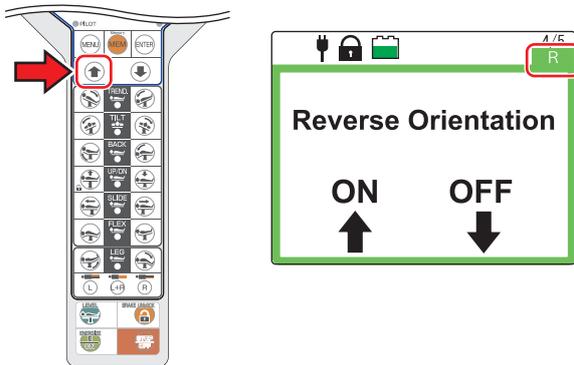


補足

頭部板は背板、シングル脚板のどちらに取り付けてもリバースモードになります。

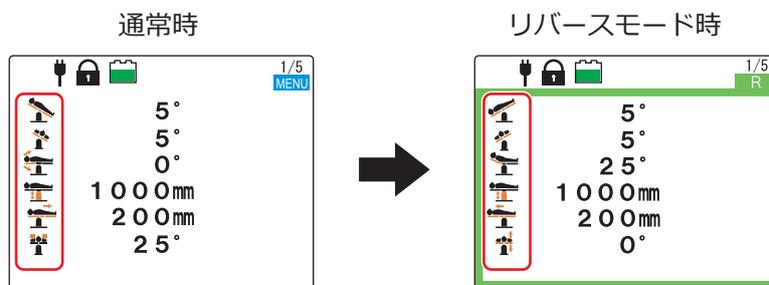
2. を押します。

リバースモードが ON になり、緑色の枠が表示されます。



縦転、横転、スライドの向きが逆になり、背板、脚板の表示が入れ替わります。

操作についても脚板側に頭部が乗った状態での操作に切り替わります。

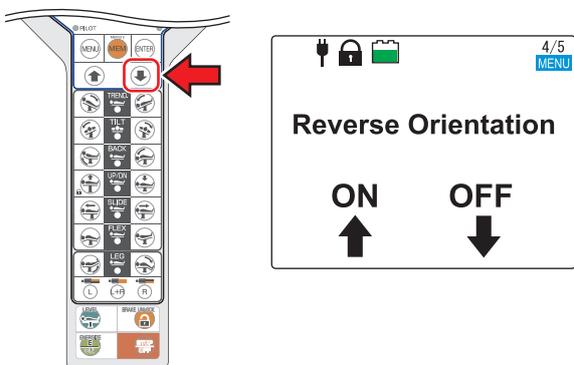


■ リバースモードを解除する

1. を押して、リバースモード (Reverse Orientation) を選択します。

2. を押します。

リバースモードが解除されます。



補足

- リバースモードは電源を OFF にしても継続されます。不必要なときは解除してください。
- シングル脚板をダブル脚板に差し替えるとリバースモードは解除されます。

7章 手術台の操作

7.1 緊急停止スイッチの操作

緊急時には、緊急停止スイッチを押すと、手術台の作動を停止させることができます。



警告

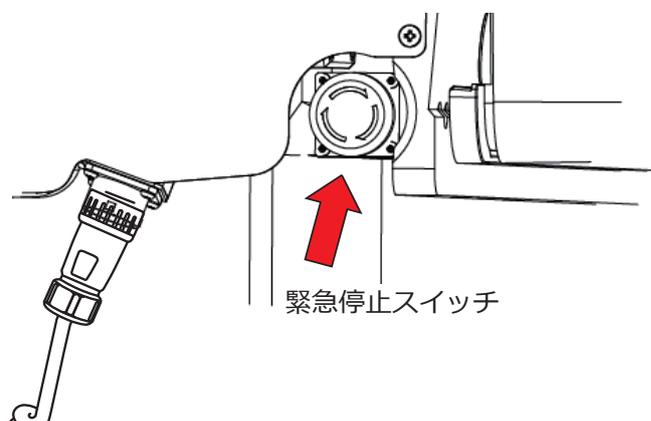
緊急停止スイッチは緊急時のみ使用してください。

■ 緊急時の操作

1. 緊急停止スイッチを押します。
ブザーが鳴り、手術台の作動が停止します。

補足

緊急停止スイッチは操作ボックスコネクタ付近にあります。



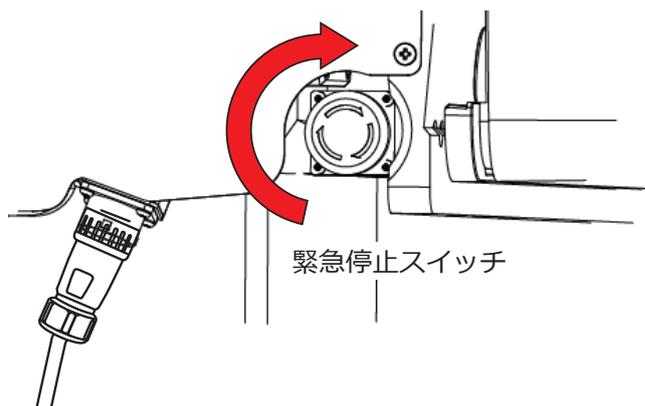
■ 解除時の操作



注意

手術台の隙間に手を挟んだ等で、手術台を元の状態に戻す場合は、操作ボックスのスイッチを押して、手術台を反対方向へ作動させてください。

1. 手術台の作動停止後、緊急停止スイッチを矢印の方向に回す、または手前に引いて解除します。
ブザーが止まります。



7.2 手術台の固定と解除

■ 手術台を固定する

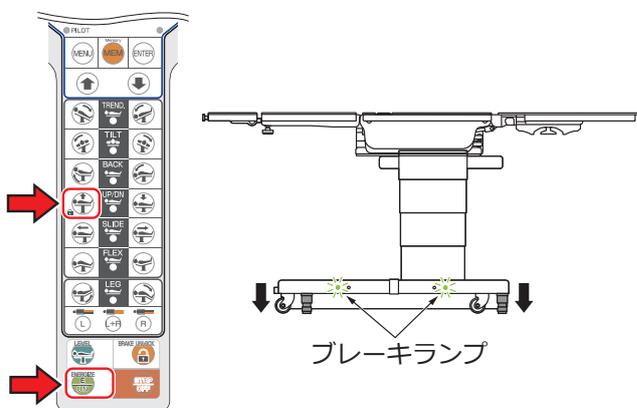
手術台を操作するときは、ブレーキを作動させて手術台を固定します。



- ブレーキ作動後、手術台が確実に固定されていることを確認してください。
- 作動を停止する必要がある場合は、緊急停止スイッチを押してください。

1. を押してから を押します。

ブレーキが作動して手術台が固定されます。ベースのブレーキランプが緑色になり、モニター画面に  が表示されます。



■ 手術台の固定を解除する

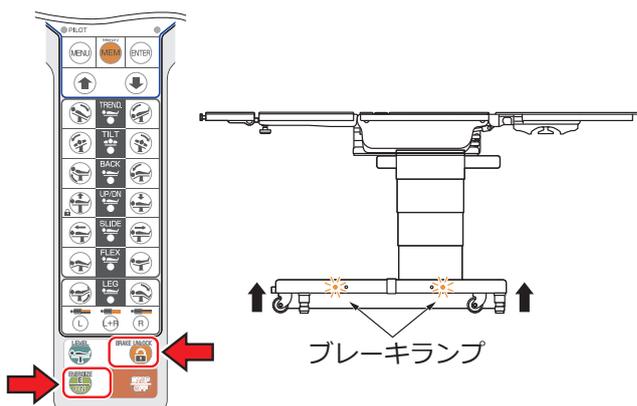
手術台を移動するときは、手術台の固定を解除します。



患者を乗せた状態で手術台の固定を解除しないでください。患者が転落するおそれがあります。

1. を押してから を 1 秒以上押します。

ブレーキが解除されて手術台の固定が解除されます。ベースのブレーキランプがオレンジ色になり、モニター画面に  が表示されます。



補足

- テーブルトップの上昇等の操作は、手術台固定が完了するまで作動しません。
- 手術台に患者を乗せる前に、スライドを中点位置にして手術台を固定してください。
- 低温環境下では手術台を固定状態にしてもブレーキランプが緑色に切り替わらないことがあります。その場合は、固定操作を繰り返してください。ブレーキランプが緑色に切り替わり、正常な状態に復帰します。

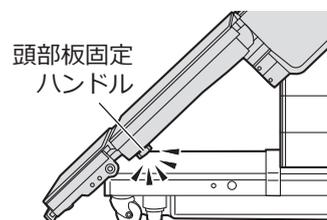
7.3 テーブルトップを縦に傾ける（縦転）



患者を乗せて縦転操作をするときは、必ず弊社手術台アクセサリーの固定器を使用してください。患者が転落するおそれがあります。



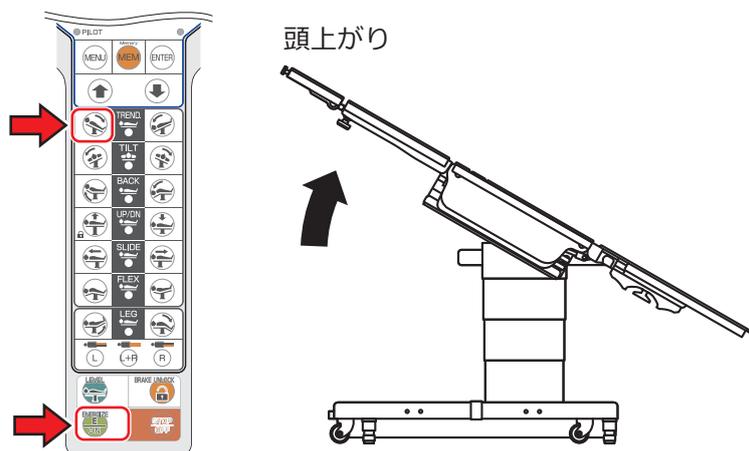
- 頭部板先端が床に接触するまで作動させないでください。破損するおそれがあります。
- 頭部板固定ハンドルがベースに接触するまで作動させないでください。破損するおそれがあります。



■ 頭を上げる

1. を押してから を押します。

テーブルトップが頭上りの位置になります。



補足

- 頭上りの最大角度は水平位置から 30 度です。

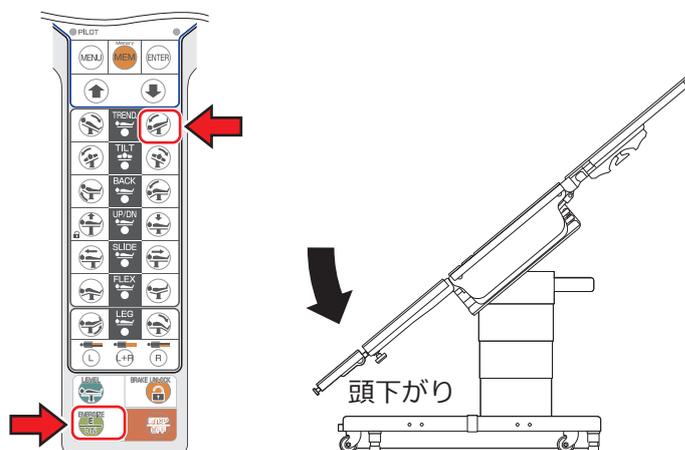


- 縦転の位置から反対方向へ縦転を操作すると、水平位置で停止します。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大角度まで縦転します。

■ 頭を下げる

1. を押してから を押します。

テーブルトップが頭下りの位置になります。



補足

- 頭下りの最大角度は水平位置から 40 度です。



7.4 テーブルトップを横に傾ける（横転）

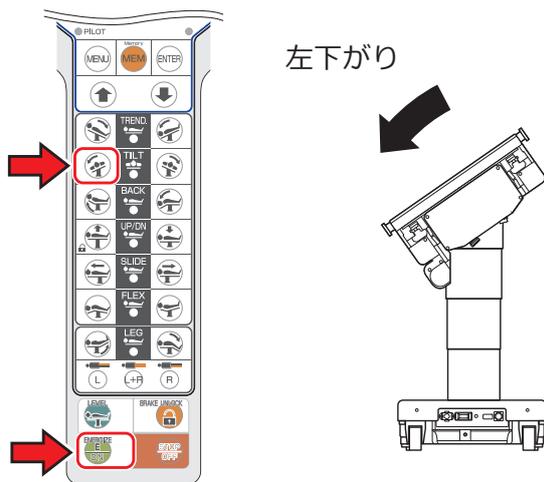


患者を乗せて横転操作をするときは、必ず弊社手術台アクセサリーの固定器を使用してください。患者が転落するおそれがあります。

■ 左に下げる

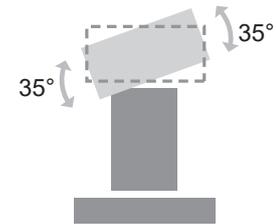
1. を押してから を押します。

テーブルトップが頭側から見て左下がりの位置になります。



補足

- 左下がりの最大角度は水平位置から 35 度です。

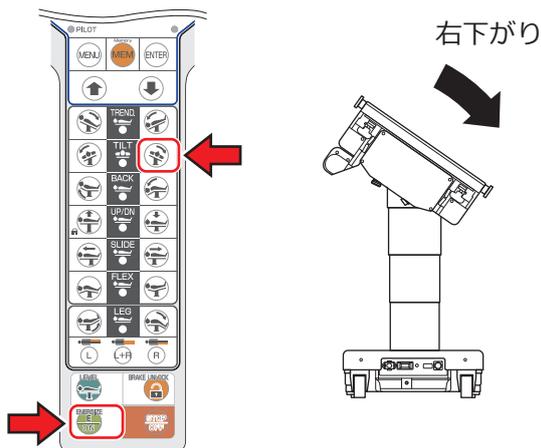


- 横転の位置から反対方向へ横転を操作すると、水平位置で停止します。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大角度まで横転します。

■ 右に下げる

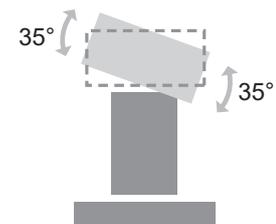
1. を押してから を押します。

テーブルトップが頭側から見て右下がりの位置になります。



補足

- 右下がりの最大角度は水平位置から 35 度です。

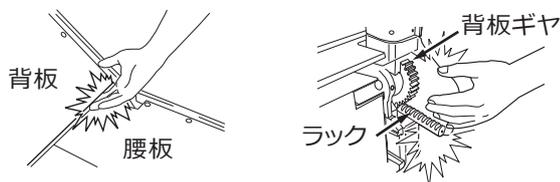


7.5 背板を傾ける



作動中、次の隙間部分に手を入れないでください。けがをするおそれがあります。

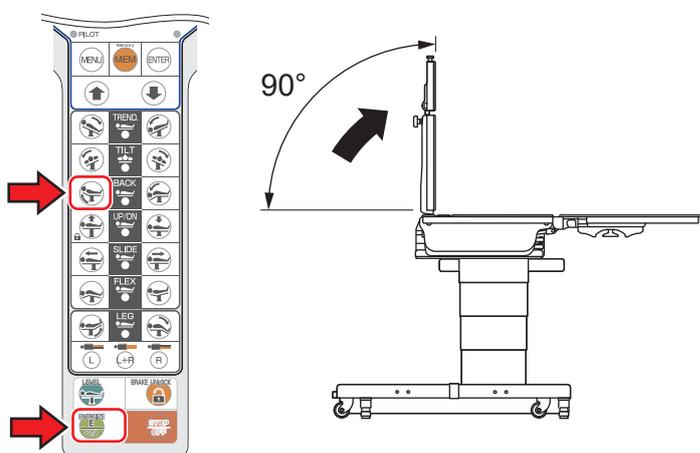
- ・背板と腰板の隙間
- ・背板ギヤとラックの隙間



■ 背板を上げる

1. を押してから を押します。

背板が上がります。

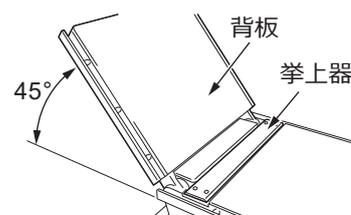


補足

- ・背板上がりの最大角度は水平位置から90度です。
- ・背板屈折の位置から反対方向へ背板屈折を操作すると、水平位置で停止します。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大角度まで屈折します。

【MOT-VS700UKljのみ】

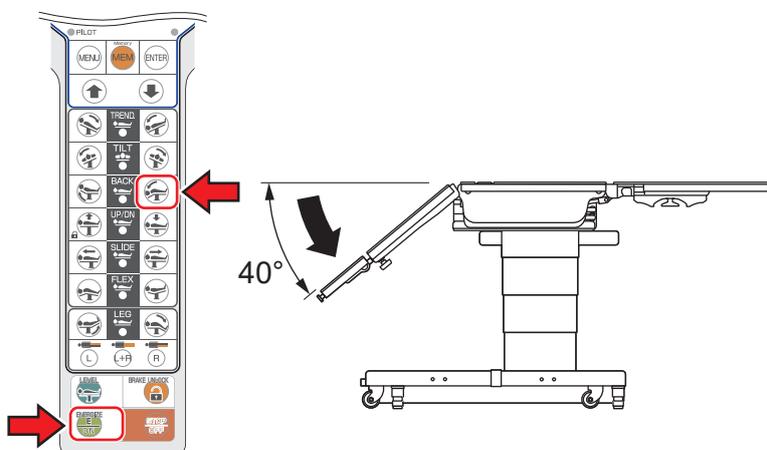
- ・拳上器が上昇した状態では、背板は水平位置から45度より上には上がりず、ブザーが鳴ります。



■ 背板を下げる

1. を押してから を押します。

背板下がります。



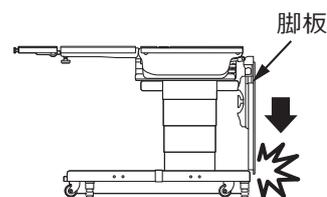
補足

- ・背板下がりの最大角度は水平位置から40度です。
- ・テーブルトップ中点が、中点位置より脚側へスライドした状態では、背板が干渉危険域に近づくためブザーが鳴り停止することがあります。テーブルトップを中点位置から頭側へスライドすると、背板をさらに下げることができます。

7.6 テーブルトップの高さを変える

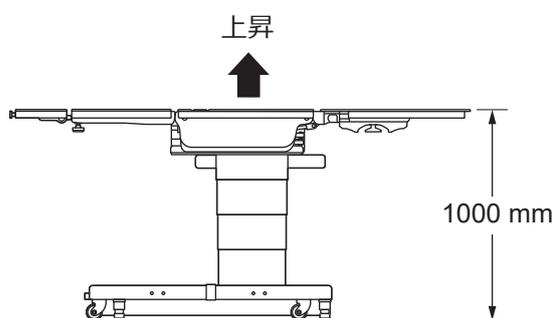
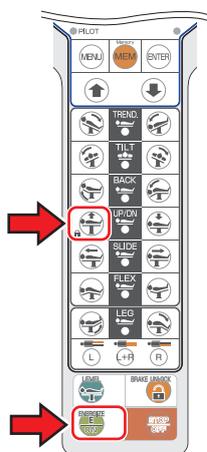


脚板を 90 度屈折させた状態で下降させないでください。
脚板先端が床やベースにぶつかり、破損するおそれがあります。



■ テーブルトップを上げる

1. を押してから を押します。
テーブルトップが上昇します。

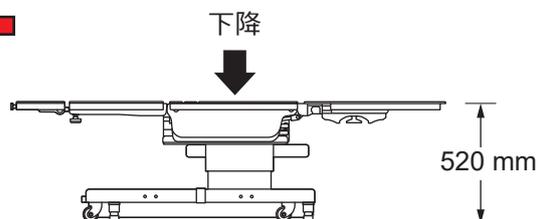
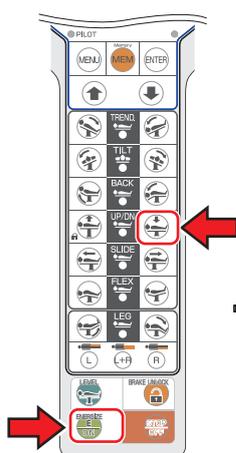


補足

上昇の最高位は床面からテーブルトップ上面まで 1000 mm です。

■ テーブルトップを下げる

1. を押してから を押します。
テーブルトップが下降します。



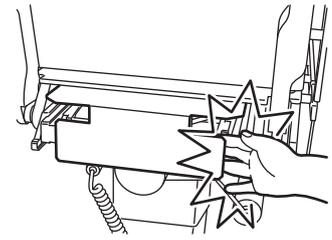
補足

- 下降の最低位は床面からテーブルトップ上面まで 520 mm です。
- 下降時に背/脚板が下がった状態では、干渉危険域に近づくためブザーが鳴り停止することがあります。背/脚板を上げると、さらに下降させることができます。
- 下降時には約 620 mm の位置で停止します。もう一度 を押すと、さらに下降させることができます。

7.7 テーブルトップをスライドさせる



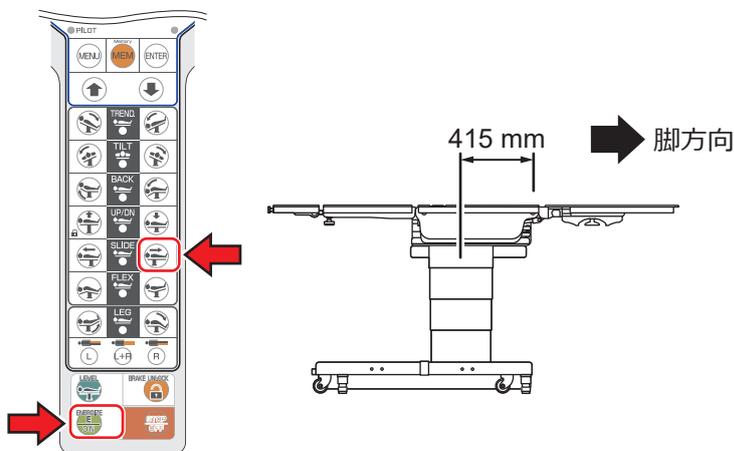
作動中、フレームの隙間部分に手を入れないでください。
けがをするおそれがあります。



■ 脚方向に動かす

1. を押してから を押します。

テーブルトップが脚方向にスライドします。



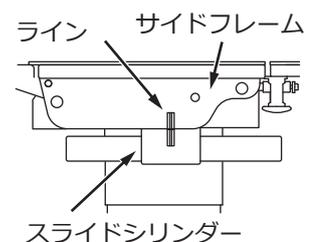
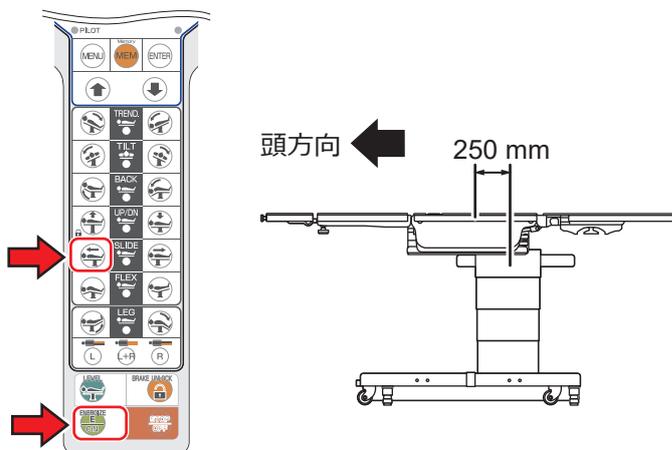
補足

- テーブルトップ中点位置からの最大スライド量は下記のとおりです。
脚方向：415 mm
頭方向：250 mm
- テーブルトップが中点位置になると、操作ボックスの水平・中心ランプが点灯します。
- スライドした状態から反対方向へスライドを操作すると、中点位置で停止します。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大量までスライドします。
- 背／脚板が下がった状態でスライドさせると、背／脚板が干渉危険域に近づくためブザーが鳴り停止することがあります。背／脚板を水平位置以上に上げると、さらにスライドさせることができます。
- テーブルトップの中点位置は、サイドフレームのラインとスライドシリンダーのラインが合致する位置です。

■ 頭方向に動かす

1. を押してから を押します。

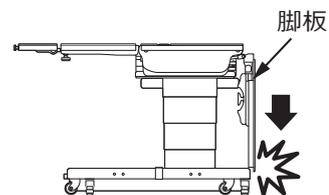
テーブルトップが頭方向にスライドします。



7.8 脚板を傾ける

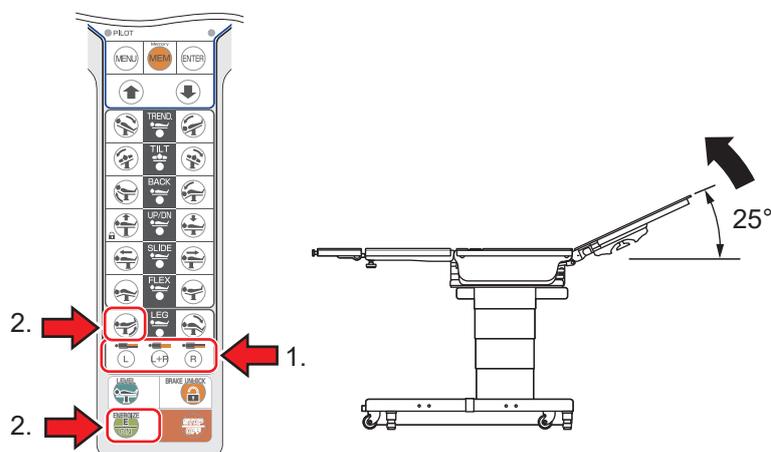


- 脚板を下げた状態で縦転頭上りを作動させないでください。脚板先端がベースにぶつかり、破損するおそれがあります。
- 脚板を下げた状態でテーブルトップを下降させないでください。脚板先端がベースにぶつかり、破損するおそれがあります。



■ 脚板を上げる

1. 作動させる脚板を選択します。
2. を押してから を押します。
脚板が上がります。

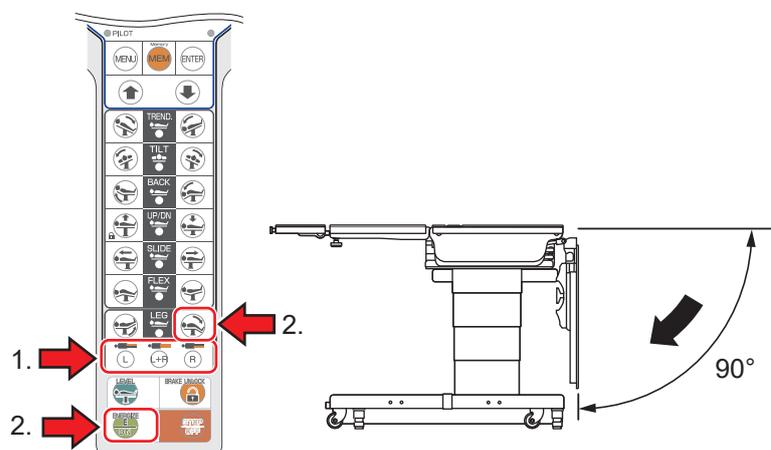


補足

- シングル脚板を取り付けている場合は、手順 1 の操作は不要です。
- 脚板上がりの最大角度は水平位置から 25 度です。
- 脚板屈折の位置から反対方向へ脚板屈折を操作すると、水平位置で停止します。停止したらスイッチを離してからもう一度スイッチを押すと、最大角度まで屈折します。

■ 脚板を下げる

1. 作動させる脚板を選択します。
2. を押してから を押します。
脚板下がります。



補足

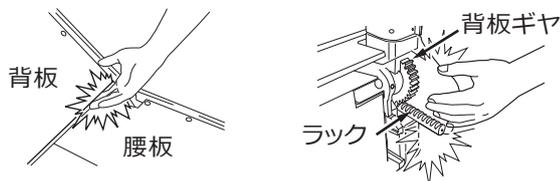
- シングル脚板を取り付けている場合は、手順 1 の操作は不要です。
- 脚板下がりの最大角度は水平位置から 90 度です。
- テーブルトップ中点が、中点位置より頭側へスライドした状態では、脚板が干渉危険域に近づくためブザーが鳴り停止することがあります。テーブルトップを中点位置から脚側へスライドすると、脚板をさらに下げることができます。

7.9 フレックス/リフレックスにする



作動中、次の隙間部分に手を入れないでください。けがをするおそれがあります。

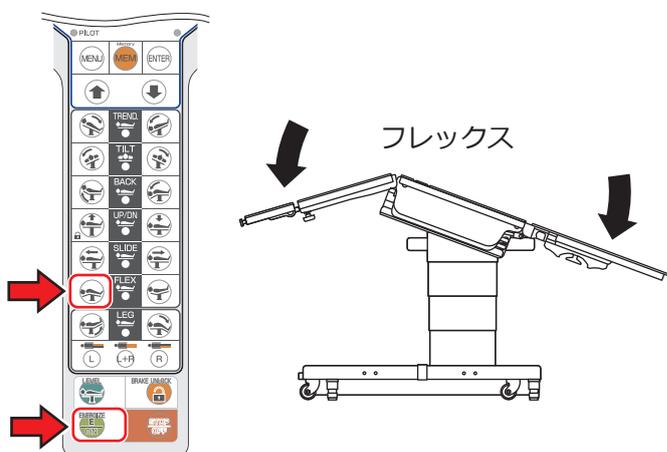
- ・背板と腰板の隙間
- ・背板ギヤとラックの隙間



■ フレックスにする

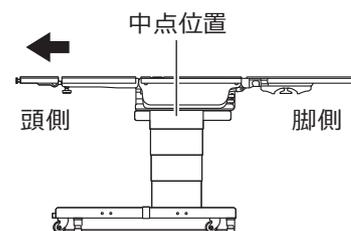
1. を押してから を押します。

背板が下に屈折するとともに、腰板が縦転頭上がりの位置になります。



補足

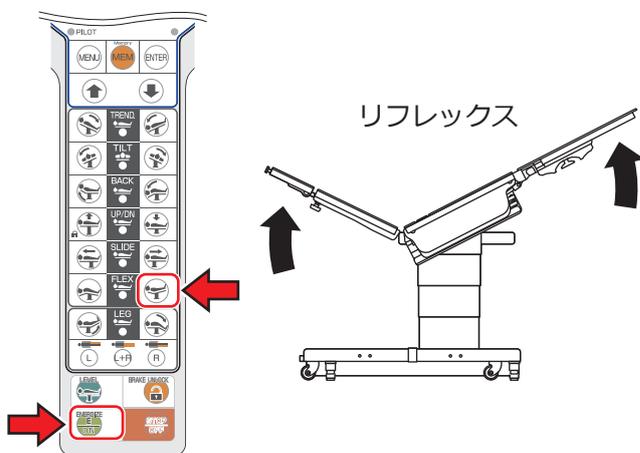
テーブルトップ中点が、中点位置より脚側へスライドした状態では、干渉危険域に入るため作動せずブザーが鳴ります。テーブルトップを中点位置から頭側へスライドすると、フレックスになります。



■ リフレックスにする

1. を押してから を押します。

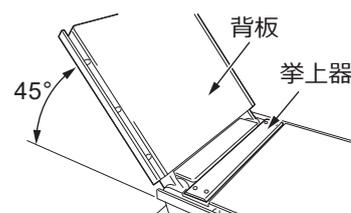
背板が上に屈折するとともに、腰板が縦転頭下りの位置になります。



補足

【MOT-VS700UKIj のみ】

拳上器が上昇した状態では、背板が45度に屈折した位置でリフレックスが停止します。拳上器を下降させると、背板が90度まで屈折します。

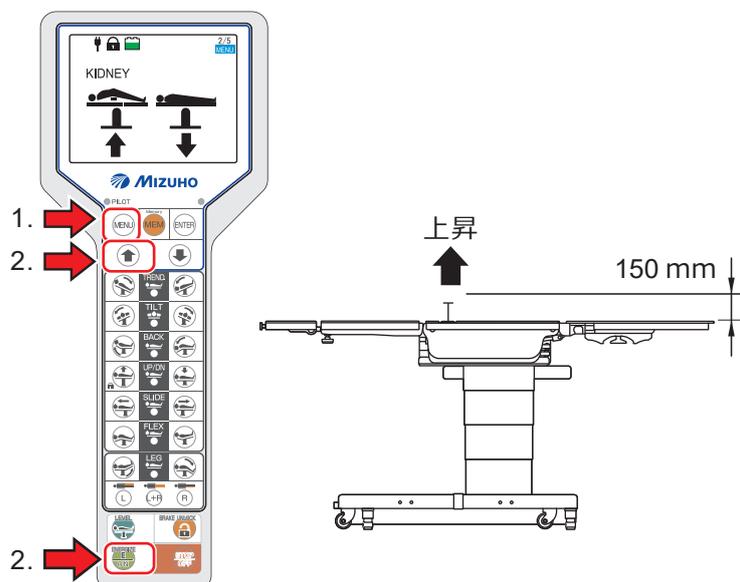


7.10 拳上器の高さを変える(MOT-VS700UKIjのみ)

■ 拳上器を上げる

1. **MENU** を押して、拳上 (KIDNEY) を選択します。
2. **ON** を押してから **↑** を押します。

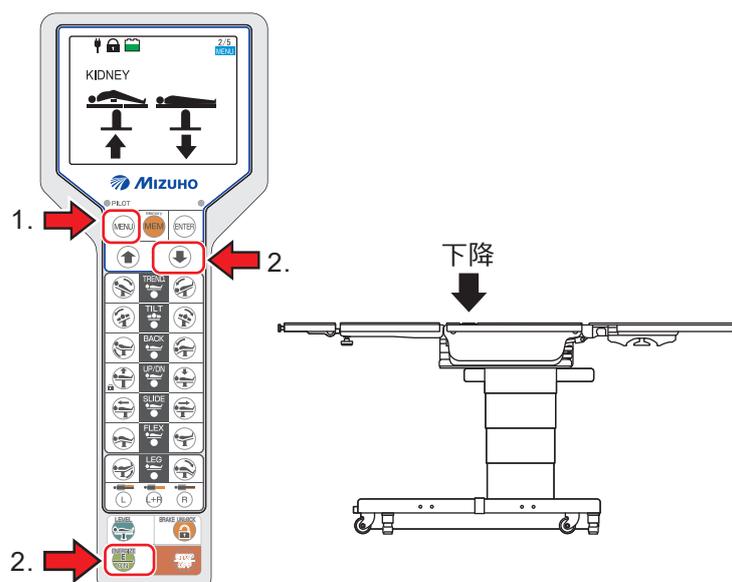
拳上器が上昇します。



■ 拳上器を下げる

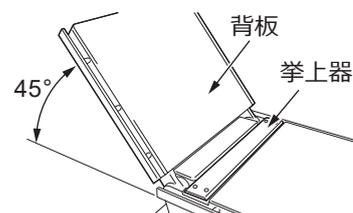
1. **MENU** を押して、拳上 (KIDNEY) を選択します。
2. **ON** を押してから **↓** を押します。

拳上器が下降します。



補足

- 最高上昇位置はテーブルトップ上面から 150 mm です。
- 最低下降位置はテーブルトップ上面と同じ高さです。
- 背板が水平位置より 45 度以上、上がった状態では、拳上器は上昇せずブザーが鳴ります。背板を 45 度より下へ下げると拳上器は上昇します。



- リフレックスポジションで背板の角度が 45 度以上では、拳上器は上昇せずブザーが鳴ります。背板を 45 度より下へ下げると拳上器は上昇します。
- ビーチチェアポジションで背板の角度が 45 度以上では、拳上器は上昇せずブザーが鳴ります。背板を 45 度より下へ下げると拳上器は上昇します。

補足

拳上の操作はメモリー機能に対応していません。

7.11 ビーチチェア



作動中、次の隙間部分に手を入れないでください。けがをするおそれがあります。
・背板と腰板の隙間

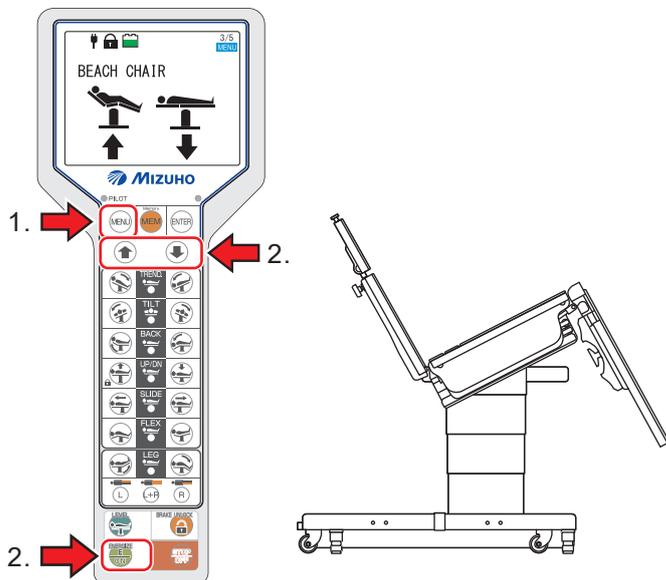


■ ビーチチェアにする

1. を押して、ビーチチェア (BEACH CHAIR) を選択します。
2. を押してから を押します。
ビーチチェアポジションになります。

補足

ビーチチェアの操作はメモリー機能に対応していません。

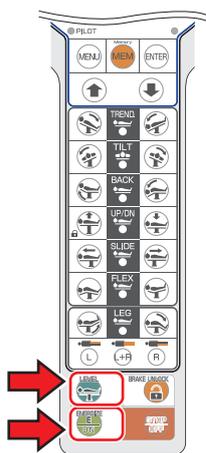


7.12 自動水平復帰

■ テーブルトップを水平位置に戻す

1.  を押してから  を押します。

縦転・横転・背板屈折・フレックス・脚板屈折・ビーチチェアおよび
挙上 (MOT-VS700UKIj のみ) が作動して、テーブルトップが水平位置
に戻ります。



補足

昇降・スライドおよびブレーキ
の機能は作動しません。

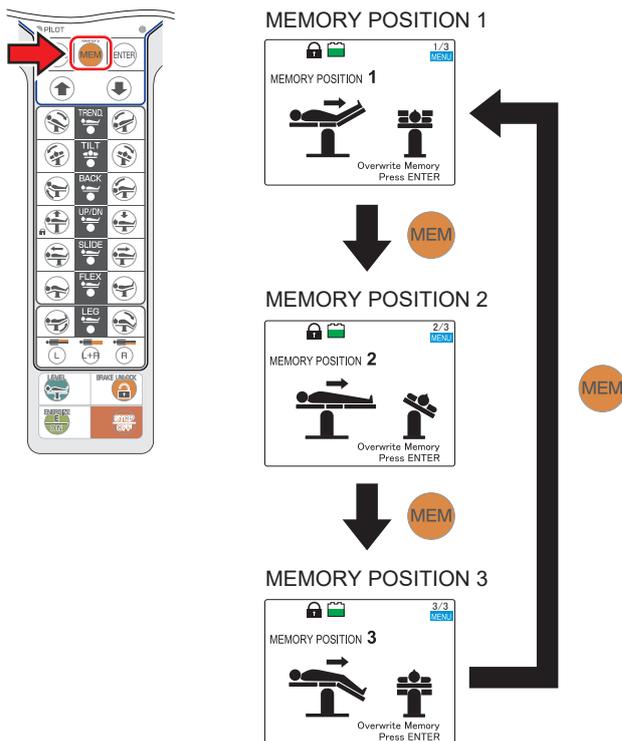
7.13 メモリー登録・操作

テーブルトップの任意の位置をメモリーに登録することで、登録した位置を簡単に再現できます。

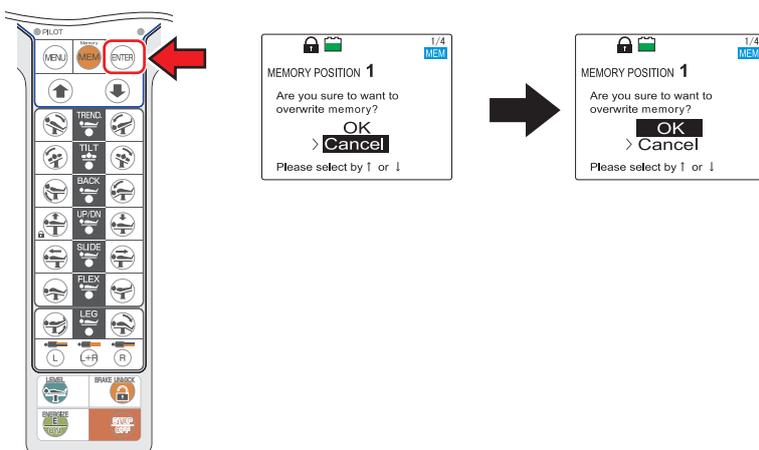
■ テーブルトップの位置を登録する

● 操作ボックスで登録する

1. テーブルトップの位置を登録したい状態にします。
2. 登録したいメモリーが表示されるまで **MEM** を数回押します。



3. **ENTER** を押します。



「Are you sure to want to overwrite memory? (メモリーを上書きしますか?)」と表示されます。

今の位置を登録したい場合は **MEM** を押して「OK」を選択して、もう一度 **ENTER** を押します。

補足

- 登録できるメモリー数は3つです。
- 登録されているメモリーに位置を上書きすると、登録されていたメモリーは削除されます。
- ワイヤレス (赤外線モード) では、メモリーを登録できません。
- リバースモードでは、メモリーを登録できません。

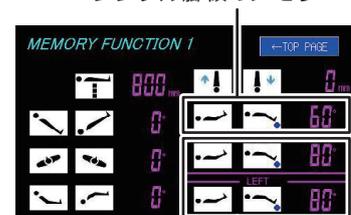
補足

モニター画面の表示が「通常の画面」または「現在のポジション」のときに **MEM** を押すと、MEMORY POSITION 画面が表示されます。

補足

脚板については、ダブル脚板またはシングル脚板のうち、装着している方を登録します。ダブル脚板装着時にメモリー位置を再現させる場合は、ダブル脚板装着時に登録した数値がメモリー位置になります。シングル脚板装着時にメモリー位置を再現させる場合は、シングル脚板装着時に登録した数値がメモリー位置になります。

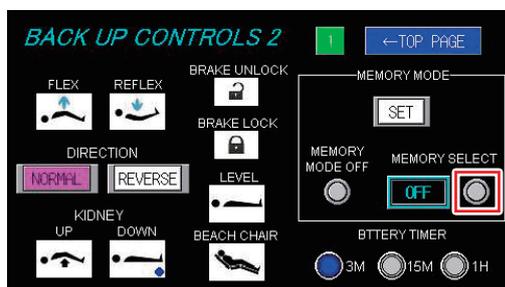
シングル脚板のメモリー



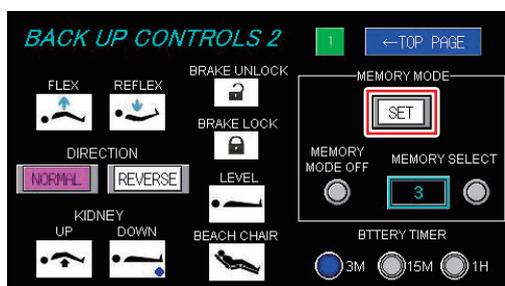
ダブル脚板のメモリー

● タッチパネルで登録する

1. テーブルトップの位置を登録したい状態にします。
2. 登録したいメモリー番号が表示されるまで「MEMORY SELECT」を数回タップします。



3. 登録したいメモリー番号が表示されたら、「SET」をタップします。



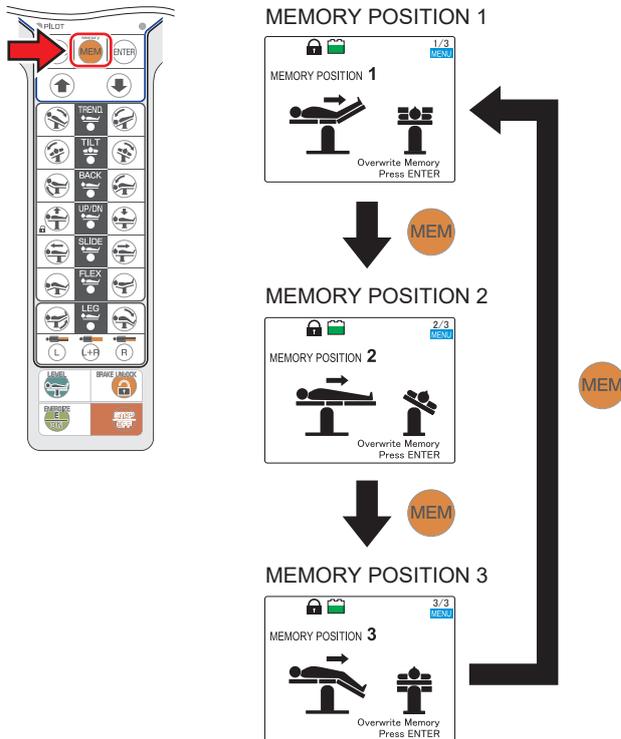
補足

- 登録できるメモリー数は3つです。
- 登録されているメモリーに位置を上書きすると、登録されていたメモリーは削除されます。

■ 登録したメモリー位置を再現する

● 操作ボックスで再現する

1. 使用したいメモリーが表示されるまで **MEM** を数回押します。



補足

- メモリーモードを終了する場合は **MEM** を押してください。
- リバースモードでは、メモリー操作はできません。
- メモリーモードでは、ビーチチェア、挙上(MOT-VS700UKijのみ)の操作はできません。

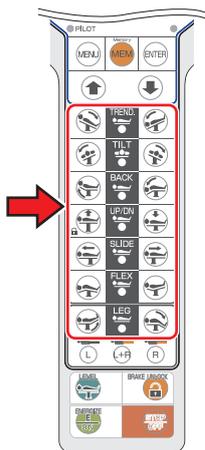
補足

モニター画面の表示が「通常の画面」または「現在のポジション」のときに **MEM** を押すと、MEMORY POSITION 画面が表示されます。

2. **IS ON** を押します。

位置を再現するために必要な機能スイッチが点灯します。

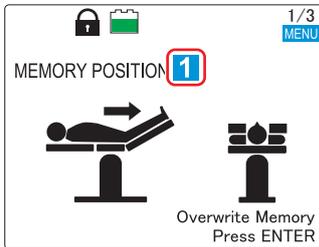
3. 点灯している機能スイッチをテーブルトップが作動しなくなるまで押します。



操作した機能スイッチが消灯します。

- すべての機能スイッチが消灯するまで、手順 3 の操作を繰り返します。

テーブルトップが目的の位置に達すると、MEMORY POSITION の数字が青色になります。



● タッチパネルで再現する



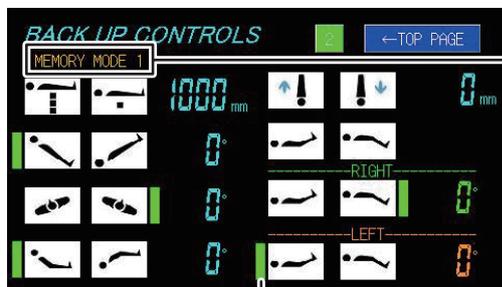
タッチパネルの BACK-UP CONTROLS は緊急時のみ使用してください。

- 使用したいメモリーが表示されるまで「MEMORY SELECT」を数回タップします。

位置を再現するために必要な機能スイッチにメモリーガイドが表示されます。

補足

「MEMORY MODE OFF」をタップすると、通常モードに戻ります。



- メモリーガイドが表示されている機能スイッチをタップします。

- すべてのメモリーガイドの表示が消えるまで、手順 2 の操作を繰り返します。

テーブルトップが登録したメモリー位置に再現されます。

補足

タッチパネルは、操作ボックスと異なり作動制限が働かないため、記録位置で一時停止しません。

7.14 頭部板の調節

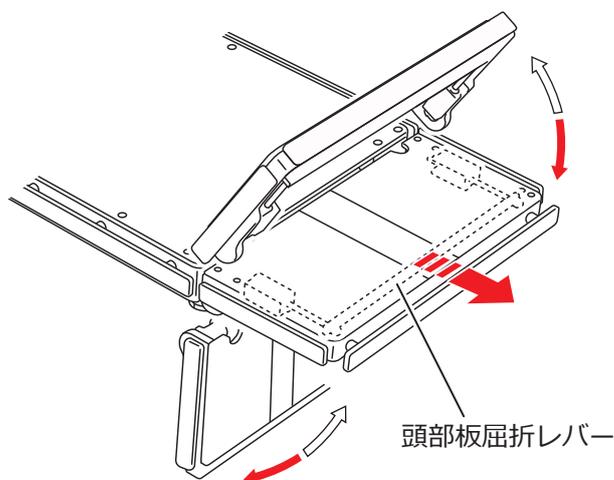
頭部板は 15 度区分で、上に 4 段（最大 60 度）、下に 6 段（最大 90 度）屈折します。また、取り外すことができます。



頭部板重量は 6 kg あるため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

■ 屈折させる

1. 頭部板屈折レバーを頭部側に向けて引きます。頭部板が上下に屈折します。レバーを離すと頭部板はその位置で固定します。

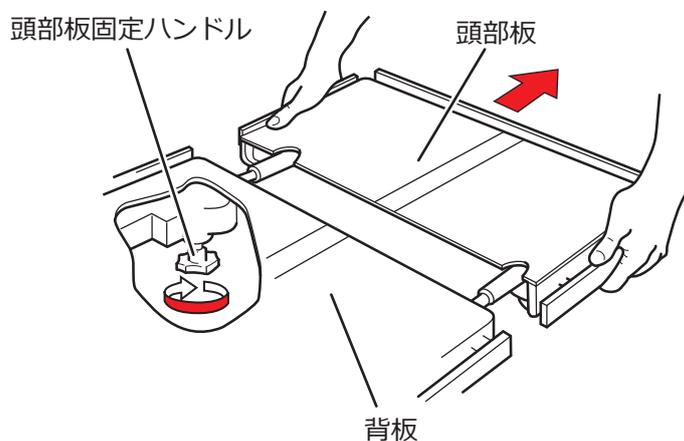


補足

上に屈折させるときは、頭部板屈折レバーを引かなくても、頭部板を持ち上げることで屈折できます。

■ 取り外す

1. 背板またはシングル脚板下部の 2 個の頭部板固定ハンドルを回してゆるめます（図は背板）。
2. 頭部板の両側をしっかりと持って、頭部板を真っ直ぐに引き出します。



■ 取り付ける

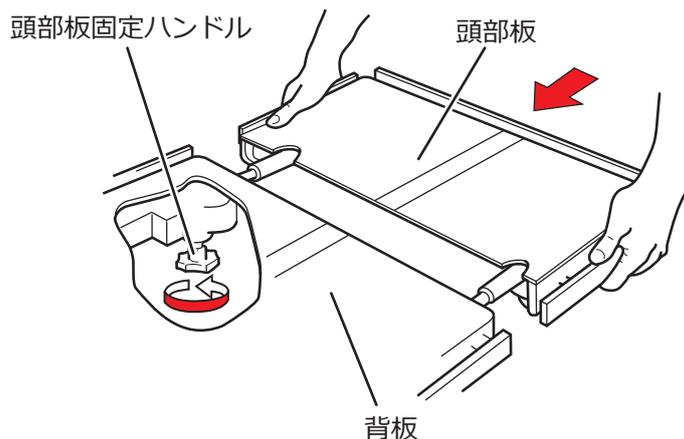


頭部板固定ハンドルは必ず締めてください。ゆるんだ状態では頭部板が動いて患者に障害がおきるおそれがあります。



- 頭部板は、背板またはシングル脚板に完全に差し込んでください。完全に差し込まずに使用すると、破損するおそれがあります。
- 頭部板を引いて手術台を移動しないでください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

1. 頭部板の両側をしっかり持って、頭部板の差込軸を背板またはシングル脚板の差込孔に合わせて差し込みます。
2. 頭部板が完全に差し込まれたことを確認して、背板またはシングル脚板下部の2個の頭部板固定ハンドルを回して固定します（図は背板）。



補足

頭部板は背板とシングル脚板に取り付けることができます。シングル脚板に取り付ける場合は、シングル脚板裏の頭部板固定ハンドルを回して頭部板を固定します。

7.15 背板の着脱

背板は取り外すことができます。



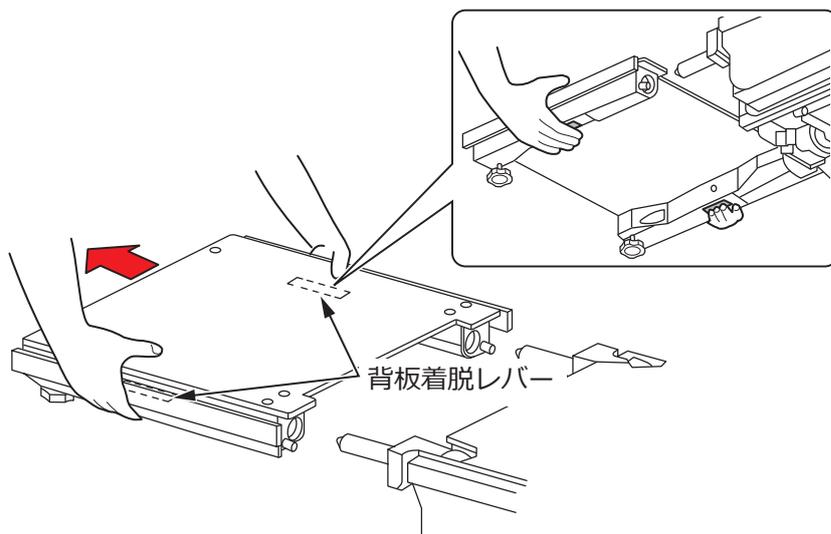
背板重量は 8 kg あるため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

■ 取り外す



頭部板を装着した状態で背板を取り外さないでください。落下してけがをするおそれがあります。

1. 背板下部の背板着脱レバーを左右同時に引き上げます。
2. 背板着脱レバーを引き上げたまま背板をしっかり持って、背板を真っ直ぐに引き出します。

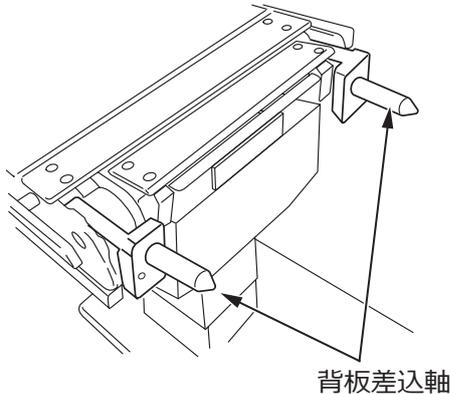


■ 取り付ける

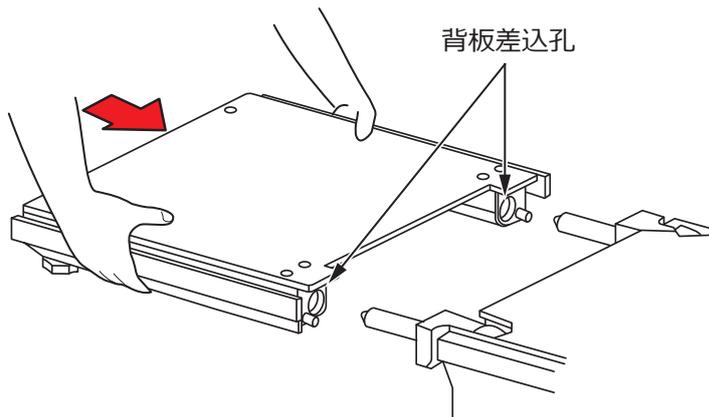


背板が完全に差し込まれていることを必ず確認してください。完全に差し込まずに使用すると、背板が動いて患者に障害がおきるおそれがあります。

1. 背板差込軸の左右位置がずれていないことを確認します。



2. 背板をしっかり持って、背板の差込孔を差込軸に合わせて差し込みます。



3. 背板を引いて、背板が完全に差し込まれていることを確認します。

補足

背板差込軸にはオプションの専用アクセサリを取り付けることができます。詳細は専用アクセサリの注意事項等情報または取扱説明書を参照してください。

補足

- 背板を外した状態で背板を操作すると、背板差込軸の左右位置にずれが生じて、背板が取り付けられなくなります。背板差込軸の左右位置がずれた場合は、次ページに記載されている手順に従い、背板を取り付けてください。
- 背板を取り付ける際に違和感がある場合、背板差込軸の左右位置がずれている可能性があります。無理に取り付けると取付不良や破損の原因になります。次ページに記載されている手順に従い、背板を取り付けてください。

■ 取り付ける

背板差込軸の左右位置がずれた場合は、以下の手順に従い、背板を取り付けてください。

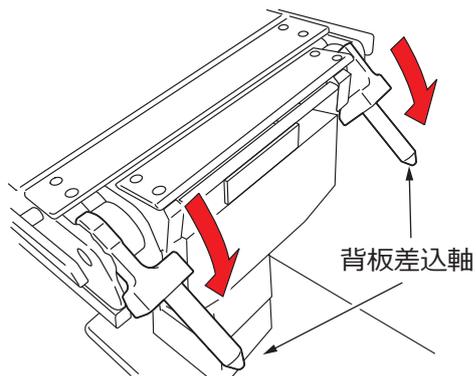


背板が完全に差し込まれていることを必ず確認してください。完全に差し込まずに使用すると、背板が動いて患者に障害がおきるおそれがあります。

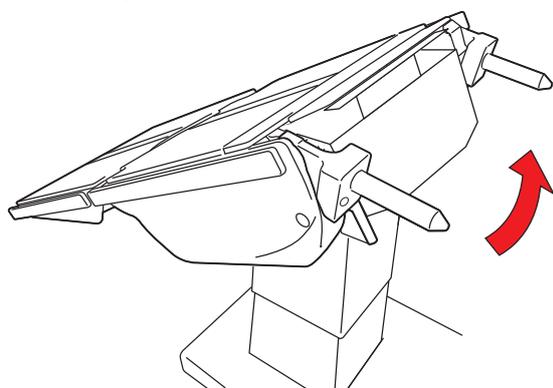
補足

背板差込軸にはオプションの専用アクセサリーを取り付けることができます。詳細は専用アクセサリーの注意事項等情報または取扱説明書を参照してください。

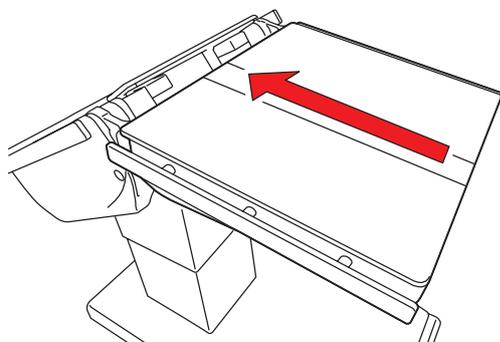
1. 背板差込軸が停止するまで、操作ボックスの  を押してから  を押します。



2. テーブルトップが停止するまで、操作ボックスの  を押してから  を押します。



3. 背板差込軸に背板を差し込みます。



4. 背板を引いて、背板が完全に差し込まれていることを確認します。

7.16 ダブル脚板 (オプション) の調節

ダブル脚板は展開および取り外しができます。



ダブル脚板は一枚の重量が 8.5 kg あるため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

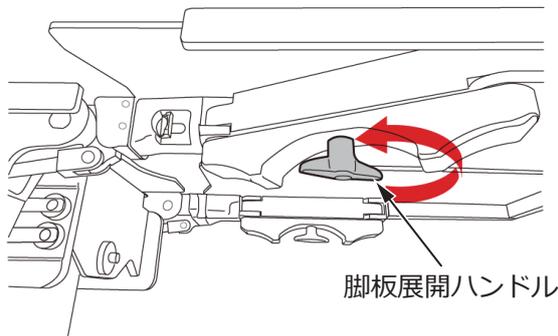
■ 展開させる

ダブル脚板は、外側に最大 42 度（第一関節中心、第二関節中心）展開できます。



- 展開操作中、操作域に指を入れないでください。けがをするおそれがあります。
- 脚板展開ハンドルは必ず締めてください。ゆるんだ状態では脚板が動いて患者に障害がおきるおそれがあります。

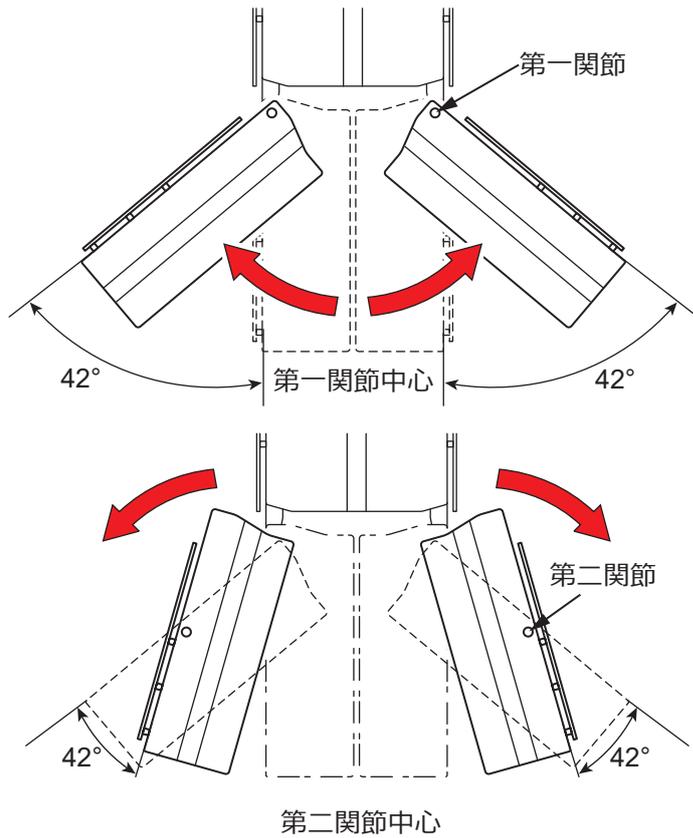
1. 脚板の先端を持ち、脚板下部にある脚板展開ハンドルを矢印の方向に回し、脚板の固定を解除します。



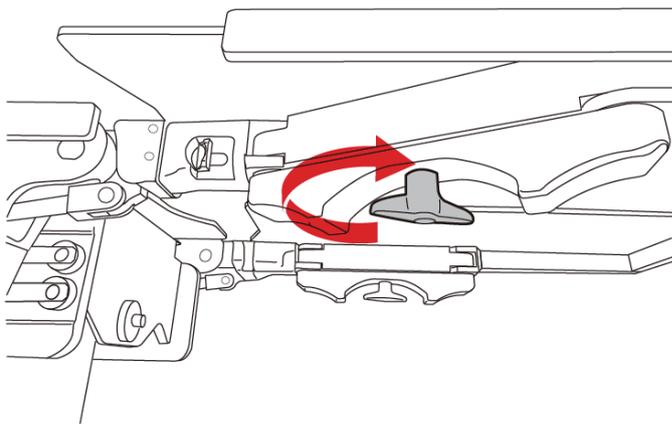
補足

脚板展開ハンドルは下に引きながら回すと、持ち手部分を任意の向きに変えることができます。

2. 手で希望する位置に脚板を動かします。

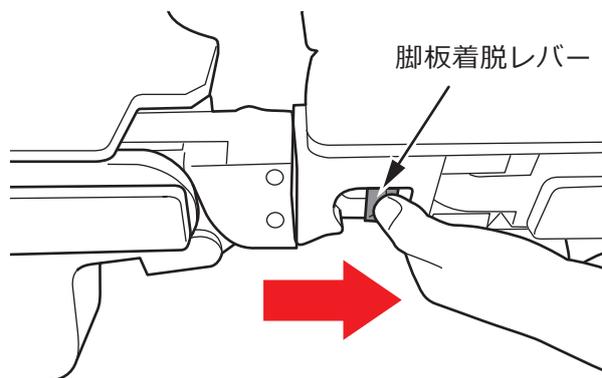


3. 脚板下部にある脚板展開ハンドルを矢印の方向に回し、脚板を固定します。



■ 取り外す

1. 脚板をしっかり持って、脚板着脱レバーを引きながら脚板を引き出します。



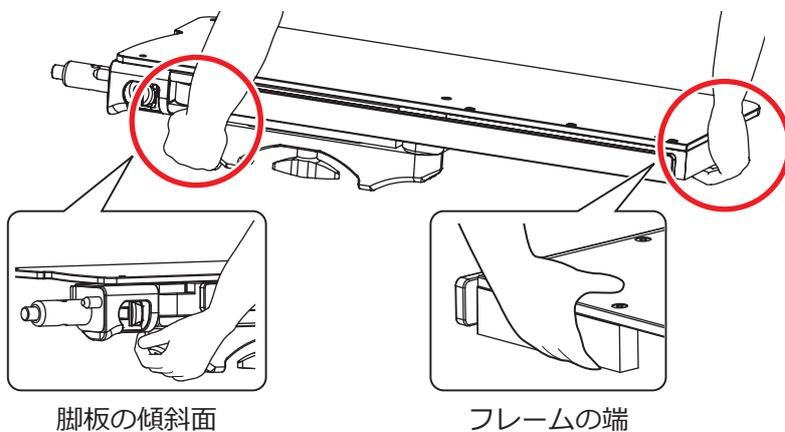
■ 取り付ける



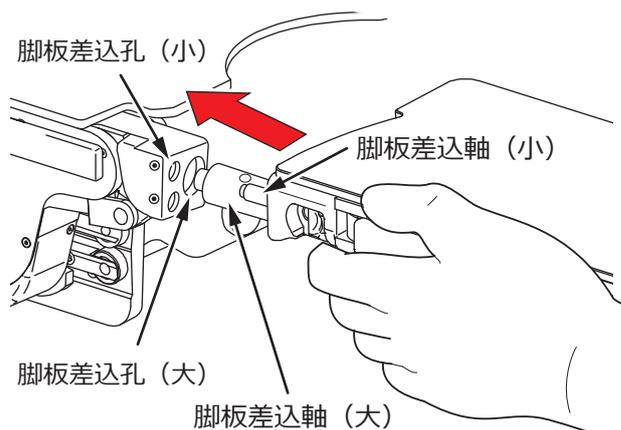
脚板を取り付けた後は、脚板を前後に揺すって脚板が完全に差し込まれていることを必ず確認してください。完全に差し込まずに使用すると、脚板が動いて患者に障害がおきるおそれがあります。

1. 脚板を両手でしっかり持ちます。

差込軸側の手は脚板の傾斜面、反対側の手はフレームの端を持ちます。



2. 脚板本体を水平にし、大小の脚板差込軸をそれぞれの脚板差込孔に合わせて差し込みます。



7.17 シングル脚板 (オプション) の着脱

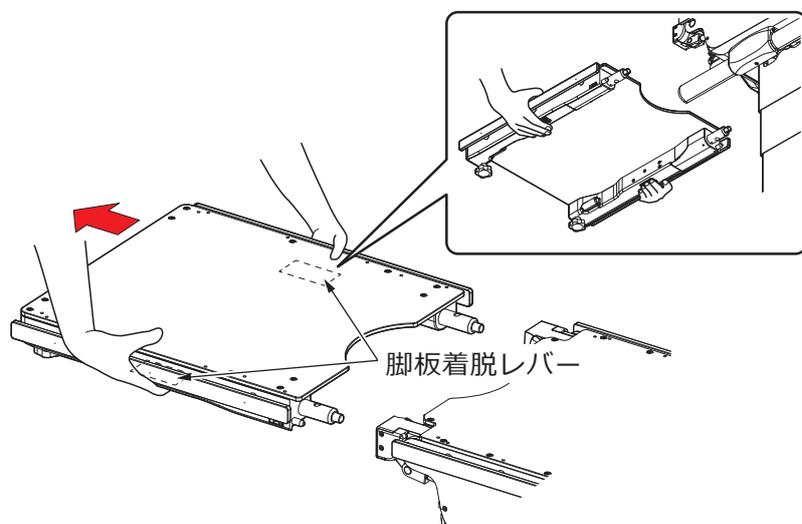
シングル脚板は取り外すことができます。



シングル脚板は重量が 10 kg あるため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

■ 取り外す

1. 脚板下部の脚板着脱レバーを左右同時に引き上げます。
2. 脚板着脱レバーを引き上げたまま脚板をしっかり持って、脚板を真っ直ぐに引き出します。

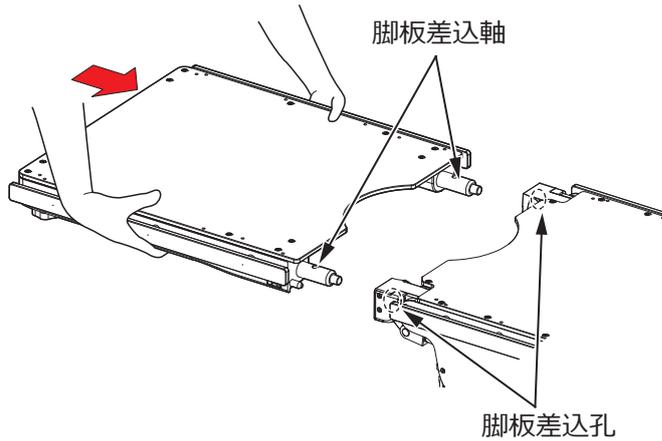


■ 取り付ける



脚板が完全に差し込まれていることを必ず確認してください。完全に差し込まずに使用すると、脚板が動いて患者に障害がおきるおそれがあります。

1. 脚板差込孔の左右位置がずれていないことを確認します。
2. 脚板をしっかり持って、脚板の差込軸を脚板差込孔に合わせて差し込みます。



3. 脚板を引いて、脚板が完全に差し込まれていることを確認します。

補足

脚板差込孔にはオプションの専用アクセサリーを取り付けることができます。詳細は専用アクセサリーの注意事項等情報または取扱説明書を参照してください。

補足

- 脚板を外した状態で脚板を操作すると、脚板差込孔の左右位置にずれが生じて、脚板が取り付けられなくなります。脚板差込孔の左右位置がずれた場合は、脚板屈折 (P.49) または自動水平復帰 (P.53) の操作を行い、脚板差込孔の位置を水平位置にしてください。
- 脚板を取り付ける際に違和感がある場合、脚板差込孔の左右位置がずれている可能性があります。無理に取り付けると取付不良や破損の原因になります。脚板屈折 (P.49) または自動水平復帰 (P.53) の操作を行い、脚板差込孔の位置を水平位置にしてから、脚板を取り付けてください。

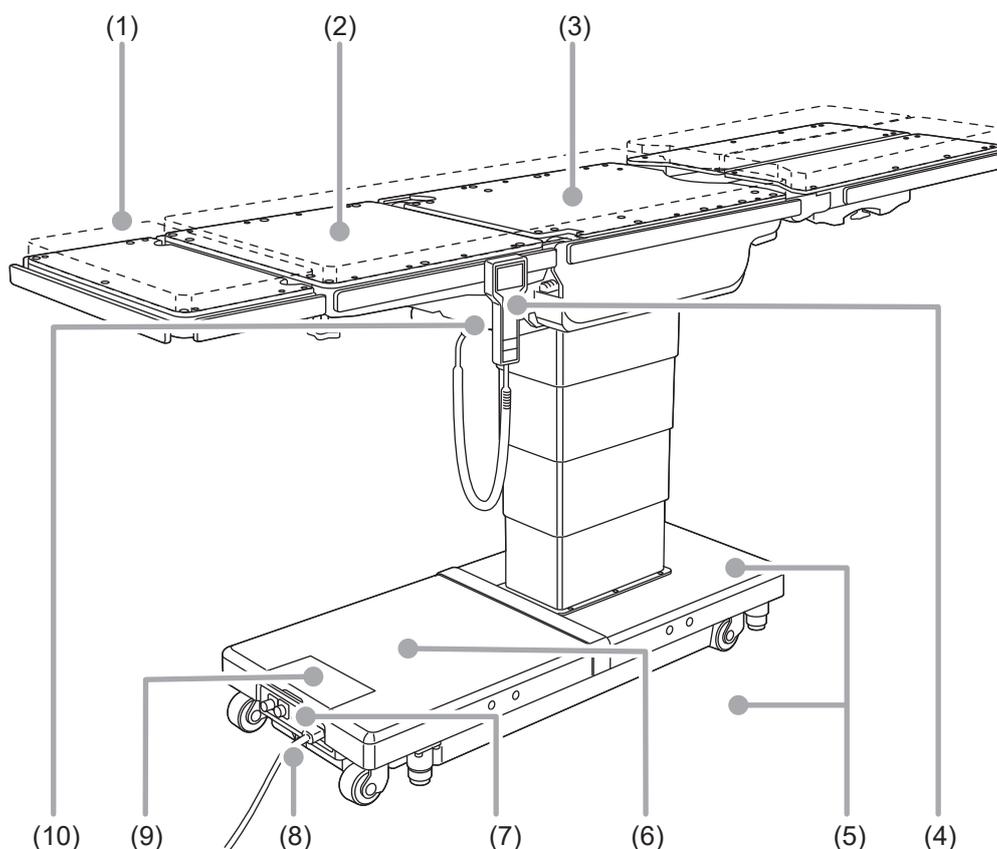
8章 保守と点検

8.1 使用前・使用後の点検



手術台の使用前および使用後は必ず点検事項を確認し、異常がある場合はご購入店または弊社に修理を依頼してください。手術に支障が生じるおそれがあります。

下記の事項を点検して、異常があればご購入店または弊社に修理を依頼してください。



(1) マットレス

● 使用前

すべてのマットレスに破損がないか。

● 使用後

すべてのマットレスに破損または汚れがないか。

(2) テーブルトップのガタ

● 使用前

背板両側を持って上下左右に揺すったときにガタがないか。

(3) テーブルトップ

● 使用前

すべてのテーブルトップに破損がないか。

● 使用後

すべてのテーブルトップに破損または汚れがないか。

(4) 操作ボックス

● 使用前

- ・操作ボックスの電源 ON スイッチを押して、PILOT ランプが点灯するか。
- ・操作ボックスの機能スイッチを押して、すべての機能が正常に作動するか。

(5) 油漏れ

● 使用前および使用後

床またはベース表面に作動油が付着していないか。

(6) バッテリー

● 使用前

バッテリーが充電されているか。

(7) 電源スイッチ

● 使用前

電源スイッチを ON にして、電源スイッチの LED ランプが点灯するか。

(8) 電源コードおよびプラグ

● 使用前

導線の露出またはプラグの破損がないか。

(9) タッチパネル

● 使用前

タッチパネルの機能スイッチを押して、すべての機能が正常に作動するか。

(10) 緊急停止スイッチ

● 使用前

緊急停止スイッチが正常に作動するか。

8.2 清掃・消毒



- 感染防止のため、手術台を使用した後は必ず手術台の清掃および消毒をしてください。
- 手術台を清掃・消毒するときは、必ず電源コードを抜いて電源を切ってください。手術台が動いてけがをするおそれがあります。



- 必ず弊社確認済みの消毒液等を使用してください。手術台が変色・変形するおそれがあります。
- タッチパネルのディスプレイ、保護カバーをシンナーなどの有機溶剤で拭かないでください。破損するおそれがあります。ディスプレイ、保護カバーを拭くときは、水で薄めた中性洗剤を使用してください。
- マットレスの清掃は、ファスナー部に液体が掛からないように行い、止水ファスナーに液体が掛かった場合は速やかに拭き取ってください。止水ファスナー部を濡れたままにすると内部に液体が浸入し、劣化の原因になります。

■ 清掃・消毒の手順

1. 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
2. 手術台からすべてのマットレスを取り外します。
3. 糸くずの出ない清潔な布に適量の消毒液等をつけて、各マットレスの上面・側面・裏面を拭きます。
4. 3と同様の手順で、各テーブルトップおよびサイドレール表面を消毒します。
5. 消毒後 15 分以内に清潔な布でから拭きします。

■ 消毒液等

弊社確認済みの消毒液等は以下のとおりです。

	薬品名称	濃度
a	次亜塩素酸ナトリウム	0.1%
b	ハイポアルコール	10%
c	グルコン酸クロルヘキシジン	0.5%
d	塩化ベンザルコニウム	10%
e	消毒用エタノール	80%
f	イソプロピルアルコール	99.5%

補足

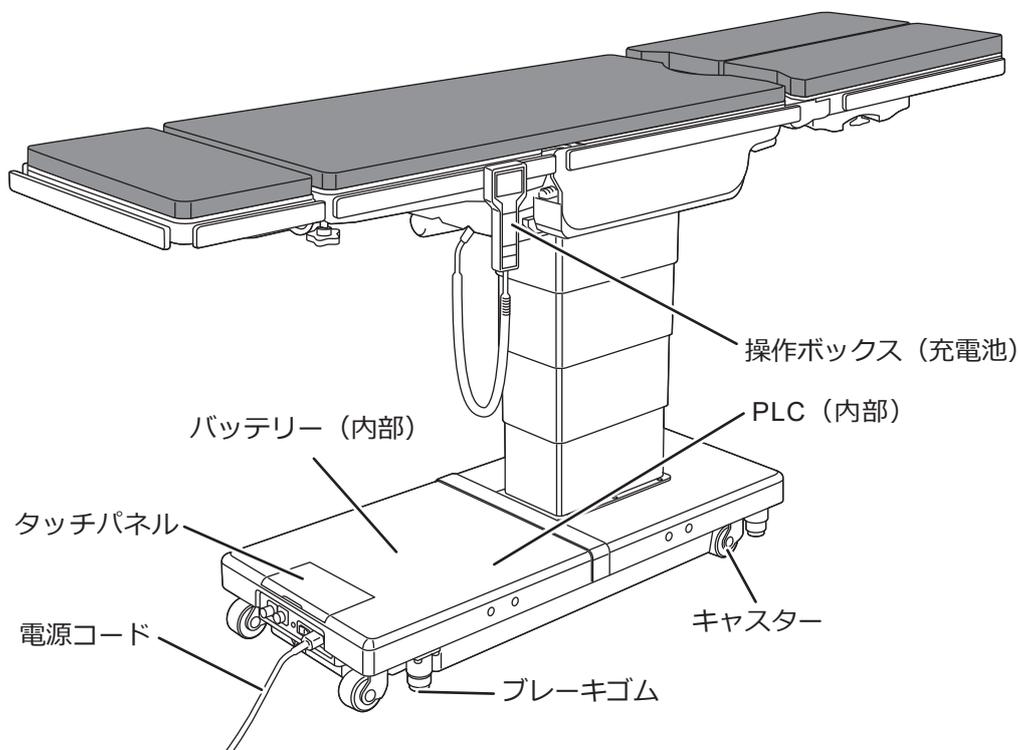
消毒液等の取扱説明書や表示に従って使用してください。

8.3 業者による保守点検事項

本機を安全に使用するために、弊社および弊社が認めた業者による年 1 回の定期点検を実施してください。それ以外の業者による保守・点検は、有害事象の発生、性能・機能の低下を招くおそれがあります。定期点検を希望される場合は、ご購入店または弊社にお問い合わせください。

8.4 定期交換部品

安全に使用していただくために、下記の部品を定期的に交換することを弊社で設定しております。交換時期は目安です。使用の状況または使用頻度によっては、早期に部品交換が必要となる場合があります。交換にあたっては、ご購入店または弊社に依頼してください。



部品名	交換時期
バッテリー	5年
操作ボックス	4～6年
キャスター	5～7年
ブレーキゴム	3～5年
電源コード	5～7年
充電電池 (操作ボックス)	2～3年
電池 (タッチパネル)	5年
電池 (PLC)	5年

補足

左記は目安の期間です。使用条件により交換時期が異なる場合があります。

8.5 ソフトウェアのバージョン情報

手術台に搭載されている制御ソフトウェアのバージョン情報は、基板に実装されているマイクロコンピュータ上に直接貼付されているラベルで確認することが可能です。



ソフトウェア・バージョン情報は、主にサービス担当、メンテナンス担当が必要に応じてアクセスします。確認するためにはベースカバーを開け、制御基板にアクセスする必要があります。

8.6 LAN コネクタ

■ 物理仕様

● 基本仕様

10BASE-T/100BASE-TX

● 内部ネットワーク

外部 LAN コネクタは手術台メインコントローラおよびタッチパネルインタフェースコントローラに、手術台内部に配置されたイーサネットハブを介して接続されています。

■ 機能仕様

● メンテナンス

外部 LAN コネクタは手術台作動ログなどメンテナンス情報を取得する際に使用されます。

● 外部システム接続

手術台は一般の外部機器、外部システムとの接続は想定しておらず、弊社が許可した機器、システム以外との接続は動作保証外となります。外部機器、外部ネットワークとの接続を希望する場合はお問い合わせください。

● デフォルト IP 設定

手術台メインコントローラ

- ・ IP アドレス : 192.168.3.250
- ・ サブネットマスク : 255.255.255.0

タッチパネルインタフェースコントローラ

- ・ IP アドレス : 192.168.3.1
- ・ サブネットマスク : 255.255.255.0

■ Bluetooth 仕様

● 基本仕様

Bluetooth バージョン v4.1

■ 機能仕様

● 操作ボックスワイヤレス接続

Bluetooth ワイヤレス通信は、手術台本体と操作ボックス間のデータ通信に使用されます。一般の Bluetooth 機器との接続は想定されていません。



注意

ワイヤレスモードを Bluetooth に切り替えると、手術台本体と操作ボックス間のデータ通信が Bluetooth ワイヤレス通信に切り替わります。お客様の施設の無線利用ルールでワイヤレス通信を認めない場合、本機能は使用しないでください。

また、同時に使用する医療機器に電波の影響が懸念される場合、Bluetooth ワイヤレス通信は使用しないでください。Bluetooth ワイヤレス通信を使用すると、他の医療機器に電波の干渉等の影響がある場合があります。

9 章 仕様

9.1 仕様表

販売名		手術台 MOT-VS700Uij		
分類	製造販売届出番号	13B1X00306N10314		
	類別	機械器具 1 手術台及び治療台		
	一般的名称・JMDN コード	汎用電動式手術台 36867020		
	クラス分類	一般医療機器 特定保守管理医療機器		
商品名		MOT-VS700Uij	MOT-VS700UKij	
電動	昇降範囲	最高位	1000 mm ± 10 mm	
		最低位	520 mm ± 10 mm	
	縦転角度	頭上がり	30° ± 2°	
		頭下がり	40° ± 2°	
	横転角度	左下がり	35° ± 2°	
		右下がり	35° ± 2°	
	背板屈折角度	上がり	90° ± 2°	
		下がり	40° ± 2°	
	スライド量：注1	頭方向	250 mm ± 10 mm	
		脚方向	415 mm ± 10 mm	
	脚板屈折角度	上がり	25° ± 2°	
		下がり	90° ± 5°	
	フレックス		フレックス/リフレックス	
	拳上器	最高位	—	150 mm ± 2 mm
	自動水平復帰		縦転/横転/背板屈折/脚板屈折/フレックス/ビーチチェア	縦転/横転/背板屈折/脚板屈折/フレックス/ビーチチェア/拳上
	その他		ビーチチェア/固定/解除	
操作機器	操作ボックス	昇降、縦転、横転、背板屈折、脚板屈折、スライド、フレックス、ビーチチェア、水平復帰、ブレーキ、Eスイッチ、ON/OFF、リバースモード、メモリー操作	昇降、縦転、横転、背板屈折、脚板屈折、スライド、フレックス、ビーチチェア、拳上、水平復帰、ブレーキ、Eスイッチ、ON/OFF、リバースモード、メモリー操作	
		昇降、縦転、横転、背板屈折、脚板屈折、スライド、フレックス、ビーチチェア、水平復帰、ブレーキ、リバースモード、メモリー操作、水平・中点位置一時停止モード	昇降、縦転、横転、背板屈折、脚板屈折、スライド、フレックス、ビーチチェア、拳上、水平復帰、ブレーキ、リバースモード、メモリー操作、水平・中点位置一時停止モード	
	フットスイッチ：注2	昇降、縦転、横転		
	緊急停止スイッチ	停止		
手動	頭部板屈折角度	上がり	60°	
		下がり	90°	

手動	脚板展開角度 (ダブル脚板装着時のみ)	第一関節中心：左右各 42° 第二関節中心：左右各 42°	
	取り外し	頭部板／背板／ダブル脚板 (左右)：注 2 / シングル脚板：注 2	
	その他	非常用ブレーキ解除ハンドル	
電氣的 定格	JIS T 0601-1 による分類	クラス I 機器 (内部電源機器：注 3) / B 形装着部 / IPX4	
	定格電源電圧	AC 100-240 V	
	定格電源周波数	50/60 Hz	
	バッテリー電源電圧	DC 24 V	
	バッテリー充電時間	最長 10 時間 (満充電した場合の累積作動時間：最大 60 分：注 13)	
	消費電力	600 VA	
	作動電圧	DC 24 V	
	作動時間 (1 回あたり)	3 分 ON、7 分 OFF：注 4	
	その他	除細動器からの回復 5 秒以内 本製品は EMC 規格 JIS T 0601-1-2：2023 に適合	
寸法	テーブルトップ寸法：注 5	本体 1441 mm (長) × 500 mm (幅) (ダブル脚板装着時) 2124 mm (長) × 500 mm (幅) (シングル脚板装着時) 2005 mm (長) × 500 mm (幅)	
	ベース寸法	1134 mm (長) × 483 mm (幅)：注 6	
質量	本体	373 kg	383 kg
	ダブル脚板装着時	390 kg	400 kg
	シングル脚板装着時	383 kg	393 kg
通過可能高さ・幅		高さ：10 mm / 幅：80 mm	
許容患者体重：注 10		昇降：450 kg / 昇降以外の作動：360 kg リバースモード：135 kg	
マットレス		耐除細動形装着部	
		難燃性：BS7177 マットレス、ソファの火炎試験 分類：中程度の危険性に適合 (Medium Hazard [5])	
		防水加工による製法：ウェルダ加工：注 11 止水ファスナー：注 12	
使用 環境	周囲温度範囲	10℃～40℃：注 9	
	相対湿度範囲	30%～75%：注 9	
	気圧範囲	700 hPa～1060 hPa：注 9	
	その他	標高 3000 m 以下で使用	
保輸 管送 条件 および	周囲温度範囲	-10℃～50℃：注 7	
	相対湿度範囲	10%～85% (結露なし)：注 7	
	気圧範囲	700 hPa～1060 hPa：注 7	
耐用期間		指定した保守点検および適切な保管をした場合 10 年：注 8	

注 1：中点位置から (サイドフレームとスライドシリンダーのラインが合致する位置)

注 2：オプション

注 3：バッテリー電源使用時

注 4：手術台の 1 回あたりの作動時間と休息时间

注 5：サイドレール部を除く

注 6：概略寸法

注 7：弊社基準

注 8：自己認証 (弊社データ) による

注 9：JIS T 0601-1 医用電気機器 - 第 1 部：基礎安全及び基本性能に関する一般要求事項：2023

注 10：患者体重およびアクセサリーの合計

注 11：縫製せず、熱によって溶着する加工

注 12：防水性を高めたファスナー

注 13：使用状況による

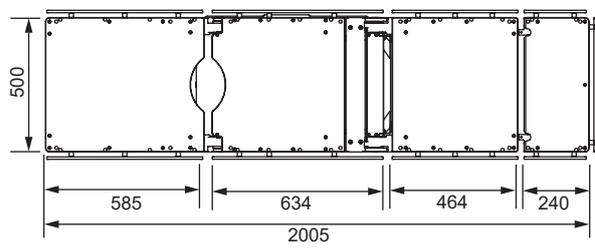
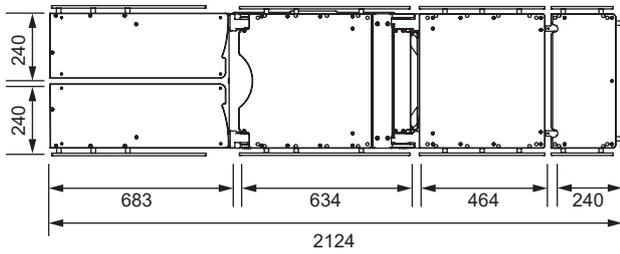
9.2 外観図

MOT-VS700UKij

(単位：mm)

ダブル脚板装着

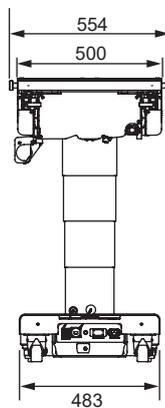
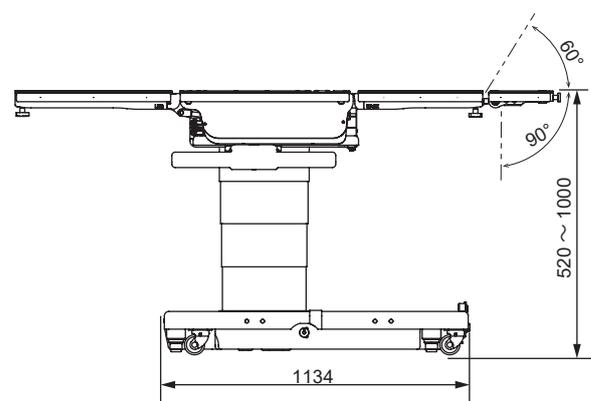
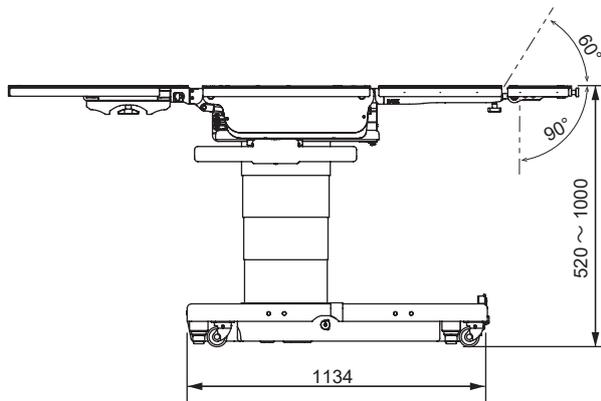
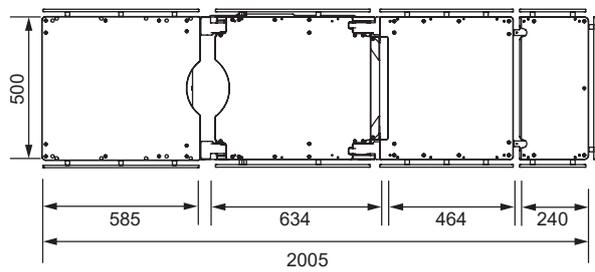
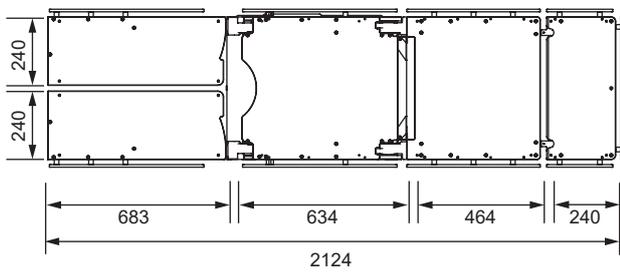
シングル脚板装着



MOT-VS700Uij

ダブル脚板装着

シングル脚板装着



10章 トラブルシューティング

10.1 操作ボックスが使えないときは

■ タッチパネルで手術台を操作する

操作ボックスが故障等で使用できないときは、タッチパネルの BACK-UP CONTROLS 画面で手術台を操作することができます。

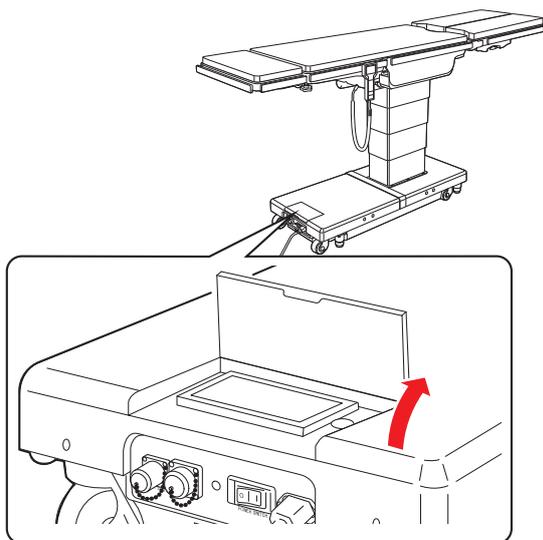


- タッチパネルの BACK-UP CONTROLS は緊急時のみ使用してください。
- タッチパネルを操作するときは、常に手術台の動きを監視してください。タッチパネルは作動制限機能が働かないため、他の部品に接触するおそれがあります。
- 他の部品と接触したときは、直ちに操作を中止してください。破損の原因になります。

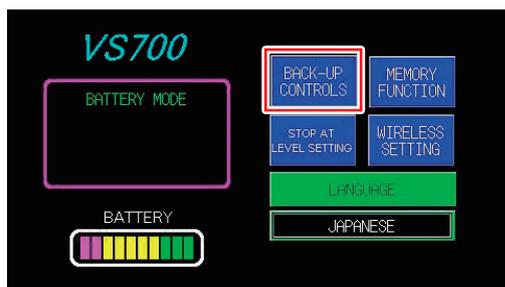
補足

BACK-UP CONTROLS の操作では「接触注意」の警告はタッチパネルに表示されません。

1. タッチパネルの保護カバーを開けます。



2. タッチパネルのトップ画面を表示します。
3. 「BACK-UP CONTROLS」をタップします。



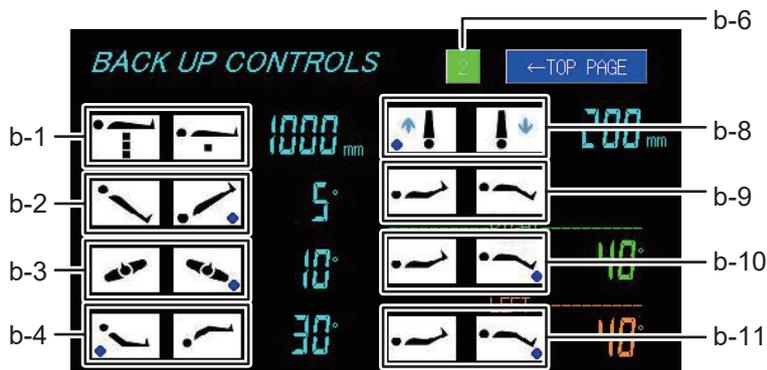
「BACK-UP CONTROLS」画面が表示されます。

補足

タッチパネルのトップ画面を表示する手順は、P.17 を確認してください。

4. 動かしたい方向のスイッチを押します。

● BACK-UP CONTROLS 画面 (1/2 ページ)



補足

- タッチパネルはスイッチを押している間作動します。
- 各機能は最大限に達すると作動が停止します。
- タッチパネルはメモリーの記録位置や水平・中点位置で一時的に停止しません。

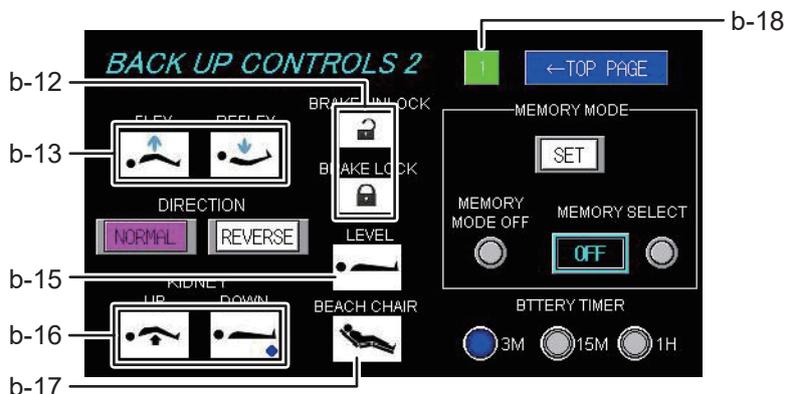
番号	名称	番号	名称
b-1	昇降 (上昇/下降)	b-6	ページ切り替え
b-2	縦転 (頭上がり/頭下がり)	b-8	スライド (脚方向/頭方向)
b-3	横転 (左下がり/右下がり) : *1	b-9	脚板屈折 (上がり/下がり) : *2
b-4	背板屈折 (上がり/下がり)	b-10	右脚板屈折 (上がり/下がり) : *3
		b-11	左脚板屈折 (上がり/下がり) : *3

*1 : 頭側から見て

*2 : シングル脚板またはダブル脚板左右同時

*3 : ダブル脚板装着時のみ表示

● BACK-UP CONTROLS 画面 (2/2 ページ)



番号	名称	番号	名称
b-12	ブレーキ (解除/固定)	b-18	ページ切り替え
b-13	フレックス/リフレックス		
b-15	水平復帰		
b-16	拳上器 (上昇/下降) : *4		
b-17	ビーチチェア		

*4 : MOT-VS700UKlj のみ

10.2 ブレーキが解除できないときは



- 患者を手術台に乗せた状態で、非常用ブレーキ解除ハンドルを操作しないでください。転倒・けがのおそれがあります。
- 非常用ブレーキ解除ハンドルが UNLOCK の状態でタッチパネルを操作して手術台を作動させないでください。転倒・けがのおそれがあります。



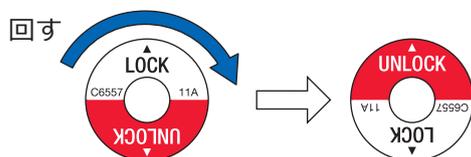
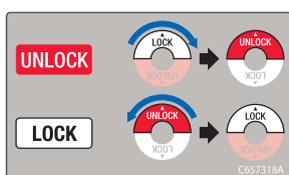
非常用ブレーキ解除ハンドルを UNLOCK にした後は、必ず LOCK に戻してください。戻さないと操作ボックスでの操作ができません。

■ 非常用ブレーキ解除ハンドルでブレーキを解除する

手術台の電気系統に異常が起きた場合は、非常用ブレーキ解除ハンドルの操作で手術台を移動することができます。

ブレーキを解除するときは以下の手順で操作します。

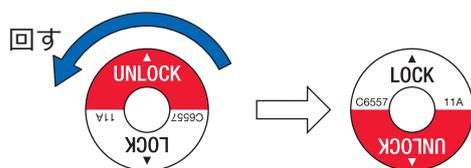
1. 非常用ブレーキ解除ハンドルを時計方向(右回り)に回します。
ブレーキが解除されます。



■ 手術台を再度固定する

電気系統の異常が直った後、改めて使用する場合は、以下の手順で手術台を再度固定します。

1. 非常用ブレーキ解除ハンドルを反時計方向(左回り)に回します。



2. 操作ボックスの  を押してから  を押します。
手術台が固定されます。

10.3 エラー・警告が表示されたときは

エラー・警告がタッチパネルと表示モニターに表示されたときは、以下の対策を見て、対応してください。

■ タッチパネルおよび表示モニターに表示されるエラー・警告

メッセージ	考えられる原因および対策
01. ソレノイドオーバーヒート	バルブのサーマルスイッチが働いています。30分ほど待つてから使用してください。
02. テーブル接触注意（頭部板又は背板）	頭部板または背板が、手術台または床に接触します。
03. テーブル接触注意（腰部）	腰板部が手術台に接触します。
04. テーブル接触注意（脚板）	脚板が手術台または床に接触します。
05. ポンプモーター故障	ポンプモーターが故障しています。修理を依頼してください。
06.AC 電源故障	AC 電源が故障しています。修理を依頼してください。
07. 内部ヒューズ溶断	ヒューズが溶断しています。修理を依頼してください。
08. 緊急停止スイッチ作動	緊急停止スイッチが押されています。リセットする前に患者とスタッフの安全を確保してください。
09. バッテリー残量なし	バッテリーの残量がありません。使用する前に充電してください。
10. 手術台固定異常	手術台の固定ができません。手動解除ブレーキ ^(注) が「LOCK」の状態になっていることを確認してください。 注：非常用ブレーキ解除ハンドル
11. 操作ボックス通信異常	操作ボックスと通信できません。タッチパネルまたは赤外線リモコンを使用してください。
13. メイン基板通信エラー	メイン基板が異常です。修理を依頼してください。
14. センサー基板通信エラー	センサー基板が異常です。修理を依頼してください。
16. ポンプモーターオーバーヒート	ポンプモーターのサーマルスイッチが働いています。30分ほど待つてから使用してください。
17. メイン基板電源異常	メイン基板が異常です。修理を依頼してください。
18. ワイヤレスリモコンコードエラー	タッチパネルでコード番号を合わせてください。
21. 操作ボックス、フットスイッチ受信エラー	操作ボックス、フットスイッチでは作動できません。タッチパネルまたは赤外線リモコンを使用してください。
22. バッテリー残り僅か	バッテリー残量が少なくなっています。充電してください。
24. センサーエラー（昇降）	昇降のセンサーが異常です。修理を依頼してください。
25. センサーエラー（縦横転）	縦横転のセンサーが異常です。修理を依頼してください。
27. センサーエラー（背板）	背板のセンサーが異常です。修理を依頼してください。
28. センサーエラー（スライド）	スライドのセンサーが異常です。修理を依頼してください。
29. センサーエラー（右脚板）	右脚板のセンサーが異常です。修理を依頼してください。
30. センサーエラー（左脚板）	左脚板のセンサーが異常です。修理を依頼してください。
31. 操作ボックス無接続	操作ボックスが接続されていません。

メッセージ	考えられる原因および対策
33. メモリー機能無効	センサー機能に異常があるため、メモリー機能は使用できません。
36. 転倒注意	転倒の危険性があります。
37. 転倒警告	転倒の危険性が極めて高いです。
38. テーブル安定性プログラム異常	転倒検知プログラムが異常です。修理を依頼してください。
39. テーブル安定性プログラム出力異常	転倒検知プログラムが異常です。修理を依頼してください。
43. テーブル接触注意 (スライドシリンダー)	スライドシリンダーが手術台に接触します。
46. バッテリー通信エラー	バッテリーと通信できません。修理を依頼してください。
47. 赤外線モード操作禁止	リバースモード時に赤外線モードでは使用できません。
48. バッテリー発熱警告	使用を直ちに停止し、修理を依頼してください。
49. 「FLEX」操作禁止	リバースモード時にフレックス、リフレックス、ビーチチェアの操作はできません。

■ 表示モニターにのみ表示されるエラー・警告

表示モニター	対策
Panel Err.	タッチパネルと通信できません。ご購入店または弊社に修理を依頼してください。

11 章 修理を依頼する前に

■ 原因・対策を確認する

以下の状態は故障ではない場合があります。修理を依頼する前にもう一度原因・対策を確認してください。

状態	考えられる原因	対策
電源が入らない	操作ボックスのコネクタを完全に差し込んでいない	コネクタを完全に差し込んでください (→ P.24)
	バッテリーの完全放電	バッテリーを充電してください (→ P.31)
操作ボックスの機能スイッチを押しても作動しない	操作ボックスのコネクタを完全に差し込んでいない	コネクタを完全に差し込んでください (→ P.24)
	Eスイッチを押してから機能スイッチを押していない	Eスイッチを押してから機能スイッチを押してください (→ P.43 ~ P.53、P.62)
	モーターがオーバーヒートしている	約 30 分待ってから操作してください (→ P.79)
手術台を固定できない	非常用ブレーキ解除ハンドルが UNLOCK の状態	非常用ブレーキ解除ハンドルを LOCK にしてください (→ P.78)
背板が水平位置より下に屈折できない	テーブルトップが中点位置より脚側にスライドしている	テーブルトップ中点を中点位置より頭側へスライドしてください (→ P.48)
テーブルトップが中点位置より脚側にスライドできない	背板が水平位置より下にある	背板を水平位置より上に上げてください (→ P.46)
フレックスが作動しない	テーブルトップが中点位置より脚側にスライドしている	テーブルトップ中点を中点位置より頭側へスライドしてください (→ P.48)
脚板が水平位置から下へ下がらない	テーブルトップの位置が脚板の干渉危険域にある	テーブルトップの位置を脚側へスライドしてください (→ P.48)
背板の左右の高さがずれている	背板差込軸の左右位置がずれている	1. 背板を最大角度になるまで上げた後、最大角度になるまで下げてください 2. 自動水平復帰をしてください (→ P.46、P.53)
脚板の左右の高さがずれている	脚板差込孔の左右位置がずれている	1. 脚板を最大角度になるまで上げた後、最大角度になるまで下げてください 2. 自動水平復帰をしてください (→ P.49、P.53)
手術台を固定した状態でブレーキランプが緑色にならない	低温下でのブレーキ検知センサーの反応遅れ	ブレーキ固定操作を繰り返してください (→ P.43)
操作ボックスがワイヤレスで使用できない	操作ボックスの内蔵バッテリーの残量が無い	操作ボックスを手術台に有線接続し、充電してください (→ P.26)
	無線の赤外線モードと Bluetooth モードの切り替え処理のタイムアウトが発生した	バッテリー電源で使用中に、タッチパネルの WIRELESS SETTING 画面から BT モードに切り替えた後に、強制終了スイッチを 3 秒以上押し続けて手術台を強制終了させてください (→ P.36)
	手術台側の Bluetooth モジュールが接続可能な状態にない	

状態	考えられる原因	対策
タッチパネルに特殊なエラー表示画面が表示される(→P.21)	タッチパネルの通信エラー タッチパネルのメモリーエラー	電源を切り、入れ直してください(→P.27)
電源を入れてもタッチパネルに何も表示されない		それでも特殊なエラー表示画面が表示される、またはタッチパネルに何も表示されない場合は、ご購入店または弊社に修理を依頼してください

上記の対策を行っても状態が改善されない場合は、ご購入店または弊社に修理を依頼してください。

■ 故障時の対応



- 修理は弊社および弊社が認めた業者が行います。必ずご購入店または弊社に修理を依頼してください。
- 分解しないでください。火災・感電・故障の原因になります。
- 感染防止のため、修理を依頼するときは必ず手術台の清掃および消毒をしてください。

手術台が故障したときは、以下の処置をしてください。

1. 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
2. 手術台本体に「故障」・「使用禁止」等の表示をします。

付録 -1 EMC (電磁両立性) について

本書で示している EMC 情報に従って設置、使用をお願いします。



- 弊社指定の付属品以外は使用しないでください。
エミッションの増加またはイミュニティの低下を招くおそれがあります。
- 他の機器と隣接または積み重ねて使用しないでください。
電磁的干渉により正常に作動しないおそれがあります。
- 併用する他の医用電子機器 (特に生命維持装置) は、予め電磁的干渉による誤作動が起きないことを確認の上使用してください。
電磁的干渉により正常に作動しないおそれがあります。

電磁放射に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言

MOT-VS700Uij/VS700UKIj は、以下に指定した電磁的環境内での使用を意図している。MOT-VS700Uij/VS700UKIj の顧客または使用者は、このような環境内で使用されることを確認することが望ましい。

電磁的干渉測定	適合性	電磁的環境—ガイドライン
高周波放出 IEC 61000-3-2	クラス A	MOT-VS700Uij/VS700UKIj は、住宅環境および住宅環境の建物に電力を供給する公共の低電圧配電系に直接接続された施設を除く、すべての施設での使用に適している。
電圧変動/ フリッカによる放出 IEC 61000-3-3	適合	
RF 放射 CISPR11	クラス A	
RF 放射 CISPR11	グループ 1	MOT-VS700Uij/VS700UKIj は、内部機能のためにのみ RF エネルギーを使用している。したがって、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は非常に低いものと考えられる。

電磁環境耐性に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言

MOT-VS700Uij/VS700UKIj は、以下に指定した電磁的環境内での使用を意図している。MOT-VS700Uij/VS700UKIj の顧客または使用者は、このような環境内で使用されることを確認することが望ましい。

電磁環境耐性検査	IEC 60601 検査レベル	適合性レベル	電磁的環境—ガイドライン
静電気放電 (ESD) IEC 61000-4-2	± 8 kV 接触放電 ± 2 ; 4 ; 8 ; 15 kV 気中放電	± 8 kV 接触放電 ± 2 ; 4 ; 8 ; 15 kV 気中放電	床は、木材、コンクリートまたはセラミックタイルであることが望ましい。 床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は少なくとも 30% であることが望ましい。
高速過渡電気障害/ バースト IEC 61000-4-4	± 2 kV 電源ライン ± 1 kV 入出カライン	± 2 kV 電源ライン ± 1 kV 入出カライン	電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。
サージ電圧 IEC 61000-4-5	± 0.5 ; 1 kV ノーマルモード電圧 ± 0.5 ; 1 ; 2 kV コモンモード電圧	± 0.5 ; 1 kV ノーマルモード電圧 ± 0.5 ; 1 ; 2 kV コモンモード電圧	電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。
電圧の降下、短時間 停電および電源電圧 の変動 IEC 61000-4-11	0% U_T 0.5 サイクル 0% U_T 1 サイクル 70% U_T 25/30 サイクル 0% U_T 250/300 サイクル	0% U_T 0.5 サイクル 0% U_T 1 サイクル 70% U_T 25/30 サイクル 0% U_T 250/300 サイクル	電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。 MOT-VS700Uij/VS700UKIj の顧客または使用者が主電源の遮断時にも操作を継続する必要がある場合は、MOT-VS700Uij/VS700UKIj に無停電電源装置またはバッテリーから電源を供給することが望ましい。
電源周波数 (50/60 Hz) 磁界 IEC 61000-4-8	30 A/m	30 A/m	電源周波数磁界は、標準的な商用または病院環境における一般的な場所と同レベルの特性を持つことが望ましい。

注記： U_T は、検査レベル適用前の交流電源電圧である。

電磁環境耐性に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言（続き）

電磁環境耐性検査	IEC 60601 検査レベル	適合性レベル	電磁的環境—ガイドライン																																																															
放射 RF により誘導された伝導性妨害 IEC 61000-4-6	150 kHz ~ 80 MHz 3 V ISM 周波数帯 6 V	150 kHz ~ 80 MHz 3 V ISM 周波数帯 6 V	<p>携帯形および移動形 RF 通信機器（アンテナまたはケーブルを含む無線機器）は、MOT-VS700UIj/VS700UKIj のいかなる部分に対しても、30 cm（または 12 インチ）の推奨安全距離より近づけて使用しないことが望ましい。</p> <p>電磁界の現地調査によって決定する固定 RF 送信機からの電界強度は、各周波数範囲における適合性レベル 3 V/m よりも低いことが望ましい。</p> <p>以下の記号を表示している機器の近傍では干渉が生じる可能性がある。</p> 																																																															
放射 RF による干渉 IEC 61000-4-3	80 MHz ~ 2.7 GHz 3 V/m ワイヤレス通信 周波数帯 <table border="1"> <thead> <tr> <th>V/m</th> <th>MHz</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>27</td><td>385</td></tr> <tr><td>28</td><td>450</td></tr> <tr><td>9</td><td>710</td></tr> <tr><td>9</td><td>745</td></tr> <tr><td>9</td><td>780</td></tr> <tr><td>28</td><td>810</td></tr> <tr><td>28</td><td>870</td></tr> <tr><td>28</td><td>930</td></tr> <tr><td>28</td><td>1720</td></tr> <tr><td>28</td><td>1845</td></tr> <tr><td>28</td><td>1970</td></tr> <tr><td>28</td><td>2450</td></tr> <tr><td>9</td><td>5240</td></tr> <tr><td>9</td><td>5500</td></tr> <tr><td>9</td><td>5785</td></tr> </tbody> </table>	V/m		MHz	27	385	28	450	9	710	9	745	9	780	28	810	28	870	28	930	28	1720	28	1845	28	1970	28	2450	9	5240	9	5500	9	5785	80 MHz ~ 2.7 GHz 3 V/m ワイヤレス通信 周波数帯 <table border="1"> <thead> <tr> <th>V/m</th> <th>MHz</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>27</td><td>385</td></tr> <tr><td>28</td><td>450</td></tr> <tr><td>9</td><td>710</td></tr> <tr><td>9</td><td>745</td></tr> <tr><td>9</td><td>780</td></tr> <tr><td>28</td><td>810</td></tr> <tr><td>28</td><td>870</td></tr> <tr><td>28</td><td>930</td></tr> <tr><td>28</td><td>1720</td></tr> <tr><td>28</td><td>1845</td></tr> <tr><td>28</td><td>1970</td></tr> <tr><td>28</td><td>2450</td></tr> <tr><td>9</td><td>5240</td></tr> <tr><td>9</td><td>5500</td></tr> <tr><td>9</td><td>5785</td></tr> </tbody> </table>	V/m	MHz	27	385	28	450	9	710	9	745	9	780	28	810	28	870	28	930	28	1720	28	1845	28	1970	28	2450	9	5240	9	5500	9
V/m	MHz																																																																	
27	385																																																																	
28	450																																																																	
9	710																																																																	
9	745																																																																	
9	780																																																																	
28	810																																																																	
28	870																																																																	
28	930																																																																	
28	1720																																																																	
28	1845																																																																	
28	1970																																																																	
28	2450																																																																	
9	5240																																																																	
9	5500																																																																	
9	5785																																																																	
V/m	MHz																																																																	
27	385																																																																	
28	450																																																																	
9	710																																																																	
9	745																																																																	
9	780																																																																	
28	810																																																																	
28	870																																																																	
28	930																																																																	
28	1720																																																																	
28	1845																																																																	
28	1970																																																																	
28	2450																																																																	
9	5240																																																																	
9	5500																																																																	
9	5785																																																																	
<p>注記：このガイドラインはすべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収および反射は電磁波の伝搬に影響する。</p>																																																																		
<p>例えば、無線（携帯／コードレス）電話および移動式地上無線の基地局、アマチュア無線、AM・FM ラジオ放送および TV 放送のような固定送信機からの電界強度を、正確に理論的に予測をすることはできない。固定 RF 送信機による電磁的環境を確認するためには、電磁界の現地調査を考慮することが望ましい。MOT-VS700UIj/VS700UKIj を使用する場所において測定した電界強度が上記の適用する RF 適合性レベルを超える場合は、MOT-VS700UIj/VS700UKIj が正常に作動するかを検証するために監視することが望ましい。異常作動を確認した場合には、MOT-VS700UIj/VS700UKIj の向きを変える、または位置を動かすなどの追加対策が必要となる。</p>																																																																		

付録 -2 用語解説

横転

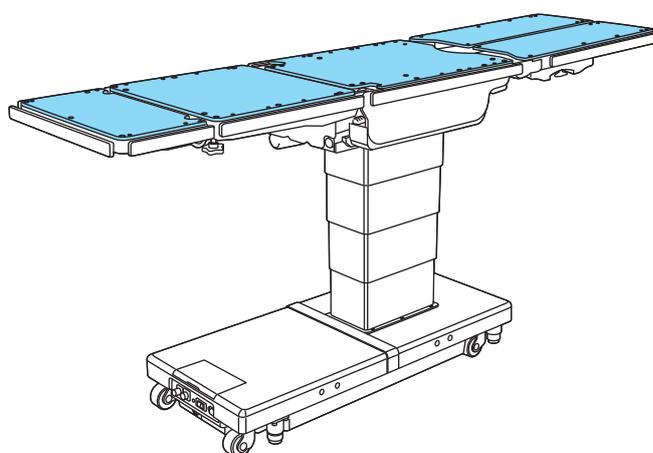
手術台のテーブルトップを左下がりまたは右下がりの位置に操作すること。

縦転

手術台のテーブルトップを頭上がりまたは頭下がりの位置に操作すること。

テーブルトップ

下図の青色の部分。

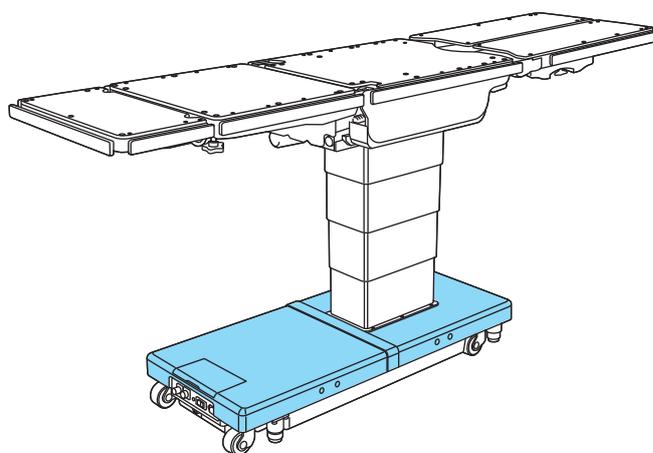


フレックス/リフレックス

手術台の背板を上または下に屈折させるとともに腰板を頭上がりまたは頭下がりの位置にして、テーブルトップ全体を「への字」または「逆への字」の状態に操作すること。

ベース

下図の青色の部分。



ミズホ株式会社

<https://www.mizuho.co.jp>

■ **本社** 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-30-13
販売事業部 TEL 03-3815-3097 FAX 03-3813-5068

■ 営業拠点

北海道センター 〒 060-0807 札幌市北区北 7 条西 2-6 37 山京ビル 2F
TEL 011-716-4731 FAX 011-716-4803

東北センター 〒 980-0014 仙台市青葉区本町 1-11-2 SK 仙台ビル 2F
TEL 022-227-1688 FAX 022-227-1698

新潟センター 〒 951-8068 新潟市中央区上大川前通七番町 1230-7 ストークビル鏡橋 6F
TEL 025-229-5458 FAX 025-222-4684

北関東センター 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-30-13
TEL 03-3815-3193 FAX 03-3815-1280

東海センター 〒 464-0075 名古屋市千種区内山 3-17-4 スズシン第 2 ビル 3F
TEL 052-732-7130 FAX 052-732-7131

関西センター 〒 550-0004 大阪市西区靱本町 1-10-24 三共本町ビル 7F
TEL 06-6444-3840 FAX 06-6444-3860

中国センター 〒 730-0029 広島市中区三川町 7-7 三川町パーキングビル 13F
TEL 082-241-8826 FAX 082-241-8836

九州センター 〒 812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-1-1 ZENNO 筑紫通ビル 5F
TEL 092-431-5022 FAX 092-474-4483

■ 関東圏 販売網（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）

ミズホアーバン株式会社 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-29-3
TEL 03-3811-0350 FAX 03-3811-1880

■ アフターサービスカスタマーセンター 〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13

訪問修理受付 TEL 043-481-3367 FAX 043-481-3374
預り修理受付 TEL 043-481-3368 FAX 043-481-3375

■ ミズホショールーム 〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13

○お問い合わせは営業担当までお願い致します。

■ 工場

千葉工場 〒 285-0808 千葉県佐倉市太田 2173-13
五泉工場 〒 959-1821 新潟県五泉市赤海 3631-14